

鯨鯨
乳中

高知県立高知工業高等学校

表紙書 岸之上守代司

装丁 大野良一

扉書 岸之上守代司

装丁 大野良一





高知工業学校校旗

高知工業学校校歌

作詞 工業学校教諭 岡林 九敏
校閲 早稲田大学教授 相馬 御風
作曲 市第三小訓導 岡 寛

一、鯨鯢吼ゆる南溟の

怒濤逆巻く快天地

万岳の翠北に負い

ここに生れし健男児

二、富国の基は工業の

発展進歩にあるぞとて

偉人の遺せし勲業ぞ

我が学舎に輝ける

三、火頭水身両翼の

校旗の光燦として

集える健児一千余

向上の意気天を衝く

四、学界彼岸は遠くとも

勇往邁進たゆみなく

造化の宝庫開き得て

いざや尽くさん国のため



高知工業高校校旗

高知工業高校校歌

作詞 校歌作成委員会
作曲 平井康三郎

一、筆山のみどりに映えて

城南の空かがやく朝

たくましく科学の力

建設の息吹いさまし

工業地帯

わが学び舎の希望の窓に

おお雲が呼ぶ 雲が呼ぶ

二、伝統の美風をまもり

集う若人ころは燃えて

あたらしき技術を磨く

この理想つねにかわらじ

工業高知

わが学び舎の甍の上に

おお虹が立つ 虹が立つ

三、身をきたえあこがれ清く

羽搏かんいざいざ火水鳥

たゆみなぎ生産の歌

大空にひびけとどろけ

工業日本

わが学び舎の誇りも高く

おお旗が鳴る 旗が鳴る

(29年11月10日制定)

高知県立高知工業高等学校沿革

平成4年11月

1. 名 称 高知県立高知工業高等学校
 2. 所 在 地 高知市棧橋通2丁目11番6号(電話高知31-9171番)
 3. 沿 革
- | 年 月 日 | 記 事 |
|------------|---|
| 明治41. 6.18 | 敷地2,467坪1合9勺(高知市北与力町)を購入 |
| 45. 2. 8 | 私立高知工業学校設置申請及び同財団法人設立申請をなす |
| 3.11 | 財団法人設立の件及び学校設置の件許可せらる |
| 3.11 | 学則第2条 本校に本科及び予科をおき本科を分ちて機械科及び電気科とする
第3条 修業年限は本科3カ年、予科2カ年とする |
| 5. 14 | 吉崎七次郎氏校長事務取扱となる |
| 5. 4 | 県公会堂に於いて開校式を挙(之れより本校開校記念日を5月4日と定む) |
| 大正元. 9. 5 | 校舎1棟新築落成 鑄造工場、鍛冶工場新築落成108坪 |
| 2. 5.22 | 校地159坪5合7勺を買収 |
| 3. 3.31 | 新築校舎全部完成(建坪250坪) |
| 4.10. 1 | 校長事務取扱吉崎七次郎氏校長に昇任、第2工場新築工事に着手建坪108坪 |
| 5. 2. 4 | 文部省告示第13号を以て徴兵令第13条並びに文官任用令第6条第1号により中学校程度同等以上と認定せらる |
| 5. 4 | 採鋁冶金科設置さる |
| 6. 3.23 | 第1回卒業式を挙(行) |
| 4. 1 | 応用化学科をおく |
| 4. 1 | 技術員養成所を増設(入学資格高小卒、修業年限5カ年) |
| 4.10 | 2階建校舎1棟落成(建坪170余坪) |
| 9. 1 | 東北隣地361坪を買収 |
| 9. 3.18 | 生徒定員を本科240名、予科200名に変更の件文部大臣の認可を受く |
| 3.26 | 此の日高知工業学校と名称変更の件認可なる |
| 4. 1 | 採鋁冶金科を廃止 |
| 11. 4. 1 | 此の年度より予科本科の別を廃し修業年限5カ年となる |
| 12. 4. 1 | 大正11年末日を以て財団法人私立高知工業学校を解散し竹内氏経営の手を離れて高知県に移管し此の日より高知県立高知工業学校と改称し生徒定員500名となる |
| 15. 5. 4 | 創立15周年記念日に際し創立者竹内綱氏胸像除幕式を挙(行) |
| 昭和 3. 4. 1 | 土木科、建築科を増設 |
| 6. 5. 4 | 創立20周年記念式並びに前校主竹内明太郎氏胸像除幕式を挙(行) |
| 8. 5.31 | 初代校長吉崎七次郎氏退職、教諭松本政良氏2代目校長に就任 |
| 10. 4. 1 | 高知県立高知工業実務学校を併置(県公報) |
| 12.10 | 高知県立高知工業実務学校を高知県立高知工業青年学校と改称 |
| 12.10. 1 | 第2部機械科(入学資格中等学校卒業修業年限1カ年)を増設生徒定員720名となる |
| 14. 4. 1 | 生徒定員820名に変更
第2本科電気科、応用化学科(入学資格高小卒修業年限2カ年)を増設、生徒定員980名となる |
| 4.26 | 2代目校長松本政良氏大分県津久見町立工業学校長に転出に付教諭仙頭隆氏校長事務取扱を命ぜらる |
| 5.23 | 校長事務取扱仙頭隆氏逝去に付教諭森本長太郎氏校長心得を命ぜらる |
| 15. 2.21 | 校長心得森本長太郎氏3代目校長を命ぜらる |
| 4. 1 | 第2本科機械科を増設、生徒定員1,060名となる |
| 16. 3.31 | 第2部機械科を廃止、生徒定員1,040名となる |
| 4. 1 | 第2本科建築科を増設、生徒定員1,120名となる |
| 17. 4. 8 | 校地狭隘の為高知市北与力町より現在の高知市棧橋通2丁目に移転敷地9,700坪(登記面積)内220坪私設道路、建築敷地2,437坪(延3,053坪)運動場3,780坪となる |
| 19. 2. 6 | 土木、建築科は生徒募集を停止 |
| 19. 4. 1 | 応用化学科を工業化学科と改称 |
| 20. 7. 4 | 空襲の為全校舎、工場、図書館、道場等を全焼 |
| 9. 1 | 本校事務所を高知県工業試験場に置き、分散教育の事務を執る |

- 昭和20.10. 1 授業を工業試験場、市立商業学校、海南中学校、長岡組合立小学校、県造船株式会社葛島工場、高須小学校、高岡高等小学校、須崎小学校等を借りて開始
21. 3.31 第2本科を廃止、生徒定員1,000名となる
21. 4. 7 市立高知商工学校に在学していた土木・建築・採鉱科が工業学校に復帰
- 9.10 仮校舎5棟1,140坪（内4棟1,004坪は海軍航空隊仁井田兵舎を譲り受けて移築、1棟130坪は県造船の工場を移築し機械工場）落成に付全校生徒を収容して授業開始
23. 4. 1 新制高等学校令により高知県立高知工業高等学校が設置され工業学校4、5年生は同高等学校に編入され2、3年生は併設中学校生徒となる（高等学校設置課程は機械、電気、工業化学、土木、建築）
6. 1 土木、建築につき定時制（昼間授業4カ年）の課程を置く
24. 1. 8 第2棟2階建東半部延290坪の校舎落成（普通教室4、電気実験室）
- 3.31 併設中学校廃止、定時制に機械、電気、工業化学の課程を増設夜間授業に切り替える
- 3.31 森本長太郎氏退職、森岡貞篤氏4代目校長に就任
9. 1 第2棟西半部延270坪の校舎落成（普通教室7、製図室1）
9. 1 県下高等学校再編成により県立高知工業高等学校と高知市立工芸高等学校を統合し高知県立高知工業高等学校となし全日制の設置課程は機械、電気、工業化学、土木、建築、木材工芸の6科となり工芸高等学校職員生徒は工業高等学校へ移って授業を行う但し工芸実習工場は当分元の工場設備を使用（高知市大原町180、2棟120坪及び78坪）生徒数1,100名となる。尚工芸高等学校1カ年制の建築別科生13名も収容
25. 3.31 建築別科廃止
- 5.15 第1棟本館2階建西半部（10教室、附属便所、廊下251坪）竣工
- 7.14 機械実習工場（136坪）大修理竣工、之は元県造船会社所有建物を昭和24年度県有に移管した杉皮葺バラック建築を瓦葺とし更に補強改修す
9. 9 工業化学実験室（139坪）竣工之は都市計画に関連し計画線外にあるバラック建4教室（164坪）を移転改築す
12. 8 第1棟本館2階建中央以東部延290坪（玄関、事務室、校長室、応接室、職員室、宿直室以上1階145坪）普通教室4、合併教室（以上2階建45坪）衛生室7坪、小使室17.5坪、便所2坪、物置4坪、廊下36坪（中央24坪、東端12坪）合計延356.5坪の起工式。竹村建設合資会社四国営業所々長代理岡部芳明 市知寄町1丁目32番地、現場監督鈴木一幸、工事請負
26. 6. 8 上の工事竣工検査合格6月10日より使用す
27. 3.31 小松生幹氏（八木）5代目校長となる
- 4.11 第7棟木材工芸科木材試験室、木材工作室、塗装室、倉庫等（120坪）清水建設株式会社にて完成
- 第8棟機械科材料試験室、製図教室、精密測定室、機械科職員室等（123坪）清水建設株式会社にて完成
7. 1 電気科卒業生に対し電気事業主任技術者資格検定の第1次試験免除の認可を受ける
28. 3.31 第9棟階下木材工芸製図室、芸能室、理科室、準備室、階下土木製図室、建築職員室、準備室、建築製図室等（延380坪）完成
29. 3.31 第4棟土木科水理実験室、土木実習室、土木科職員室、測量器室、準備室等（100坪）完成
32. 3.20 鋳物工場、鉄骨平屋建日本瓦葺70坪完成
- 3.31 戸梶徳喜氏6代目校長となる
- 33.10. 1 近森盛之助氏校長事務取扱心得となる
34. 2.28 建築科、工芸科、機械科、木工場木造平屋建アルミ瓦葺134.5坪完成
- 2.28 渡り廊下木造平屋建厚型スレート葺6坪完成
4. 1 森岡貞篤氏7代目校長となる
35. 3.20 給食場木造平屋建瓦葺15.5坪完成
- 3.31 配電室コンクリートブロック造平屋建12.5坪完成
11. 1 屋内体育館兼講堂鉄骨造り一部RC造延335坪完成
36. 4. 1 戸梶徳喜氏8代目校長となる
37. 3.31 化学実験室延106.45坪完成
- 3.15 図書館（同窓会館）鉄筋コンクリート造り、2階建延120坪完成
5. 4 開校50周年記念、工業図書館落成記念式典を行う
- 11.24 木材工芸科を工芸科と改称
38. 3.31 機械科、工芸科実習室、鉄筋コンクリート造り、延212坪完成（1階原動機室、鍛造室、溶接室106坪、2階美術室106坪）此の間工芸科塗装室は約15m南方に移動
39. 3.19 機械科機械工場、鉄筋コンクリート造り174.16坪完成面目を一新す
- 3.31 体育館兼講堂と第1棟舎西端とを結ぶ渡り廊下コンクリートブロック積瓦棒葺、23坪完便利となる

- 昭和39. 4. 1 県立工業試験場改築に伴いその敷地の西北隅の1部を本校に移管
- 4.15 格技場52.5坪完成（元の県立工業試験場建物を補修改造したもので本校正門すぐ南前）
- 40.10.20 防火書庫3.9坪完成
42. 2. 2 工芸科実習室、鉄筋コンクリート造り174坪完成
43. 3.30 化学科化学実験室（北棟）鉄筋コンクリート2階建が完成
44. 1. 1 校地番が棧橋通2丁目11番6号と改称される
- 3.31 第1号校舎完成鉄筋コンクリート4階建、普通教室12、理科室、物理及化学教室2,206m²完成し、面目一新の一步ふみ出す
45. 3.31 第2号校舎完成鉄筋コンクリート4階建、普通教室10、視聴覚教室、美術室、電気科実験・実習室、製図室（3,563.8m²）完成、更に充実する
4. 1 塩田一郎氏第9代目校長となる
46. 3.31 本館落成、鉄筋コンクリート3階建事務室、進路指導部室、応接室、校長室、相談室、全・定職員室、情報技術科実験実習室完成（1,270m²）面目一新する
4. 1 情報技術科を設置する
- 6.22 プール竣工25m・8コース
47. 3.31 土木科・建築科実験・実習室鉄筋コンクリート4階建2分の1完成
48. 2.19 第1号校舎南側に格技場完成（350m²）
- 3.31 土木科・建築科実験実習室、鉄筋コンクリート4階建残り2分の1落成（2,268m²）
4. 1 工芸科をインテリア科と改称する
49. 4. 1 田口信雄氏第10代目校長となる
9. 9 食堂落成（300m²）
- 11.10 中庭園の落成（600m²）
- 11.30 校舎落成、創立60周年記念式典盛大に挙行される
54. 3.31 機械科棟落成（841.50m²）
55. 4. 1 大島正賢氏11代目校長となる
- 56.12.22 図書館増築落成（図書館74.78m²・渡り廊下19.24m²）
57. 3.31 体育補助施設落成（鉄骨造2階建609m²）
- 3.31 防球フェンス落成（L169m、H7m）
- 3.31 受水槽落成（F R. P. サンドイッチ構造25t）
5. 4 開校70周年記念式典、校旗贈呈
58. 3. 7 工業化学科実験・実習棟完成
59. 4. 1 毛利敬一氏12代目校長となる
59. 8.24 防球ネット落成（第1期クレモナネット、L55m、H14m、西）
- 8.24 ちり焼場設備更新（ひかり焼却炉、鉄骨造）
60. 2. 5 工業化学科実習棟落成（プラント、薬品庫RC平110m²）
3. 5 旧市道敷地429m²、高知市と交換による取得
3. 9 屋外生徒便所落成（RC平1,400m²）
- 3.30 生徒自転車置場落成（鉄骨造平屋建15,400m²）
- 7.26 防球ネット落成（第2期）クレモナネット、L45m、H10m、天井ネット付
61. 8.15 防球ネット落成（第3期）クレモナネット、L36m、H14m、フェンス36m）
62. 4. 1 情報技術科学級増2学級定員80名となる
63. 2.25 燃料庫完成、スレート瓦平屋建13.76m²
3. 7 情報技術科棟落成、鉄筋4階建1352.16m²
- 3.31 生徒自転車置場落成、鉄骨造平屋建51.45m²（格技場と体育館の間）
4. 1 中村富和第13代目校長となる
- 平成 2. 4. 1 旧工業試験場跡地本校学校用地に所管換えとなる（6.215m²）
3. 1.25 生徒自転車置場落成（鉄骨造平屋建60.48m²）
4. 4. 1 宮田隆弘第14代目校長となる
- 11.22 新体育館落成、創立80周年記念式典盛大に挙行される

記念誌の発刊を祝して

高知県立高知工業高等学校創立80周年記念事業実行委員会

会長 岸之上 守代司

我が母校、高知工業高等学校は、ここに輝かしく創立80周年を迎えることとなりました。まことにおめでとうございます。

校史によりますと、高知工業高等学校は、竹内綱・明太郎両先生の「工業富國基」の信念により、私立高知工業学校として設立されました。「明治45年5月4日午前9時、朝野の貴紳を招待し県公会堂において本校開校式を挙（これより本校開校記念日を5月4日と定める）」と、記されております。その後大正12年高知県に移管され、校地や教育内容等の変遷はありましたが、校訓は当初より変わることなく脈々と受け継がれ、今に至るまでに2万余名の卒業生を輩出して参りました。先輩諸氏は工業界のみならず各界に活躍をされております。まことに意義深いことと存じます。

さて、この80周年を記念しまして、記念誌「火水翼」を発刊する運びとなりました。私たちは、「水を飲む時に井戸を掘った人の恩を忘れてはならない」という言葉の通りに、設立者の叡知とご厚恩に思いを致すばかりです。この「火水翼」は、諸先生方をはじめとする関係者各位のご労苦、ご功績、先輩諸兄の青春の日々など本校の伝統を築いて来られた歴史の跡を顕彰し、感謝の念を込めて発刊するものです。更にまた次なる90周年100周年の日のために資料の散逸を防ぎ、その礎となるようにとの願いも込めております。

編集に当たりましては、学校の移転や戦災による焼失などのために収集整理は並大抵のことではなく、記念誌委員会の方々には、長期に渡り八方手を尽くして、献身的に情熱をもって取材をしてくださいました。各方面の方々から思いもかけぬ貴重な資料をご提供いただき、又ご多用中にもかかわらず玉稿をお寄せくださいましたそのご厚情に、疲れも忘れることが度々あったと伺いました。皆様に心から感謝申し上げます。おかげ様で、母校の歩みが「見てもらえる本」として系統的に編纂され、立派な記念誌として皆様のお手元に届けられる運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えません。殊に同窓生の方々には、青春時代の自分自身や親しい友人や学校行事など懐かしい昔を思い出していただけるものと思えます。この記念誌が、80年の歴史を持つ母校に対する社会の認識や評価を高め、更に高知県の工業史として大いに活用されますなら、望外の喜びであります。

21世紀へ向けて、母校は、社会に役立つ立派な工業技術者を送り出さなければなりません。この度の出版を契機とし、より一層充実した学校としてますます発展されることを念願して止みません。

今、時は梅の季節、その芳香をたたえた80周年記念誌「火水翼」の発刊を心から感謝し、又お祝いしましてご挨拶と致します。

発刊によせて

高知県立高知工業高等学校

校長 宮 田 隆 弘

時の流れは早く、平成4年度をもって高知県立高知工業高等学校は、学校創立80周年を迎え、開校以来の歩みが、このたび「創立80周年記念誌」としてまとめられ、ここに発刊のはこびとなりました。

かえりみれば、明治41年当時のすぐれた実業家であり、政治家であった竹内綱先生、同明太郎先生父子が「工業富国基」の志をたて、工業技術者の育成を焦眉の急として、工業学校設立を計画されたのにはじまります。

高知市の北門筋（現在の永国寺町）の地に呱呱の声をあげてから、幾多の人々のたゆまぬご尽力と温かいご声援をうけ、大正12年には県立高知工業学校となり、つづいて、昭和17年には、現在の棧橋通に移転しました。昭和20年の空襲により校舎は全焼したが、昭和24年には、仮校舎の装いで、県立高知工業高等学校となり、以後、順調な発展をつづけてまいりました。

本校が焦土に帰して間もない頃、入学した私たちの世代は、物の不足する時でありながら学校生活には、さほど不自由を感じなかった。それというのも、個性のある大勢の先生から指導を受け、先輩からも勇気と耐える力を与えてもらったからである。

今や本校で学んだ先輩諸氏は、県内外の各界において活躍されておられることは周知のとおりであります。

本校に求められている産業人の使命は、高度の情報化にともなう技術革新、加えて、高齢化の進行や国際社会に目を向け、広い視野に立った新たな課題に適切に対処できる人材の育成にあります。

本誌が、21世紀社会のアプローチとして、今、何を為すべきかを問い、今後の躍動の契機ともなれば幸いです。

この記念誌編集の企画は、まことに時宜を得たものであり、先輩諸氏の母校に寄せる熱き思いと、これまでのご尽力に、心からの敬意と謝意を表する次第でございます。

また、祝辞をいただいた方々、貴重な体験談や思い出の原稿をお寄せ下さった諸先輩、さらには、編集のため、日夜奔走されました諸氏に、深甚なる謝意をささげ、発刊のごあいさつといたします。

火水翼（創立80周年記念誌）目次

高知工業学校校旗・校歌

高知工業高等学校校旗・校歌

高知県立高知工業高等学校沿革

記念誌の発刊を祝して 高知県立高知工業高等学校創立80周年

記念事業実行委員会会長

岸之上守代司

発刊によせて 高知県立高知工業高等学校校長

宮田隆弘

創立80周年並びに体育館落成記念行事

挨拶	高知県立高知工業高等学校創立80周年 記念事業実行委員会会長	岸之上守代司…………… (1)
式辞	高知県立高知工業高等学校校長	宮田隆弘…………… (2)
挨拶	高知県教育委員会教育委員長	吉村雄治…………… (3)
祝辞	高知県議会議長	結城健輔…………… (4)
祝辞	高知県高等学校長協会会長	野口顕二…………… (5)
祝辞	高知県立高知工業高等学校全日制PTA会長	谷村直俊…………… (6)
祝辞		鈴江浪子…………… (7)
生徒代表ことば	高知県立高知工業高等学校全日制生徒会会長	長尾加奈…………… (8)
記念式典・祝賀会・記念行事写真集……………		(9)
経過報告……………		(16)
高知県立高知工業高等学校・平成4年度教職員一同 全日制……………		(25)
高知県立高知工業高等学校・平成4年度教職員一同 定時制……………		(27)

80年の歩み！！

主なるできごと（年表形式）……………		(31)
○私立高知工業学校編 明治45年より大正12年まで		
竹内家系譜……………		(32)
本校設立の主旨……………		(33)
財団法人私立高知工業学校役員……………		(35)
寄附行為・私立高知工業学校学則……………		(35)
モーターボート用発電機	島田比染（旧職員）……………	(40)
島田比染先生	回想60年より……………	(42)
法学士 吉田 茂講話	会誌より……………	(44)
高知県（戦前）の工作機械の歩み	奥田幹雄（昭20機卒）……………	(48)
修学旅行から帰って	並川安幸（大9機卒）……………	(50)
四国周回航程の壮挙	会誌より……………	(51)
松本政良先生	回想60年より……………	(54)
思い出	公文敏直（大11機卒）……………	(56)
思い出の工業学校	小松益喜（大12電卒）……………	(58)
○高知県立高知工業学校編 大正12年より昭和23年まで		
高知工業学校校歌由来記	塩田一郎（昭13機卒・旧職員）……………	(59)
思い出	高橋四郎（大13電卒）……………	(60)
同級会記一回想	永井藤一郎（大14化卒）……………	(62)
思い出	松岡 陸（大15機卒）……………	(64)
	中屋伝太郎（大15電卒）……………	(64)
無試験合格のうら話	久武亀彦（昭4機卒）……………	(70)
野球の思い出	福田正夫（昭5機卒）……………	(72)
宮地豊喜先生	回想60年より……………	(74)
水泳部大阪遠征記	杉本 盛（昭7電卒）……………	(74)

杉本選手凱旋帰郷の状況	森 光喜 (旧職員) …………… (76)
吉崎先生の功績の概要	会誌より…………… (77)
恩師 吉崎先生を追慕する	岡崎保吉 (大7機卒) …………… (78)
昔の思い出	大久保長幸 (昭10機卒) …………… (82)
世界一周飛行 八百川長作君	会誌より…………… (90)
修学旅行の出来事	加藤秀季 (大12技機卒・旧職員) …………… (94)
思い出いろいろ	弘田速男 (昭17技機卒) …………… (96)
学生時代	大塚善久 (昭18電卒) …………… (98)
思い出	山本正盛 (大15機卒・旧職員) …………… (99)
回想	中沢 忠 (昭19技機卒) …………… (100)
戦雲の中に学び巣立つ母校創立80周年に寄せて	市川信雄 (昭19本2電卒) …………… (100)
学徒動員	横田善助 (昭20機卒) …………… (101)
何が起こったのか判らない	宗竹啓介 (昭18機卒) …………… (102)
人生の分れ目	河野清久 (昭20機卒) …………… (102)
古材料を利用して	渋谷 巖 (昭14技機卒・旧職員) …………… (103)
妙にようない鋳物砂	塩田一郎 (昭13機卒・旧職員) …………… (104)
「祝」80周年の歴史ある母校の発展を祝い 社会貢献出来る人材教育を願う	蒲原正秀 (昭21電卒) …………… (104)
思いつくままに	高田 潔 (昭23機卒) …………… (105)
昭和20年代の機械科	塩田一郎 (昭13機卒・旧職員) …………… (106)
○高知県立高知工業高等学校編 昭和23年より平成4年まで	
「フッ飛んだ」球児の夏	高石泰雄 (昭25土卒) …………… (107)
6馬力焼玉機関	塩田一郎 (昭13機卒・旧職員) …………… (108)
定時制創立の頃	田所胤雄 (旧職員) …………… (109)
瓦礫の学園	大西宏志 (昭26電卒) …………… (114)
母校は人生の土俵	澤田俊男 (昭27機卒) …………… (115)
思い出	安岡芳徳 (昭28土卒) …………… (117)
思いつくまゝに	野島茂博 (昭28定建卒) …………… (118)
胸像の由来	塩田一郎 (昭13機卒・旧職員) …………… (119)
第1回技術競技大会	塩田一郎 (昭13機卒・旧職員) …………… (120)
思い出を語る	山崎順猪智 (旧職員) …………… (122)
高知県陸上界に高知工業あり	増井幸雄 (昭31機卒) …………… (124)
高知県の器械体操と高知工業	山本 実 (昭33木工卒) …………… (128)
我が母校80周年によせて	柳本武男 (昭34木工卒) …………… (129)
部活動の思い出	矢野晴紀 (昭34電卒) …………… (130)
相撲部のころ	大西 貴 (昭35土卒) …………… (132)
いま思う事	矢野賀代 (昭36化卒) …………… (134)
思い出	川村恭三 (昭38木工卒) …………… (137)
タスキにかけた青春	谷 忠男 (昭38電卒) …………… (138)
東京国の片隅にて	猪野宣長 (昭40土卒) …………… (141)
私の視てきた世界	野町和嘉 (昭40機卒) …………… (142)
陸上の思い出	田中廣志 (昭43機卒) …………… (148)
「天の時が強い味方となった全国選手権優勝」	田原敏雄 (旧職員) …………… (150)
相撲部の思い出	京馬和彦 (昭45化卒) …………… (152)
野球に魅せられて	浜川阿輝雄 (昭46電卒) …………… (154)
思い出	藤原祥弘 (昭47土卒) …………… (156)
全国優勝を果たして	川村通俊 (昭50建卒) …………… (160)
第22回全国高校定通制軟式野球大会に出場	岩村 隆 (昭38電卒・旧職員) …………… (162)
思い出の日々	田中 徳 (昭31定化卒・昭51定電卒) …………… (164)
定時制教育30周年	大島正賢 (昭16電卒・旧職員) …………… (166)

高校総体の思い出	片岡晴彦(昭54士卒) …………… (168)
36年目のクラス会	濱田鞆之輔(昭18機卒) …………… (170)
ソフトボール部2年振り3度目の「全国優勝」	竹内福志(昭23機卒・旧職員) …………… (172)
登山部優勝	矢野 司(旧職員) …………… (172)
全員でつかんだ全国優勝	北岡健一(昭27士卒・旧職員) …………… (174)
優勝するということ	大島正賢(昭16電卒・旧職員) …………… (176)
吉崎七次郎先生の胸像製作について	大島正賢(昭16電卒・旧職員) …………… (180)
高校生活の思い出	長尾弘明(昭60機卒) …………… (182)
卒業生の応援に支えられて	浜田志郎(母校職員) …………… (186)
卒業後50年を経過して	森光辰夫(昭17機卒) …………… (196)
高知工業に学んで	小幡直志(情3B) …………… (197)
<small>やきだま</small> 焼玉機関の復元	奥田幹雄(昭20機卒) …………… (199)

思い出の記

○生徒そして先生として(歴代校長座談会) …………… (202)	
○私立高知工業学校編 明治45年より大正12年まで	
早大便り	森岡貞篤(大6機卒・旧職員) …………… (211)
長崎より	河井正身(大7機卒) …………… (211)
朝倉聯隊より	田内遊亀万(大8電卒) …………… (212)
秋風の山	大西賢吉(大10化卒) …………… (212)
行啓記念	会誌より …………… (213)
工場開放	会誌より …………… (214)
○高知県立高知工業学校編 大正12年より昭和23年まで	
昭和元年頃の学校	高本薫明(昭5機卒) …………… (215)
学校の思い出	戸梶徳喜(昭2電卒・旧職員) …………… (215)
<small>かえりみ</small> 想 出	石本鹿寿男(昭3機卒) …………… (216)
技術研究部	浜口身幸(昭3技機卒・旧職員) …………… (217)
甲子園遠征記	富永豪夫(昭4化卒) …………… (217)
思い出の同窓生たち	坂本龍雄(昭4電卒) …………… (218)
戦時中の思い出	永瀬邦男(昭5電卒・旧職員) …………… (220)
開校80周年に寄せて	吉本 修(昭8機卒) …………… (221)
昭和20年の記録	樋口晃一(昭8電卒) …………… (222)
記念誌に寄せて	尾崎晴光(昭8士卒) …………… (222)
「前代未聞」教室での胸上げで右足首を骨折された私の運命! 池上 実(昭9機卒) …………… (223)	
今だから話せる在学秘話	今原 旭(昭9化卒) …………… (224)
シベリア抑留記	甲藤延義(昭10化卒) …………… (225)
思い出	森脇貞夫(昭10士卒) …………… (226)
野球部の想ひ出	大西 至(昭11機卒) …………… (227)
思い出の高知工業	橋本景行(昭11電卒) …………… (227)
全国に坂本龍馬先生を	上原栄治(昭12士卒) …………… (229)
至福なり先生	岡田 盛(昭14化卒) …………… (230)
思い出	村山 保(昭14士卒) …………… (230)
同期生は心の友	門田美清(昭15電卒) …………… (231)
私の思い出	坂本芳雄(昭15化卒) …………… (232)
死の科学	上久保 浩(昭15士卒) …………… (232)
塞翁が馬	渡辺武雄(昭15建卒) …………… (233)
茫々50年	谷本幸夫(昭16機卒) …………… (234)
俳句と母校	上村儀定(昭16電卒) …………… (236)
思い出	浜口之孝(昭16電卒) …………… (236)
思い出	島崎 晋(昭16化卒) …………… (238)

母校に学びて……今	溝渕原己 (昭16化卒)	(238)
創立80周年に寄せて 校主の先見—よき師—勉勵の同窓	柏井忠利 (昭17機卒)	(239)
昭和17年12月卒業生合同同窓会と母校		
に残るクスノキ・正門・門柱のつぶやき	松本英夫 (昭17電卒)	(240)
思い出と予言	戸田尚夫 (昭18機卒)	(243)
創立80周年を祝う	山崎米蔵 (昭18機卒)	(244)
入学試験当日の思い出	西田文洋 (昭18電卒)	(245)
同窓会大阪支部 (鯨工会の回想)	北山智旨 (昭18化卒)	(245)
○大阪支部 (鯨工会) を語る!!		(246)
戦中派の思い出	竹村義典 (昭18建卒)	(249)
思い出	宮地正修 (昭20機卒)	(249)
思い出	横田善助 (昭20機卒)	(250)
思い出すままに	野村 漢 (昭20土卒)	(250)
焼判木札	山中殖木 (昭20建卒)	(251)
○高知県立高知工業高等学校編 昭和23年より平成4年まで		
野球人生	山崎通雄 (昭24機卒)	(251)
旧制最後の卒業	大石和男 (昭24電卒)	(252)
相撲部と私	竹内英夫 (昭24化卒)	(253)
土木と共に (工業へ思いをよせて)	公文重徳 (昭28土卒)	(254)
夢の実現と言語	山本義輝 (昭29定機卒)	(255)
「職を求めて卒業す」	西ノ内寿一 (昭29電卒)	(256)
金魚と天狗と裸踊り	森 素彦 (昭30建卒)	(257)
出まかせ今昔	大原政盛 (昭30木工卒)	(258)
34年前の思い出	浜 真一 (昭31土卒)	(259)
楽しかった学園生活	山口範子 (昭33化卒)	(259)
体操と私	吉本幸孝 (昭33化卒)	(260)
「好きになった高知工業高校」	松本経子 (昭35化卒)	(261)
母校の思い出	渡辺雅幸 (昭35化卒)	(261)
体操部13年	森岡洋二 (昭36木工卒)	(263)
「故郷は遠きにありて想うもの」	久保田昌良 (昭37機卒)	(263)
高知工業高等学校定時制に学んで	秋津高章 (昭38定電卒)	(264)
厚い壁	包国 勝 (昭39機卒)	(265)
坂本龍馬と5万円札	中田良政 (昭44機卒)	(265)
80周年記念誌によせて	加賀野井 卓 (旧職員)	(266)
似て非なるもの	森 直行 (旧職員)	(271)
高知工業剣道部の思い出	門田 豊 (旧職員)	(272)
○80年、熱き青春の軌跡		(274)
○資料編		
教育方針及び重点目標		(294)
教育課程 (全日制)		(295)
教育課程 (定時制)		(296)
卒業生一覧表		(297)
校章のいわれ		(299)
高知県立高知工業高等学校同窓会会則		(300)
編集あとがき		(301)

創立80周年並びに体育館
落成記念事業

挨拶

高知県立高知工業高等学校創立80周年記念事業

実行委員会会長

岸之上 守代司

深まりゆく秋の佳き日、ここに高知県立高知工業高等学校創立80周年の記念式典を挙行することとなりました。国会議員の方々をはじめ、高知県議会議長、高知県議会議員並びに高知県教育委員会、県下教育関係者各位、来賓の皆様のご臨席を賜わり、また、PTA関係者及び同窓生其の他多数の皆様のご出席を戴きましてまことにありがとうございました。おかげをもちまして80周年並びに体育館新築落成の記念式典を盛大に開催できますことは、記念事業実行委員会にとりましてこの上ない喜びであり感謝に耐えない次第でございます。

さて、本校の歴史は明治45年設立者竹内綱先生の「工業富國基」という堅いご信念に基づき工業技術者の育成を目的とする私立高知工業学校を高知市北与力町に開設されたことに始まりました。大正12年に至り高知県に移管され高知県立高知工業学校となり、昭和17年に現在地に移転、昭和20年には空襲により全焼いたしました直ちに木造による仮校舎が建築されたのであります。昭和21年には南海大地震により大きな被害を受けましたが、設立者の遺志は受け継がれ、更に県当局並びに教職員、同窓生、父兄の皆様のご協力、ご援助により逐次校舎設備も整備されてまいりました。深く感謝と敬意を表すものであります。尚昭和23年には新制高校発足により高知県立高知工業高等学校と改称され現在に至っております。

この間輩出しました卒業生は二万余名に達し今や県内はもとより広く全国的に産業、行政、教育、文化等の分野において枢要な地位にあり活躍されております。

この80年は、日本が近代国家として輝かしい発展を遂げ飛躍的に進歩を続けた時代であります。

本校は工業技術者の育成により、その時代に立派に貢献されたものと大きな誇りを感じております。

更にまた、産業の改革に伴う社会のニーズに対応し、時代に先駆ける気概をもって校風の発揮に努力され、21世紀においても母校の声価が一層高められますことを期待して止みません。

記念事業実行委員会といたしましては、輝かしい歴史と伝統の一端を披露することにより全校生徒の意識の高揚をはかり、90周年、100周年へ向けての学校の発展を願って、一部設備の充実に総力をあげて取り組んでまいりました。

今回のこれらの事業のために寄せられました物、心両面にわたる多大のご援助と関係各位のご尽力、ご高配に対し深甚の謝意を表し厚く御礼を申し上げます。

今後も一層のご指導、ご協力を賜わりますよう心からお願い致しましてご挨拶といたします。

どうも有難うございました。

式 辞

高知県立高知工業高等学校長

宮 田 隆 弘

木々の梢にも秋は深まりゆく今日の佳き日、本校創立80周年記念式典の挙行に当たり、高知県議会議長結城健輔殿をはじめ国会議員、県当局ならびに教育関係者など、来賓各位のご臨席を賜わり、厚くお礼申し上げます。木の香の匂う新体育館で、このように、盛大かつ厳粛に式典を挙行できますことは、私たち生徒、教職員一同この上ない喜びとするところであります。

また、高知県ならびに同窓会、PTA、関係各社におかれましては、本記念行事の遂行のために物心両面にわたりご援助、ご協力を賜りましたこと、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

本校は20世紀初頭の明治45年に、当時の優れた実業家であり、政治家であった竹内綱先生、竹内明太郎先生によって、国を豊かにする基は工業であるという、建学の精神をもって創設されました。

その後、時代の変遷と共に学科を増設し、学校の所在地も北与力町から現在地へ昭和17年に移転、学校規模も漸次拡大され、名実ともに優れた工業高等学校として発展してまいりました。

この間、世に送り出された2万1千有余名の卒業生が、国の内外を問わず活躍する姿に接したとき、先人のご努力に対し感慨を深くするものであります。

ところで生徒の皆さん、戦後わが国は、世界各国と友好関係を深める中で、経済復興に努めてきました。

技術開発力を背景として、産業基盤を立て直し、自由貿易を推進することによって、国際競争力をもった、経済大国となりました。

しかし、今日、地球経済は巨大な国際不均衡を抱え、南北の較差や、激化する貿易摩擦の中で困難な問題に直面しています。

こうした中で、国際社会に貢献していくための、国民的なコンセンサスとして、国際協力（援助）の問題、地球環境の問題に取り組もうという気運が高まってきました。

今、世界中の人々が、わが国に何を感じ、何を求めているか、しっかり見極め、国際人として恥ずかしくない公共心、思いやり、公平な精神など、人間として望ましい生き方、在り方を身につけることが大切になっています。

皆さんの本校に在学する3～4年の歳月は、目標を持ち気概をもって学習するならば、驚くほど成果を生み出す期間になります。

人はだれでも、過去を振り返り、その歴史に学ぶことが大切であります。本校80周年の歴史に学び、更に、21世紀社会に向かって希望と夢を描きたいと思えます。

私たちは、常に、古き良きものを手本に新しい生き方を探る「温故知新」の精神で、高度技術社会に向かって、工業教育を創造していくことが責務であると感じています。

この上は、生徒・教職員一体となり、今日のこの感激を忘れることなく努力する決意でございます。

そして、先人の築いた校風と伝統を継承・発展させ、皆様方のご期待に応えていきたいと念じています。

終わりにになりましたが本校の今日までを育てて下さいました多くの方々へ心からお礼を申し上げるとともに、本校の将来に限りないお力添えを賜わりますようお願い申し上げます、式辞といたします。

挨拶

高知県教育委員会教育委員長

吉 村 雄 治

本日ここに多数の来賓並びに校友・保護者の方々の御臨席を得て、高知県立高知工業高等学校創立80周年並びに体育館落成記念式典が盛大に挙行されますことは、まことに喜ばしい限りであります。

さて、本校は明治45年、宿毛市出身の実業家であり政治家でもあった竹内綱、明太郎先生父子が「工業富国基」の理念から、工業技術者養成の急務を痛感され、高知市北与力町に私立高知工業学校を創立されました。

爾來、80年の星霜を重ね、創立80周年と時を同じくして、新装なった体育館でこの記念すべき日を迎えましたことは誠に意義深く、感慨ひとしおのものがあります。

皆様ご承知のとおり、本校の工業教育は、常に時代の進展に応じ、学科改編や教育内容の見直しに努めるとともに、諸先輩や皆様方の御努力やお力添えにより、学校環境の整備充実も図りながら発展してまいりました。

また、本県工業教育の中核として、有為な産業人の育成に努め、実に2万1千余名の人材を、県内外の様々な分野に送りだし、卒業生の社会における活躍ぶりは、学校関係者のもとより、今日まで学校の発展に御尽力・御協力を、賜りました方々にとりましても、万感胸に迫るものがあることと存じます。

高知県立高知工業高等学校で学ぶ生徒諸君は、今日までの、この力強い歩みを忘れることなく、1人1人が向学心と礼節を忘れず、未来を切り開く、不撓不屈の精神を持ち続け、更に本校の新しい伝統を築き上げていただきたいと思います。

ところで、我が国の産業は、近年2度にわたる石油危機を克服し、経済のソフト化や、国際化などの厳しい構造変化にも、巧みに応じてまいりました。このことは、国際競争に耐え得る、高度な技術力と優れた人材があったなればこそ、なし得られた事であります。今日、国際社会において経済大国日本と評価を受けておりますが、工業の発展による我が国の経済の繁栄を早くから唱えられました、創立者、竹内両先生の遺徳を偲び、その卓見に敬服しているところであります。

言うまでもなく、今後も国際社会において工業先進国として、その期待に応え、その役割を果たして行くためには、技術の開発と、それを支える有為な人材の育成が重要視されているところであります。

本校におきましては、今後とも教育内容の改善充実を図られ、工業国日本を支える確かな技術と、広い視野を持った、多くの人材を育成されることを、期待しております。

創立80周年並びに体育館の落成を一つの節目として、教職員各位・生徒諸君が一丸となって、学問の研究、工業技術の習得など本校の教育方針を具現化するため、更なる精進を重ね、高知工業高等学校の声価を一段と高められ、洋々たる前途をひらかれますよう御祈念いたしまして御挨拶といたします。

祝 辞

高知県議会議長

結 城 健 輔

県立高知工業高等学校創立80周年、並びに、新体育館落成の記念式典が挙行されるにあたり、県議会を代表いたしまして、一言お祝いを申し上げます。

本日、本校創立80周年の慶賀すべき年に加えて、新体育館落成式典という二重の喜びを迎えられましたことは、まことにめでたく心よりお喜びを申し上げます。

御案内のとおり、本校は、明治45年の開校以来、本県工業の専門教育機関として、工業教育や技術者の養成、スポーツの振興に時代の先鞭をつけ、先導的役割を果たしてまいりました。

この間、戦後の教育改革など、その歩み来たった道は必ずしも平坦でなく、御苦労も多かったと存じますが、先人の献身的な御努力のもとに、今日、立派な校風をうちたてられ、本県産業界をはじめ、各分野に幾多の有為な人材を輩出し、広く県勢の発展に寄与されてきたところであります。

今日の隆盛は、ひとえに歴代校長をはじめ、教職員各位の御熱意と生徒諸君の努力の成果であり、また後援会、諸先輩、PTAをはじめとする関係各位の御協力、御支援の賜物であると存じます。

ここに、改めて心からの敬意と感謝を申し上げる次第であります。

21世紀を間近にして、高齢化や開放化の進展、さらには国際化の高まりなど、県土を取り巻く状況は試練と変革の時を迎え、一層厳しさを増してきております。

このような時代の流れの中で、21世紀を展望した産業の振興をはじめ、各般にわたり、新たな対応が臨まれる今日、次代を担う青少年の育成は、県政の最重要課題であり、教育の果たす役割は、従前にも増して重要であります。

中でも、開放化の進展とともに、激化する地域間競争に対応して、新時代への展望を開き、本県地場企業の体質強化と、経営の安定化を図るためには、今日の先進的な技術に対応しうる、工業技術者の養成確保が不可欠であり、本校に課せられた使命とともに、寄せる期待も大きいものがあります。

どうか、教職員の皆様方をはじめ、関係各位には、この意義深い80周年を契機に、さらなる本校発展のため、決意も新たに、全校一致し、一層の御努力を願う次第であります。

また、関係各方面の御理解と御協力のもと、教育設備の充実整備と相まって、生徒諸君の学力、教養の向上に努められ、80年の栄えある伝統のうえに、さらに輝かしい歴史を開拓せられ、校運いよいよ隆盛に向かわれますよう念願するところであります。

重ねて本校のますますの御発展と、御列席の皆様方の御多幸、御健勝を心から祈念いたしまして、本日のお祝いの言葉といたします。

祝 辞

高知県高等学校長協会会長

野 口 顕 二

誠に僭越でございますが、県下の高等学校を代表いたしましてお慶びを申し上げます。

校長先生をはじめ教職員、校友、保護者、生徒の皆様、本日の創立80周年、並びに体育館落成記念式典、誠におめでとうございます。心からお慶びを申し上げます。

今日の式典は、本校が明治45年、日本の将来を見越された竹内先生の「農業で以て国内を養い、工業を以て国外に対抗しなければ」という卓越したお考えによって創立され、以来80年、各界をリードする優れた人材を多数送り出していることなど、改めて建学の精神に思いをいたして、更なる発展を誓い合うのが目的であろうと存じます。

この会場や祝賀会には全国各地でご活躍の大勢の校友の皆様が参加されるとおききしています。それぞれの時代に皆様方がたどられました感激と感動のドラマの一コマ一コマが積み重ねられて本校のすばらしい伝統がつくられ、いまそれぞれのお立場で先頭に立ってご活躍されていることが、今日の佳き日を一層華やかなものにしていきます。このことが本校の新たな飛躍に大きな励みになると存じます。また本校の伝統から生れる言葉で言い表せない大きな力と皆様の母校愛は前々から敬服しておりまして、改めて敬意とお慶びを申し上げます。

生徒の皆さんにはこの伝統とすばらしい先輩方を送り出している本校の、現在を支えているのは自分達であるという力強い誇りと自覚をもってもらいたいと思っております。そして、今日の佳き日を切っ掛けに将来への新たな意気込みを持つことこそ、皆さん個人にとってもまた学校にとっても大切なことでもあります。

ところで、いま高校教育には社会の変化への対応ということがかつてない改革が求められ、更に工業教育には産業社会の技術革新に伴う新しい工業技術者を育てることが求められています。このような中で、本校は工業教育のかなめの学校として7つの学科それぞれの領域で社会が求めているものをよく見極めて、新しいことを積極的に取り入れているとおききしています。そしてその集約であるといわれています公的職業資格の取得で良い結果が生れていることや、活発な部活動ですばらしい成果をあげていることなどは本県の高校教育に携わる者が全国に誇れるものでございます。生徒の皆さんはもちろんのこと、先生方の日頃の熱心なお取り組みにすっかり感心しているところでして、今後ともなお一層のお励みをお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございます。重ねて本校の限りない発展とご参列の皆様のご健勝をご祈念申し上げましてお慶びの言葉といたします。

祝 辞

高知県立高知工業高等学校全日制PTA会長

谷 村 直 俊

本日は、まことにおめでとうございます。

この記念すべき高知工業高等学校創立80周年並びに新体育館落成にさいしまして、こういう節目に参加できたということは、私ども保護者として大変うれしく感激しております。

現在の複雑にシステム化された社会において、今もっとも大切なことはこの社会を動かしていくに大事な工業技術・情報にあります。この情報をいかにして肉付けをし、生かして、機能させていくか、これを取り扱う人材にあると思います。

いままで創立以来、2万名という卒業生をこの世に送り出し、その一翼を担ってきた高知工業。これからもみなさま方がその後を継いで担って行かなければなりません。

本日は250名を越すOBの方々が全国から参加をいただいております。みなさまも日夜こういった使命を果たすべく勉学に、部活動に日々研鑽してしていることと思います。この若き担い手達をOBの方達をはじめみなさま方にこれからもご指導、ご鞭撻のほどをよろしく保護者としてお願いをする次第でございます。

終わりに、この記念事業を2年前から準備をしていただきました岸之上実行委員会会長をはじめ実行委員のみなさま、それから学校教職員のみなさまには大変長きにわたってご尽力をいただきまして、このすばらしい日を迎えたことに対しまして改めて御礼を申し上げます。

簡単ではございますが、これをもって祝辞に替えさせていただきます。

ありがとうございました。

祝 辞

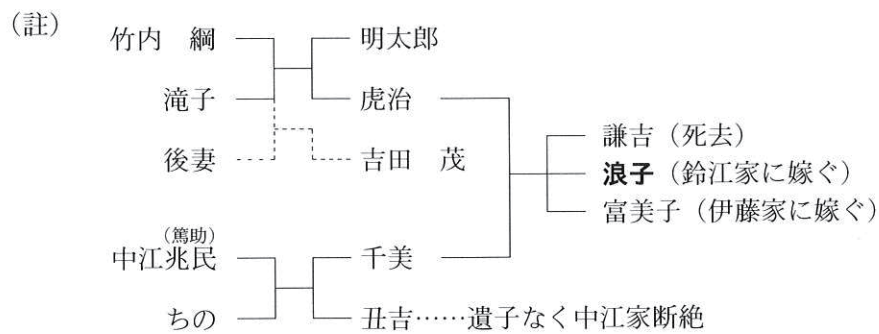
鈴 江 浪 子

創立80周年記念式典の御盛會を祝します。

祖父竹内綱・伯父明太郎が故郷に残した工業学校が県立となり80周年を迎えたこと詢にお目出とう存じます。

富国の基は工業の発展進歩にあると校歌にも謳われていると伺っておりますように代議士から実業界に転じて土佐に工業学校、秋田に鉱山専門学校、早稲田大学に理工学部と工業教育に微力を尽し、佐賀県に唐津鉄工所、石川県に小松製作所を創立し、各学校、会社ともに今日健在であることを嬉しく存じております。

中でも土佐の貴校が有為の人材を輩出し名門校の誉れ高く、80周年を迎えられたことに竹内の血縁として感謝の気持ちを込め御祝辞を送ります。



生徒代表ことば

高知県立高知工業高等学校全日制生徒会会長

長 尾 加 奈

菊香る季節、今日の良き日、高知工業高等学校創立80周年記念式典にお越し下さいます、ありがとうございます。

本校は、明治45年に竹内綱先生と明太郎先生父子が高知市北与力町に、私立高知工業学校を開校し、今年の5月4日に、創立80年を迎えました。

この80年の間には、第二次世界大戦があり、空襲の為に、校舎、実習棟、図書館、道場等を全焼し、再建するのに9年間かかった時代もありましたが、昭和23年に、高知県立高知工業高等学校に学校名が変わり、高度経済成長、オイルショックなどをへて、現在にいたっております。

この伝統ある高知工業の創立80周年記念式典をこのような立派な体育館で行えることを、大変うれしく思います。

1階には、食堂、剣道場、柔道場に加えて、トレーニングルームも出来、素晴らしい体育館に仕上がりました。

この新しい体育館の階段を上るときには、足どりも思わず軽くなります。明るくてピカピカの広い空間には、新鮮な空気がたたえられていて、それを呼吸する私達の気持ちも新鮮です。

授業にも、クラブ活動にも、一段と力が入ります。思いきり、伸び伸びと練習ができますから大会でもきっと、今までに増して、よい成績を挙げられることと思います。

いつまでも、大切に使いたいと思います。

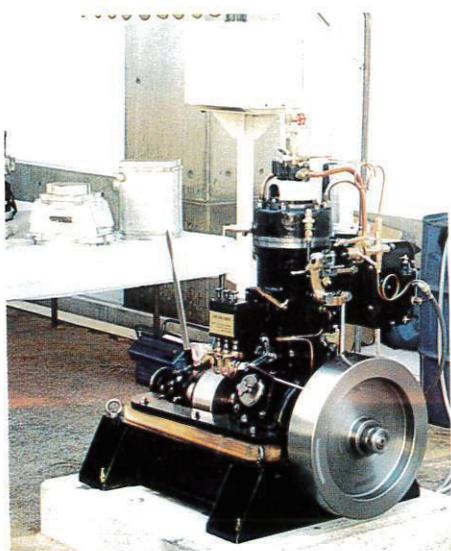
私達は、このように充実されてゆく、この伝統ある高知工業高校で学べることを誇らしく思います。今よりは、勉強に、スポーツに、一層励み、輝かしい先輩たちに続いてゆきたいと思います。

本日は、本当にありがとうございました。

記念式典・祝賀会・記念行事写真集



新 体 育 館



復元された6馬力焼玉エンジン



トレーニングマシン

記念式典

平成4年11月22日



新体育館での記念式典



あいさつする岸之上守代司創立80周年記念事業委員会会長



あいさつする宮田隆弘学校長



記念講演、高知工業高等専門学校山崎郭滋教授

祝 賀 会

— 県民体育館にて —



鏡 開 き



祝賀会会場



祝辞、中内力前知事



山田ダイコも披露

祝

高知工業高等学校
創立80周年並びに体育館落成記念
＝記念行事日程＝

行事内容	日時	場所
招待野球大会 高松商業－高知商業 高松商業－高知工業	9/27(日) AM10:00～ PM15:30	高知市 野球場
体育祭	(定)8/26(土) PM18:00～20:00 (全)10/18(日) AM9:00～PM14:00	高知工業 グラウンド
招待剣道大会 学芸高校－高知工業 岡豊高校－高知工業	11/1(日) AM10:00～ PM16:00	高知工業 体育館
写真展 出品者 野町和嘉氏約80点	11/15(日)～ 11/22(日)	高知工業 大会議室
歴史展 学校史料約180点	11/19(木)～ 11/22(日)	高知工業 体育館
記念ゴルフ大会	11/20(金)	錦山C.C.
記念式典	11/22(日) AM10:00～ 11:30	高知工業 体育館
記念講演 講師山崎郭滋氏	11/22(日) AM11:30～ PM12:30	高知工業 体育館
祝賀会	11/22(日) PM13:30～ 16:00	県民体育館
招待サッカー大会 初芝高校－高知工業 初芝高校－高知高校	11/23(祝) AM10:00～ PM13:30	高知工業 グラウンド
招待バスケットボール大会 新田高校－高知工業 倉敷工業－高知工業	11/23(祝) AM10:00～ PM16:30	高知工業 体育館

記念行事



招待野球

熱戦に全校生の応援（11月20日）

本校創立80周年記念招待野球大会が高知市営球場にて本校全校生の応援のもと開催された。

試合結果 高知商業－高松商業 15 3 高知工業－高松商業 2 3



(定時制体育祭)

記念体育祭、土木科18連勝



伝統ある応援合戦

道場開き剣道交換試合



11月1日

招待校

岡豊高校

学芸高校

(新体育館
剣道場にて)

団体

1位 岡豊高校

2位 学芸高校

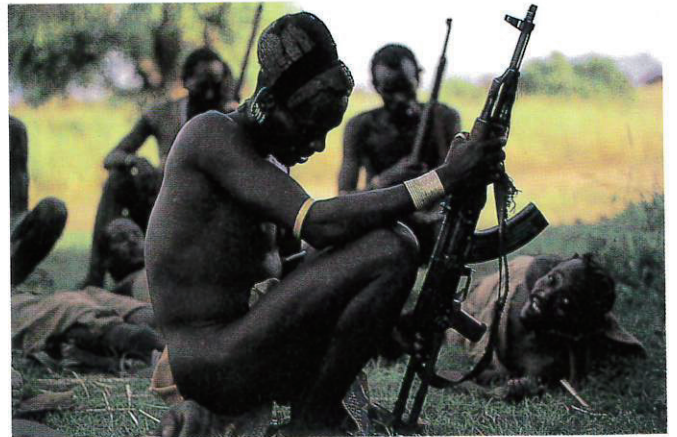
3位 高知工業高校



道場開きの神事



RIFT VALLEY ODYSSEY



地球へ!

野町和嘉写真展

1992年11月15日[日]—11月22日[日] 高知工業高校 同窓会館

高知工業高等学校創立80周年記念

歴史展

80年熱き青春の軌跡



明治45年の創立が今日まで伝統ある、体育祭
文化祭、クラブ活動などの青春の軌跡の写真展

主催 80周年記念実行委員会
会期 平成4年11月19日～22日
会場 新体育館 1階 格技場

高知工業学校
校旗を手にする
岸之上会長と宮田学校長



(図書館で勉強中の生徒)

本校創立80周年記念「歴史展」が「80年、熱き青春の軌跡」のテーマで、
新体育館1階の格技場で展示され、全校生と卒業生300人が見学した。



招待バスケットボール大会



招待サッカー試合

本校創立80周年記念行事として、11月23日、愛媛県の新田高校と岡山県の倉敷工業高校を招いて本校体育館にて招待バスケットボール試合、同日、高知高校、大阪の初芝高校を招いて招待サッカー試合が本校グラウンドで開催された。



(バスケットボール試合)

バスケットボール
試合結果

新田高校 60
対
高知工業 63

新田高校 87
対
倉敷工業 87

倉敷工業 98
対
高知工業 78

サッカー
試合結果

初芝高校 1
対
高知工業 0

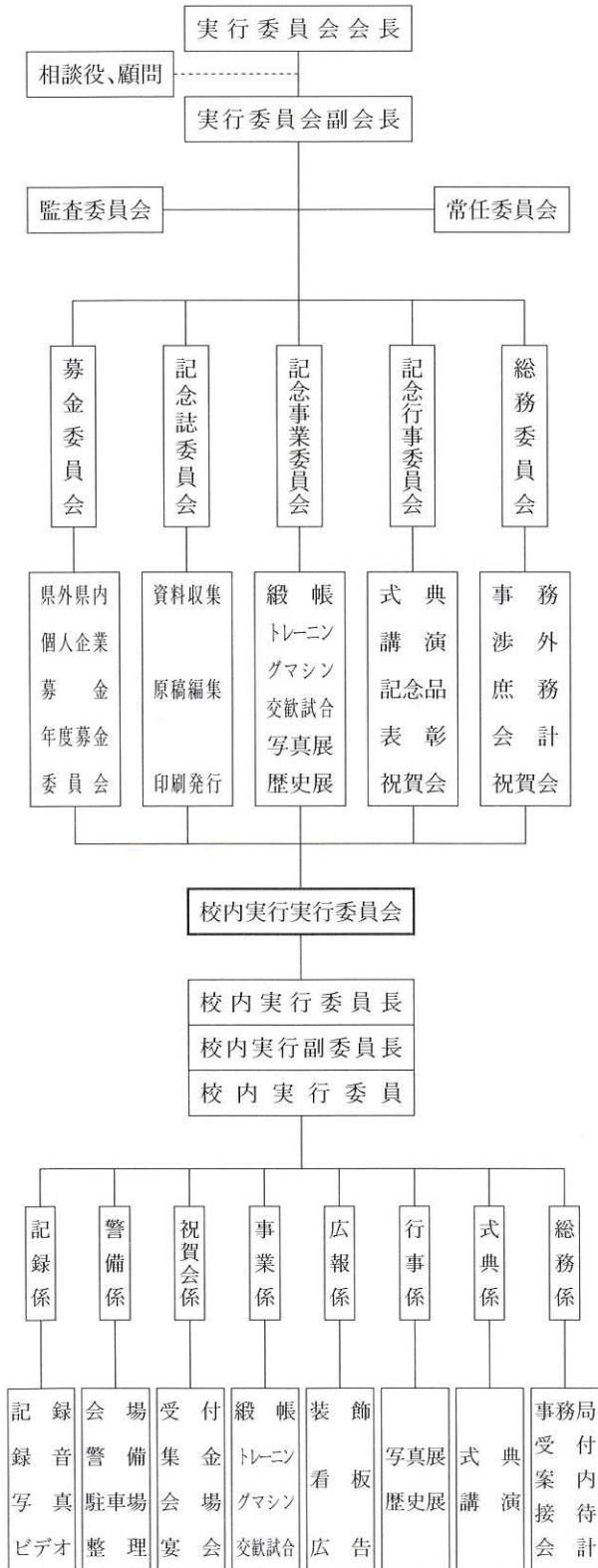
初芝高校 1
対
高知高校 1



(サッカー試合)

経過報告

高知県立高知工業高等学校 創立80周年記念事業実行委員会組織表



創立80周年記念事業主なる経過について

年	月	日	行事	内容
2	4	18	創立80周年のための各団体代表者会	同窓会岸之上会長、副会長宗竹、事務局竹内・尾崎、改築期成会長久武会長、P T A関係(全)金澤会長・(定)北川会長、学校関係 中村校長・小松・土居教頭、定時制教育振興会 野瀬会長、以上11名
	7	6	総務委員会	創立80周年記念事業実行委員会の検討事項 役員・組織・内容等検討
	7	10	実行委員会	創立80周年記念事業委員会の組織委員の確認、規約、事業計画、予算案、募金方法
	7	19	各委員会の開催	募金委員会9/19
	7	30		事業委員会7/21 記念誌委員会7/25 行事委員会7/30
	9	4	第1回常任委員会	各委員会の提出された事項の検討
	10	5	募金委員会	募金方法について
3	3	6	募金委員会	県内年度募金委員の決定 県内の募金方法
	3	30	第1回県内年度別募金委員会	卒業年度別募金委員の決定 クラス会、同窓会を計画、名簿の整理
	4	17	第2回常任委員会	各委員会の報告、募金方法について
	6	1	募金開始	趣意書、振込用紙による同窓生、企業に募金開始
	9	29	第2回年度別募金委員会	募金目標金額達成のための方法について
4	3	24	第3回常任委員会	各委員会での計画に基づく予算の検討や新計画案の検討
	5	29	第1回校内実行委員会	校内実行委員会の結成(各科・各部1名の構成)
	6	23	第2回校内実行委員会	校内実行委員会のメンバー業務分担決定及び今後の進め方打ち合わせ
	7	16	第3回校内実行委員会	各委員会が実行委員会の決定事項にそって実施するための打ち合わせ
	7	20	第4回校内実行委員会	各委員会の業務内容の再確認及び実行委員会への予算要求
	7	21	第5回校内実行委員会(総務委員会)	実行委員会決定事項について打合せ、進行状況確認
	7	31	第4回常任委員会	各委員会の内容及び補正予算
	10	23	校内実行委員会	係長会最終的打ち合わせ会
	10	26	第5回常任委員会	式典、祝賀会等の方法について打合せ各委員会より最終報告
	11	19	式典に祝賀会等の関係者打合せ会	式典、講演、祝賀会等の進行、受付方法の打合せ

創立80周年記念事業実行委員会役員

役 職	氏 名
相 談 役	戸梶徳吉、塩田一郎、田口信雄、大島正賢、毛利敬一、久武亀彦、樋口晃一、上久保浩、浜口之孝
顧 問	大村之彦、元木益樹、川添義明、東川正弘、梶原守光
会 長	岸之上守代司
副 会 長	中村富和、宮田隆弘、上村武志、北川 渉、谷村直俊、植木健一、久武亀彦、野瀬 勇、宗竹啓介
監査委員	安岡 宏、竹崎久雄、中村晃一、小松健一、安岡嘉雄、野瀬善矩
総 務 部	小松元邦、土居総昌、寺村伸幸、長崎龍彦、中村武代、田井康宏、中村晋一郎、松木健信、尾崎翹彦、下本伸二、浜田浩一、茅中良夫、中山靖夫、佐々木菊雄、井本佳子
記念行事委員会	青木正彦、近森正久、中島紘一、前田正子、吉岡豊延、川瀨伸之、多田 修、橋本俊彦、西川章史、南千加良、中山昭典、中沢順之助、小松昭夫、宮地弥典、岡村勝幸、西森貞雄、吉本 貢、川崎正光、大谷弘容、山本健二、吉田泰三、岡田 正、松田公一郎、石建大八郎
記念事業委員会	大石公平、野瀬 勇、中屋和明、北川 渉、西 竹彦、関本和雄、大野良一、深瀬尚子、鎌倉隆三、光明院二夫、前田献雄、高松匡喬、三谷 斉、熊谷有美子、西森 正、川本清四郎、大坪 功、前原泰之、須見速男、太田博久
記念誌委員会	宗竹啓介、竹内福志、井上 崇、橋田時美、西森 稔、池本潤一、福岡正志、大谷修二、竹島寛之、高木啓夫、奥田幹雄、大西宏志、川上矩顕、平田健一、久保田昌宏、依光邦夫、松村家寿栄、吉井隆史、保木時男、横山昌三
募金委員会	早川紀夫、北川忠幸、武田淑弘、北村節子、高石泰雄、徳弘傳男、田所金久、包国 勝、田中一精、溝瀨博彦、川瀬卿春、田内正一、細川政澄、町田耕一、大黒俊樹、岡本修一、山本洋明、松村司郎、久保内志瑳男、北山知旨、三谷洋海、西ノ内寿一、池田忠治

創立80周年記念校内実行委員会

係 名	業務内容	構成人員名
実行委員長		宮田学校長
〃副委員長		小松・土居教頭、寺村事務長
総務係 小松教頭 土居教頭 寺村事務長 田井	事務局	尾崎、今津、中山、下本、田村、茅中、浜田コ
	案内、受付	包国、久家、石本、松本、山中、池内、中村、宮地、三谷、須賀、奥山、野田、小川、辻、吉田、千光士、岡林
	会 計	寺村事務長、高橋マ
式典係 橋本ト 西森	式 典	川瀨、久武、竹崎、茶畑、梅原、南、田所シ、森田ム、池村、浜田カ、田中シ、坂本、杉本、山崎タ、宇賀、佐竹、木伏
	講 演	澤、西原、公文、三谷ミ
	記念品	多田、山脇、依光、鎌田、井上、松浦
行事係 今西 高木	写真展	小松ア、岩貞、堀内、井上トミ、片田、竹島、福原、松山
	歴史展	福岡、茶木、森、松木、片岡ナ、川上、(下本)、溝瀨、南、武内
広報係 大野 川瀨	装 飾 看 板	竹内、片田、片岡ア、中村、山本、(川崎)、橋詰、野竹
事業係 高松 善万	クラブ交歓 試合	川崎、クラブ推進検討委員会(6人)、宮畑、浜田シ
	トレーニン グマシン	吉本、黒瀬、計屋、(川瀨、久武)、小南、藤尾、(宇賀)
	緞 帳	西、平野、楠瀬、寺田、(大野、竹内、片田、片岡ア、中村、山本、川崎、岩貞)、秋沢、国松
祝賀会係 大谷 中山	受 付 集 金	平田、下村、吉岡、三宮、西内、西本、五百蔵、谷内、西森ト、塩田、安並
	会場準備	門田、西村、楠本、岡本、浜田ヤ、小松、三谷サ、西岡
警備係 黒瀬 中川	会場警備	松岡、藤崎、吉松、橋本、森田マ、井上トシ、山崎セ、横山、尾崎ケ
	駐車場	下山、中居、山岡、池、西川、金子、清岡、吉本、岸本、安岡、津野
記録係 田所カ 山崎ト	記 録 写 真	田中イ、山川、藤本、助村、植田、高橋ヤ、野町、(溝瀨)
救護係 西原 三宮	保健室で救護	西原、三谷シ

体育館工事報告

事務長 寺村伸幸

新体育館の建っている敷地は、高知県より平成2年4月1日に本校へ所管換えとなりましたが、この学校への譲渡の経緯については、古い歴史があり、歴代の期成会長をはじめとする諸先輩方大変なご努力のあった事を忘れてはなりません。

特に、当時の寺尾豊改築期成会長の秘書であった、現県議会議長結城健輔氏のご尽力が大きかったと聞いています。

古い資料を見れば、この土地は高知県工業試験場の所属地であり、昭和46年7月改築期成会（会長寺尾豊）より県当局に本校への移譲を陳情したのに始まる。

当時、工業試験場は敷地が狭く、他に移転場所を求めていた時期でありましたが、その後、高知市布師田に工業機械団地が造成され、そこへ移転する計画があることを知り、早速、本校へ移譲されるよう陳情の運びとなったのであります。

したがって、工業試験場敷地問題は随分古く、かれこれ20年以上前に遡るのであります。この陳情は毎年のごとく行われ、ことあるごとに要望してきましたが、特に平成元年10月の県議会において、東川正弘議員（昭32定建卒）により本校への移管ありや、との質問がなされ、これに対し中内知事の「学校側の要望に沿った形で活用を図れるよう考慮している。」との答弁を得、あらかた決まったとの感触を持ち関係者一同安堵した事でありました。

ここに当時の陳情要旨をみると、下記のように書かれている。

陳情書（抜粋）

昭和47年7月30日

高知県工業試験場跡地を高知県立高知工業高等学校の用地として確保されたい。

本校と隣接する、県立工業試験場が、移転するとのことであり、その跡地の利用について、県当局におかれましては、種々構想をおもちのことと存じますが、本校では校内が整備されつつあるとはいえ、校地は変形であり面積もまだまだ充分とはいえない状態でありますので、本校のためのみならず、本県教育の将来の発展のためにも、ぜひ跡地を本校校地として利用させて頂くよう、格別のご配慮を賜りたく、切に陳情いたします。以下その理由について申しのべます。

1. 不足運動場の確保
2. 定時制専用校舎の建設
3. 新体育館の建設
4. 寄宿舎の新設

（以下略）

本校は、敷地面積も狭隘なうえ建物も整然と建てられてなく、とびとびにあり、効率的な利用をされていない、したがって工業試験場跡地は咽から手の出る程欲しかったはずであり、総力を挙げて陳情したのは十分理解されるところであろう。

中でも、当時すでに定時制の独立棟が陳情の対象となっていたにもかかわらず、20年経っても実現しないのは何んとも残念の感がします。

また、陳情主旨に「本県教育の将来の発展のためにも……」と大見得をを切っているのは、本校が県内における工業高等学校の中心校としての自負ゆえんであろうか。

毎年、このように県議会・県教育委員会へと陳情、要望の結果、前述のごとく、平成2年によく本校校地となったのであります。相前後して、本校創立80周年が平成4年5月であり、このお祝の式典をぜひ新しく、広い体育館でやろうと言う声を持ち上り、体育館改築の機運が一気に持ち上りました。

ただちに対県交渉に入りましたが、「はいそうですか、すぐ着工しましょう」とはなかなかいかず、何回か陳情交渉を重ねたものでした。また、早期着工の理由の一つに、創立80周年の式典を新しい体育館で挙行したい事も申し入れてありました。

時を同じくして「高知県立高知工業高等学校創立80周年記念事業実行委員会」が岸之上同窓会長を会長として発足しました。この記念式典を5月4日の創立記念日に行えるようにと考えていましたが、内心では間に合わんではないかとの懸念はしてありました。したがって遅くとも平成4年11月ぐらいには何んとしても挙行したいと実行委員会では話し合っていたところでありました。

そうするうちに、そろそろ設計、工事の工期的なタイムリミットも近づき、あせりの色も見えはじめた頃、平成2年3月、県議会控室に、西森県教育長をはじめ、担当職員においでいただき、詰めの交渉を持ちましたが、その席上西森教育長は「高知工業の体育館は、平成4年11月の式典に間に合うよう繰り上げる」と明言してくださったのであります。この繰り上げるというのは、本校の体育館は数年先に改築計画を立てていたようであり、この席には、久武改築期成会長のほか、同窓会、定時制教育振興会、全日制・定時制PTAのそれぞれの会長及び学校側と10名ほどで交渉しましたが、一同、大いに感激して帰ったものでした。この席をセットし、同席して早期着工を引き出してくださったのは、本校同窓生である、大村之彦、元木益樹、東川正弘、川添義明、梶原守光、各議員のご尽力によるものでした。ここに誌上をかりて改めて厚くお礼を申し上げる次第であります。

そんな中で、県教育委員会と話し合いを重ねていくうち、「高知工業は建物の配置が、ばらばらで整然としていない、その場限りのような無計画な建て方であり、しかもグラウンドも非常に狭いし、次の建物を空いた所に次々と建てていては100年

経っても良くはないのではないか、基本的に見直していただきたい。」と申し入れたところ、県教育委員会もこのことは十分理解して下さり、「高知工業高等学校基本構想」なる設計書を、外部建築コンサルタントに依頼して作成してくれました。この基本構想は、10年20年後の将来像であり、最終的にこのような姿になるのであるが、自分達目で確かめることが出来るかどうか……、何としても実現させたく思っているが、特に定時制独立校舎は急務と考えている。

そして、新体育館の設計図が平成3年6月に仕上り、同年10月28日起工式が行われ、工事の樋音も高く、平成3年・4年両

年度に亘って、建築が進められ、県下に誇れる立派な体育館がここに完成し、めでたい創立80周年記念の式典と同時に落成いたしました。感激にたえません。

終りになりましたが、本事業につきまして、県当局をはじめ前述しました、本校同窓生の県議会議員の皆様、改築期成会、定時制教育振興会、同窓会、全・定P T A等、諸団体のご支援・ご協力がありましたことを感謝し、厚くお礼申し上げます。

そして本校が永く積み重ねられた伝統を継承し、未来永劫ますます発展することをお祈りしまして、工事報告といたします。

新体育館工事概要

設 計 野瀬・建築企画委託業務共同企業体

(主 体) 野瀬建築設計事務所
高知市丸ノ内2丁目8-10
株式会社建築企画

高知市役所町21-3

(電気設備) 研設備設計事務所

高知市上町1丁目11-23

(機械設備) 研設備設計事務所

高知市上町1丁目11-23

建 築 藤原・北村・中勝建設工事共同企業体

(主体工事) 株式会社藤原建設

高知市南の丸町15-2

北村商事株式会社

高知市城見町5-19

中勝建設株式会社

高知市葛島4丁目5-14

(電気設備工事) 株式会社昭和電気工業

高知市昭和町19-11

(機械設備工事) 日本化工株式会社

高知市神田703

工 期

着工 平成3年10月28日

完成 平成4年10月31日

面 積

1 F 1,644.40m²

2 F 1,643.77m²

3 F 296.27m²

付帯工事(渡り廊下、自転車置場)

319.49m²

合計 3,903.93m²

工 費

建築主体 492,809,680円

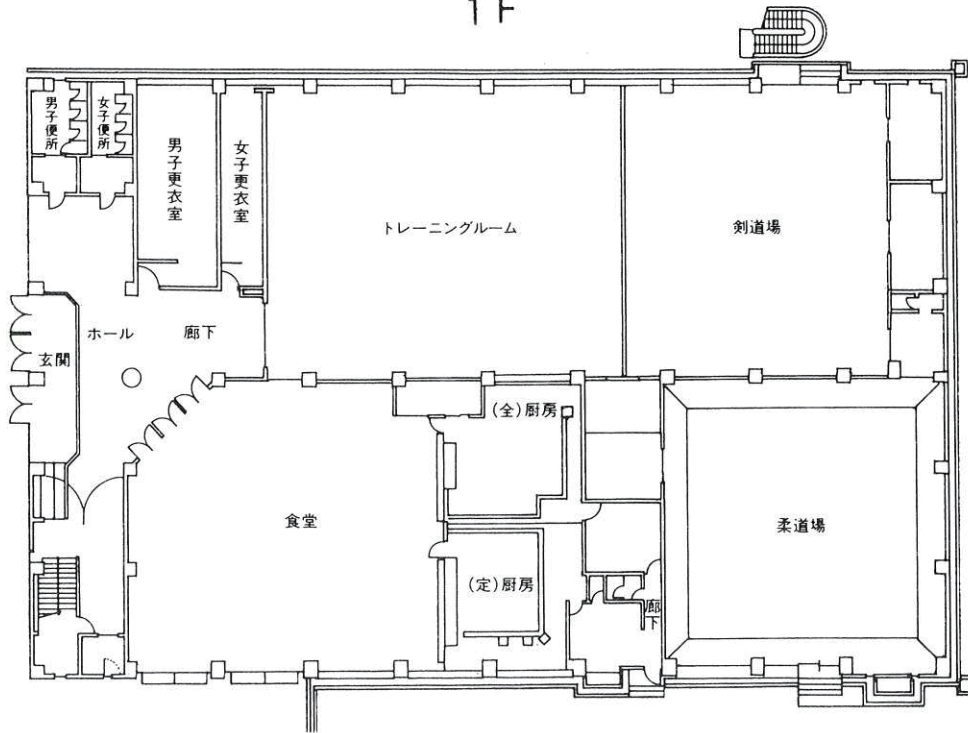
機械設備 44,555,740円

電気設備 77,013,000円

合計 614,378,420円

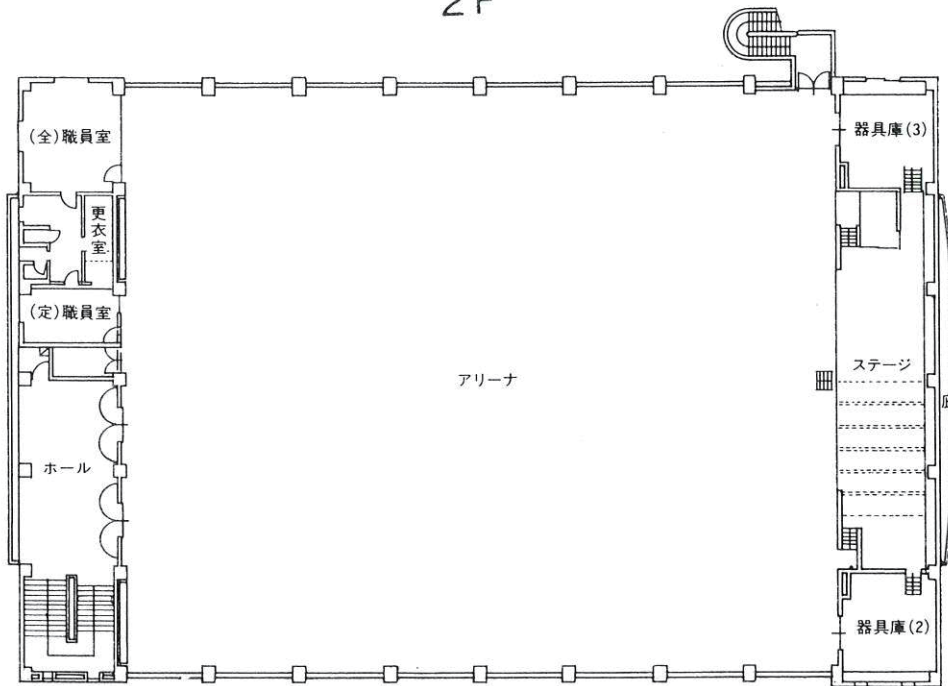


1F



体育館平面図

2F



高知工業高等学校基本構想（一部抜粋）

計画の基本理念

平成3年2月

1. 高校教育理念も従来の画一的な学校教育への批判や、社会、経済環境の変化に伴う教育への要請など、教育の改革が求められており、高校教育においての大きな変革期であり、教育システムも従来の画一的知識詰め込み主義ではなく、一人ひとりの学習過程を大切にす方向へと進み、多様でかつ弾力的な教育システムが必要とされている。

学校施設に於いても、教育の場としての純粋性、崇高性を高める施設であることは言うまでもないが、屋外環境の充実を図り、ゆとりのある空間を提供する必要がある。又、心身共に健康な職業人の育成という理念から考えれば、体育教育の重要性は言うまでもない。現状の体育施設は甚だわい狭であり、早急に時代に即応した体育施設の充実を図る必要がある。

2. 学校施設の地域解放 余暇の増大や科学技術の高度化に伴い、教育面でも生涯教育の必要性が叫ばれている折りでもあり、工業高校の特殊性を考えれば社会人の学術技術研究の場としても広く地域に解放される必要がある。

その他、アプローチのしやすさという点からも、各種資格試験や講習会、あるいは、学校関係会合の場として広く利用されており、学校施設の整備に留まらず、正面広場や駐車場といった外部空間の整備が望まれる。

3. 高知工業高校は県下でも数少ない全日制・定時制併設校であり、現状は殆どどの施設を共用している。クラブ活動等生徒の在校時間は長期化の傾向にあり、施設の使用をめぐって時としてトラブルが発生することがある。

又、生徒の誇りや学校に対する愛着心の高揚を図るためにも、少なくとも普通教室の共用は避けるべきである。

4. 社会の変化に伴い、女性の技術的職業への進出は著しいものがある。工業高校としても例外でなく、全入学者に対する女生徒の比率は年々増加している。このことは女子便所の増設、あるいは更衣室、シャワー室の設置といった施

設内容の変化を促す。

5. 本計画として、長期的には上記の理にもとづいて基本構想を立案するが、とりあえず10年計画として、工業試験場跡地の有効利用をはかるとともに老朽校舎の改築と屋外空間の整備に主眼を置いて構想をまとめることにする。

計画の基本条件

1. 敷地は、現状敷地に工業試験場跡地を加えたものとする
東西約200m、南北約165m
2. 施設群の改築は、生徒の授業、安全等に極力支障のないスケジュールにて行うものとする。
3. グランドは、現状よりも可能な限り広くとり、その他の体育施設の充実を図る。
4. 普通教室は、全日制27クラス、定時制20クラスとするが、定時制については、将来の生徒数の変動を見越して、柔軟性のある間仕切り方法を取り入れる。
5. 定時制棟を独立して設ける 全日制、定時制併設校という特殊性を考慮し、全・定の動線を可能な限り分離する。又、「自分たちのクラス」という意識を高める為にも、少なくとも全・定の普通教室の共用は避ける。
6. 駐車場は、約100台駐車可能とし、駐輪場は800台以上のスペースを確保する。
7. 各科間の関連制を考え、判りやすい科配置計画を立てると同時に動線は複雑にならないよう明解に計画する。
8. 安全で快適な、潤いのあるキャンパス生活ができるよう、屋内空間はもとより屋外空間の整備にも充分留意する。生徒が在学中はもとより卒業後も母校としての誇りや愛着を持ち、又、一般県民からも工業高校としての特色を持ち、かつ独自性を持った魅力のある教育施設として、広く認知されうる施設とする必要がある。

現状施設の問題点

1. グラウンドが狭い

高知工業高校の体育クラブは、県下高校スポーツ界でも高いレベルに位置し、四国大会、全国大会に出場するクラブも多い。当然練習も活発であるが、グラウンドが狭いため、各クラブが時間割り制によって使用しているが、練習中の事故等を考えると大変危険である。

2. 各専門科棟の配置が不合理

科の新設、定員の増加に伴い専門科棟を増築していったが、敷地の狭隘さと、生徒の授業、安全に支障の無い工事という既存の学校建築の持つ特殊事情のために、建物配置には不合理な点が見受けられる。そのため、各専門科棟の関連性に乏しく、動線の複雑な交錯、無駄な延長が見受けられる。

3. 建物の老朽化

管理棟、1号館、2号館、3号館、4号館、体育館等の老朽化が特に甚だしく、雨漏り、外壁モルタルの浮き、床仕上げ材の剝離、内部仕上げの汚染が目立つ。

4. 駐輪場・駐車場が狭い

自転車、自動車を利用する生徒、教職員の増加に伴い、駐輪場、駐車場を急激に増設したため機能上極めて不合理であり、景観上も見苦しい。

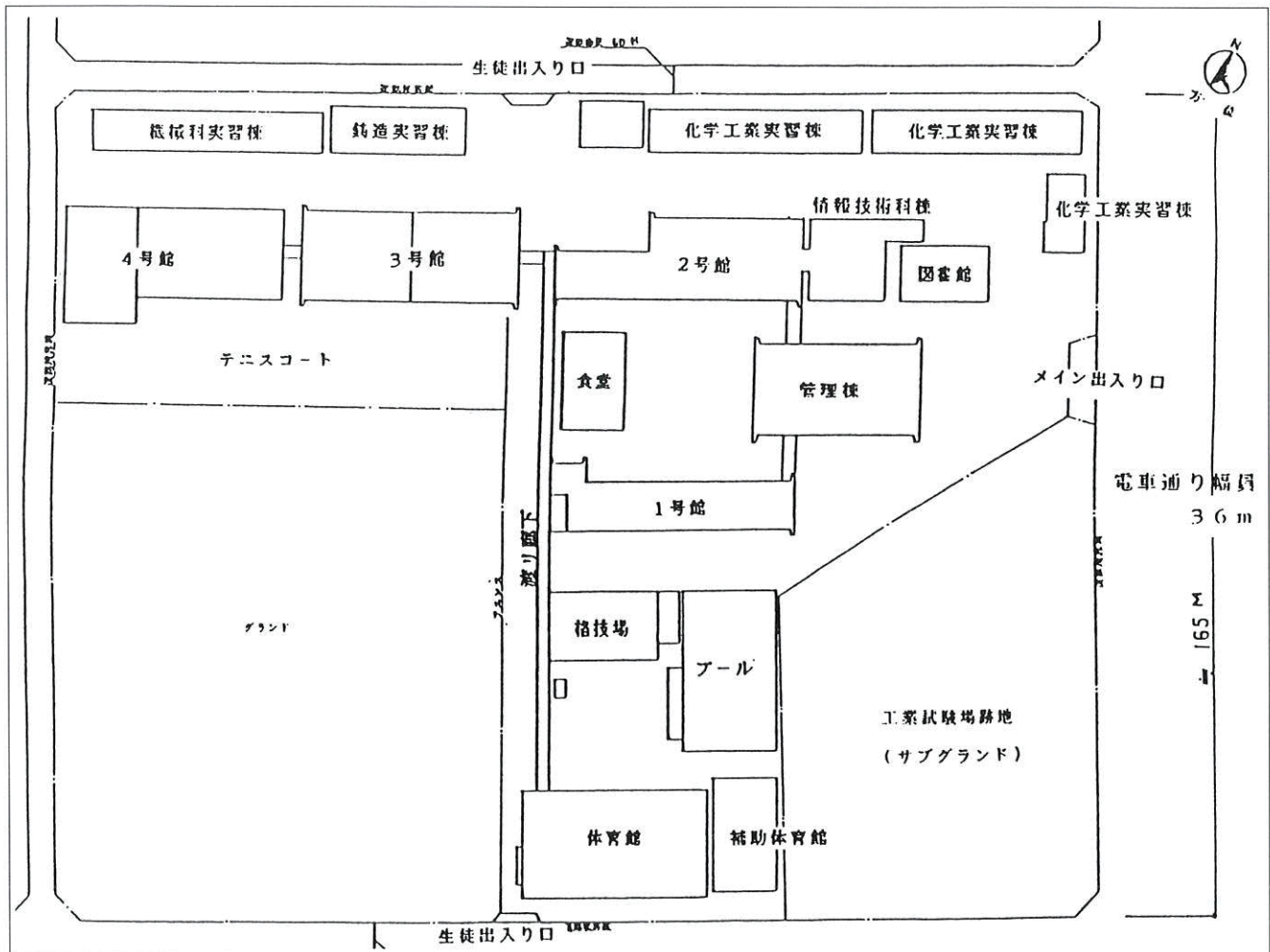
5. 魅力のない外部空間

これまでは、増大する生徒の為の建物整備（スペース確保）が急務であり、外部空間の整備が遅れている。ペイプメント、植樹、街灯、ストリートファニチャーの設置などゆとりのある広場空間が無い。

6. 定時制の独立制欠如

現在、あらゆる施設設備を全日制と共用し、定時制の独立制に乏しい。時として、その使用に当り混乱、トラブルが発生することがある。

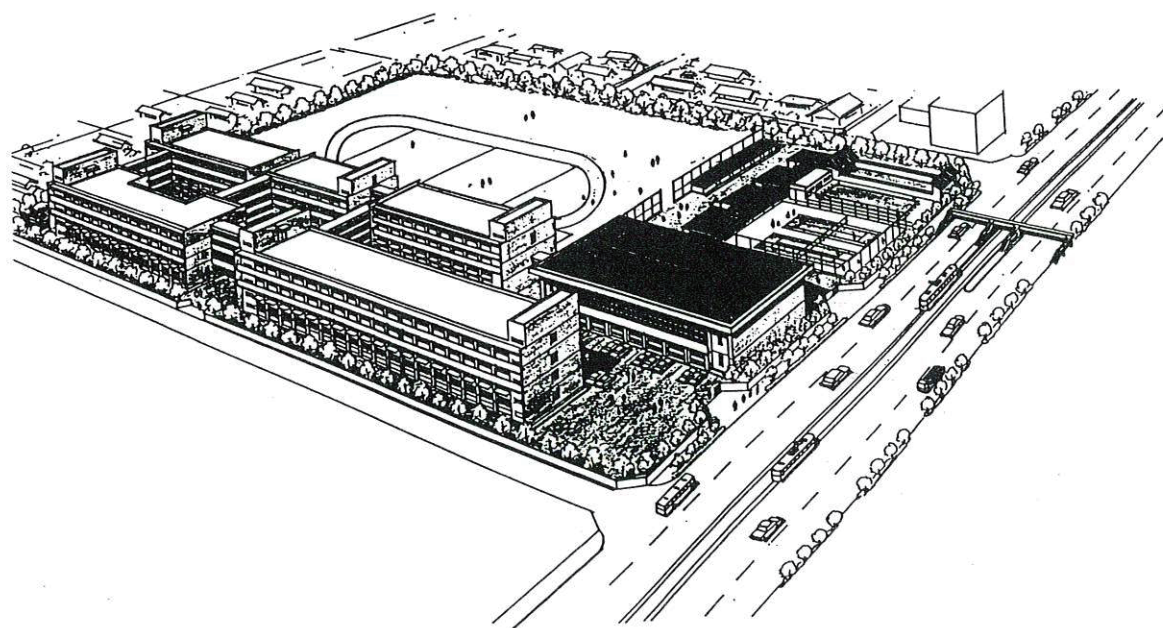
現在の校地・校舎の平面図



施設整備基本スケジュール（10カ年）

内 容	規 模	m ²	時 期	概算予算 百万円
体育館改築	RC-2F	3,400程度	前5カ年	700
既存体育館取り壊し	SRC-1F	1,105	前5カ年	10
家庭科実習室	S-1F	301	食堂棟改造 平成6年度までに	50
既存プール・ 格技場取り壊し	RC S1F	25m×8コース 350	前5カ年	6
定時制棟新築	RC-4F	3,000程度	前5カ年	700
昇降所新築	2カ所	300	後5カ年	60
渡り廊下高層化室内化		1,000程度	後5カ年	180
玄関前広場の整備		2,200程度	後5カ年	50
3, 4号館改築	RC-4F	5,000程度	後5カ年	1,100
3, 4号館取り壊し	RC	4,947	後5カ年	50
1, 2号館大規模改造	RC-4F	5,265	後5カ年	840
生徒 メインアプローチ 及び中庭の整備		2,400程度	後5カ年	60

完成時の立面図





平成4年度教職員一同（全日制）





平成4年度教職員一同（定時制）



80年の歩み

主なるできごと

明治45年より平成4年まで

1912年・明治45年（大正元年）創立

明治41年

6. 18 敷地2467坪1合9勺。（高知市北与力町上1丁目第一高等小学校敷地並びに同建物2棟）を買い受ける。

明治45年

2. 8 私立高知工業学校設置申請及び財団法人設立を申請。
2. 27 評議員、竹内明太郎来県、学校創立事務開始。
3. 11 財団法人設立の件及び学校設置の件許可。
3. 1 学則第2条。本校に本科及び予科をおき本科を分けて機械科及び電気科とする。第3条、修業年限は本科3年予科2年とする。
3. 26 第1回入学試験開始。募集人員70名に対し入学志願者256名。
4. 6 午前10時第1回入学式挙、予科1学年生徒90名に入学を許可。
4. 8 授業開始。
5. 1 吉崎七次郎、校長事務取扱となる。
5. 2 設立者竹内綱来県、東京高等工業学校校長手島精一並びに竹内家教育主任中村康之助来県。
5. 4 午前9時朝野の貴紳を招待し県公会堂において本校開校式を挙（これより本校開校記念日を5月4日と定める）。
5. 10 長岡郡新改村水力発電所付近に修学旅行実施。
9. 5 校舎1棟落成（鑄造工場及び鍛冶工場総建坪数108坪）。
10. 25 吾川郡伊野町弘岡中ノ村（現春野町弘岡）付近に修学旅行。
12. 24 評議員竹内明太郎、同家教育主任中村康之助とともに来校し職員。生徒に対して講話、且つ欧米巡視中購入の新刊図書を寄贈。

県内 国内外関係

1. 20 佐川に川田文庫開設（青山文庫）。
3. 10 県公会堂落成。
4. 1 中学校の武術を正課とする。

1. 1 中国に南京臨時政府成立。
2. 2 清朝滅亡、中華民国興る。
7. 6 第5回ストックホルム・オリンピックに日本初参加。
7. 30 明治天皇崩御、大正と改元。
12. 14 アムンゼン初めて南極点到達。
12. 19 憲政擁護大会、東京で開催。
12. 31 第3次桂内閣誕生、この年米価騰貴生活困窮。

優良なる技術者というものは、次に申す様な素養を持つものでなければならぬ。

一、身体の強壯なること。
二、技術上の学問の素養あること。
三、学問の素養と相まって、之に副ふだけの実地上的手腕あること。
四、右の三つの能力を発揮するに足る人格を備ふること。

（明治四十五年五月四日開校式における演説より抜粋）

本校の校訓 工業技術者としての素養

竹内綱

【創立者】



竹内 綱先生(1839～1922)
政治家、実業家。通称万次郎、

諱は吉綱、号武陵。天保10年12月26日幡多郡宿毛村（宿毛市）に生まれる。父は庄右衛門梅仙。代々伊賀家の重臣であった。綱は頭

脳明晰でとくに理財の才があり、主家の財政立て直しに功をあげる。21歳の時、主家の世子伊賀陽太郎の東征に従って軍功あり。明治2年大阪府典事ついで参事となり、同7年大蔵省六等出仕となったが8年辞職。のち後藤象二郎の蓬萊社に入り、社長を務め高島炭坑を経営する。明治10年、立志社拳兵に参画し、捕らわれて1年の禁固を受ける。出獄後は自由党の組織に参加し、明治23年高知県から選ばれ衆議院議員に当選した。明治29年朝鮮の京釜鉄道の専務理事となり、以後実業人として活躍、明治40年京釜鉄道が国有となり、東京に引き上げ、実業人として働く。明治45年に30余万円を出して高知市に私立高知工業学校（県立高知工業高等学校前身）をつくった。秋田鉱山専門学校も創設。大正11年1月9日東京の自邸で病没した。84歳

【創立者】



竹内明太郎先生(1860～1928)

実業家、政治家。万延元年2月28日、竹内綱の長男として、幡多郡宿毛村（宿毛市）に生まれる。父に従って上京し、英・仏語を学び、のち自由党に入り東京絵入

自由新聞を刊行する。さらに鉱山業に転じ茨城無煙炭、夕張炭坑、竹内鉱業、九州唐津鉄工所を経営する。大正4年、6年、9年と代議士に当選、政友会に所属する。また、早稲田大学理工科の新設に尽力し、私立高知工業学校（県立高知工業高等学校前身）を創立するなど産業教育の振興に貢献した。昭和3年3月23日没、69歳。

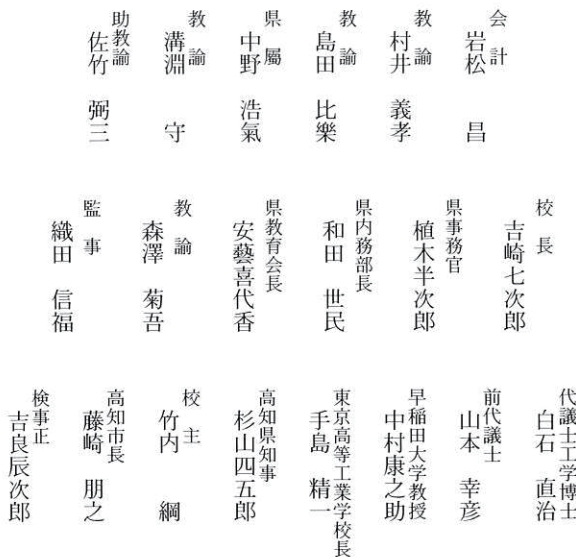


初代校長
吉崎七次郎

明治45年～昭和8年
(校長事務取扱 明治45年～大正4年)

略歴

1. 明治6年1月6日大分県中津市に生まる。
1. 大分県師範学校卒業、小学校に奉職すること2年余。
1. 明治33年東京高等工業学校機械科卒業。
1. 兵庫県立工業学校奉職在職10年余。
1. 明治44年12月校主竹内 綱先生の将来の我国工業教育に対する大理想と郷土愛により本県に工業学校を設立せんとするに際し、当時東京高等工業学校長にて我国工業教育界の第一人者恩師手島精一先生の推薦により初代校長として学校創立に劃策せらる。



(開校記念写真5月4日)



は右様な考を起したが為に、若しも出来得るならば自分の考へた様な教育をやつて見たい、ならば、老後の思ひ出に、工業志望の少年の爲めに、一臂の力を添へて見たいと、かう思つたのである。之が私の本校を設立するに至つた理想であるのであります。

さりながら教育の業は極めて慎重の考慮を要するものである。中々に私などの如き浅慮短見の者が思ひ立つたからとて、直ぐに始められる訳のものではない。其でありますから、私は私としての教育欲を起してから私の平素尊敬する東京高等工業学校校長の手島精一君に明太郎を以て屢々御相談をしたのである。

御承知の通り、同君は我國の工業教育家の泰斗といつて然るべき方で、斯道には誠に御熱心で又御経験の深い方で居られる。所で、私の懐抱して居りました意見は、偶然にも手島君の真摯なる御賛成を得たのであつて、私に取りては中心無限の快感を覚えた次第であります。

こゝに至りて私は勢ひ私の微力を顧みて居ることが出来なくなりまして、茲に自揣らず本校の開校を實行することに致したのであります。私が本校を設立し且つ之を開校するに至りました来歴大要申しました訳でありますから私が本校の教育の方針として、本校の職員諸君に御願いたします所、並に生徒諸子に望む所ものは、之に依りて略ぼ御諒察を願へるかと思ふのであります。

次に、私は本校を当地に設立するに至つた事由に就て、尚一言申上て置きたいと申すのは外でもありません。御承知の通り、私は土佐の出身で、土佐を郷里と致して居るものであります。故に私はこの土地が彌々發達して、土佐の子弟が續々立身出世をすることを希ふ精神に於ては、敢て人後に落ちないと信するものであります。それで、熟々我が郷里のことに就いて考へて見ますと、地理上の位置は誠に交通不便の僻地でありますけれども、幸なことに、古来天下の人物といはるゝ人達が、沢山に土佐から出て居る。彼の明治維新の際の如きは、土佐の人物輩出の最も華やかであつた時代かと思はれます様な訳で、所謂、先達の土之が先を爲し、後進の者之が後に継ぐといふ工合に參つて来たのであります。諸君御国自慢は他国ですることかも知れませんが、現代に於ても土佐の人は、社会のあらゆる方面で活動を致して居ります。この点は今日こゝに御参列の県当局を始め、土佐在任の諸君の御骨折の結果でありますので、私共の深く感謝する所であります。

然るに私が前に申し述べました通り、今日の我國の勢は工業立国で行かねばならぬ。此

の時に際し我高知県にまだ工業教育の機関が出来て居らぬのはどうしても物足りない様に思はれるのであります。

勿論国家には国家として、相当の工業教育機関があつて、高知県が独り之に与つからぬ訳ではありませんが元來工業の技術者には各種の階級がありまして、軍隊で申さうならば、士官もあれば下士官もあり、兵卒もあるといふことになって居る。而して我が郷里の子弟は、各自の境遇と志望とに従ひて工業界に於ける士官ともなり、下士官ともなり、又は兵卒ともならなければならぬ。そこで士官以上は国家が之を養成するにした所が、士官以下の者はどうしても地方で養成をしなくてはならぬのである。

茲に於て、本県に於いて彼の中学校や師範学校に並んで行くだけの、工業の学校がどうしてもなければならぬといふ結論に到着するのであります。

尤もこの理屈は私の發明でも何でもありません。県当局を始め、県民各位のかねがね考へて居られたことであるが、丁度私が前に申した様な、工業教育の欲念を起した所の昨今に至りて、其必要が目前に迫つて来たのであります。諸君、私の工業教育の欲望は必ずしも高知県に限りませんでしたものではありませなんだが、然し若しも私の計画を高知で実行致すとすれば、恰も郷国の子弟の爲に幾分の便宜となることでもあります。是れ私が本校を当地に開設した理由であります。

私が学校の設立を思ひ立ちました理想と工業学校を当地に開設致しました理由は、右申す通りであります幸に諸賢の庇蔭に依り、茲に開校式を挙行するに至りましたなれども、私の微力であるが為、学校規模は甚狭小であるのみならず、創立勿々の事として、校舎を始め総ての設備が、不完全でありまして、慚愧に堪へぬ次第であります。然れども漸を以て私の力の及ぶ限りを尽す積でありますれば、本校の職員諸君及生徒諸子に於きましても、深甚の御忍耐を以て御勉勵あらんことを希望するのであります。又來賓諸君に対しては此点に関し偏に御同情を以て御賛同下さるゝ様特に御願する次第であります。

私はこの開校式に臨みまして、私共父子が従來の感想を陳述しまして御清聴を煩はしました。來賓諸君、願くは私父子の微衷を諒とせられ、爾今將來本校の教育に深厚なる御高配と御援助を賜はり、以て本校の創立の主旨を貫徹し、相応の成績を見るに至らんことを、懇願する次第であります。

本校設立の主旨

明治四十五年五月四日開校式に於ける演述

校主 竹内 綱

私が本校を創立するに至りました其來歴及私及伴明太郎が、理想とする所を御話致しまして、御清聴を煩はしたいと存じます。

私は本県幡多郡宿毛村の出生で有りまして、高知藩の家老伊賀主馬の家臣であります。御承知の通り宿毛村は高知市を去る四十里余にして、其交通の不便は日本中殆んど稀なる僻地で、戸数は伊賀家の家臣商家共僅に二百戸に足らぬ片田舎であります。

然るに伊賀家は祖先以来代々文武の学芸を奨励致し来りました故に、私の十代前の当主兄弟三人杯も当時日本南学の宗と称せらるゝ谷泰山、山崎闇齋等に從ひ、京都又は当時の江戸に往来し朱子学を修行致しました。

此の如き一郷の風習でありました故に、私の旧主伊賀主馬の代に至り、田舎には比較的稀なる学校を設けて、家臣の子弟を教育し来りました事であります。此が為めに明治維新に際し、伊賀家の家臣百名に足らぬ中より、若干の有志の士を出しまして、多少国事に尽す所ありました次第でありました。

私は斯様な感想より、先年来伴明太郎と相談しまして、小規模なりとも中学校様の学校を設け、郷国子弟教育の一助となさん事を思ひ立ちましたに始まり、其計画を明太郎に一任しまして、漸く今日本校の創立を見るに至りました次第であります。

さて、私父子の理想に於きまして、我国は古來農業国で、農を以て立国の基として来たといふことは、今更申す迄もない事ですが、今日では人口の繁殖と、万国交通の発達との為、単に農業本位では一國の經濟を立てる訳には參らなくなって寧ろ農業を以て国内を養ひ工業を以て国外に對抗しなければならぬといふ、時勢になって来たのであります。然るに、又我日本は政治及軍事に於ては、彼の二大戦役の結果、已に尅等国たる地位をかち得たのであります。経済的方面即ち富の程度は、未だ此の地位に伴ふ迄には至りて居らない。若し我国が戦捷に依りて得たるこの地位を、永遠に持続して行かうといふには、是非共之に伴ふ丈けの富力を増進せなくてはならぬ、而して其富力を造るのは、工業の発達を図るより外に道はないのであります。

諸君、工業の發達は、此の如く我国目下の急務であります。さて、工業の發達を図ると致しますと種々なる道から及ぼさなければならぬのであります。就中工業教育を盛にして、優良なる技術者を養成するが、一番必要となつて来るのである。欧米諸國の工業先進國が、今日の如くに工業を發達せしめたのは、一に工業の基礎たる科学の進歩を図り、技術者の多数を輩出せしめた結果に外ならぬのであります。

之を要するに、工業を發達致しまする根本は技術者である。故に工業を發達せしむるには、先づ技術者の養成を図らなくてはならぬといふことになるのである。然るに技術者の養成は、決して容易な業ではない。

学問にはどの道容易なものはないけれども、工業の学問は之を修むるに、只理論ばかりではいかぬので、之を習ふに複雑なる実験実習を以てしなければならぬからであります。

私は元來工業教育にかけては全く門外漢であります。されば工業の学問に就ては、殆んど何等の智識を持たぬ者でありますけれども、私は明太郎と共に多年の間、工業の實際に關係致して居りましたが為めに、今日の工学を修めた若い人たちに、沢山に御目にかかる機会を得たのであります。其経験の結果として技術者といふものは、次に申す様な素養を有つものでなければならぬと考へたのであります。

- 一、身体の強壯なること。
- 二、技術上の学問の素養あること。
- 三、学問の素養と相俟つて、之に副ふ丈けの實地上の手腕あること。
- 四、右の三つの能力を發揮するに足る人格を備ふること。

優良なる技術者としては斯様な四つの素養が必要であることを感じました。其で工業教育の理想もかくいふ人物を作ることではなければならぬと考へたのであります。

さて、世上を見渡しますと工業に関する学校が中々に沢山出来て居る。之に従ひて多くの卒業生も出来て居るが、其等の学校が果して私の考へた様な理想を以てやって居るかどうか、其の点は固より私の与り知らぬ所である。只私が多数工業学校出の若い人達に就て見た上から遠慮なく申せば、学問が不足の為に大して困ることは少ないが、實地の手腕の乏しい為めに遺憾と思はるることが屢々あったのである。

其故私は多くの工業学校の教育法が学問に偏して實地の手腕を軽んずる傾向があるので、はなかるふかと思つたことである。之は勿論私の井蛙の見であるかも知れぬ。兎に角、私

財團法人私立高知工業學校役員

東京市麻布區筈町百四十二番地
設立者 竹内 綱
東京市本郷區駒込西片町十六番地
評議員 手島 精一
東京市麻布區筈町百四十二番地
評議員 竹内 明太郎
右全
監事 竹内 明太郎
高知市榊形四百十二番地
監事 織田 信福
高知市西唐人町二十八番地
理事 吉崎 七次郎

寄附行爲

目的

第一條 本財團法人ハ工業學校ヲ設立シテ學力ト實技トヲ兼備セル技術者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

名稱

第二條 本財團法人ハ私立高知工業學校ト稱ス

事務所

第三條 本財團法人ノ事務所ハ高知縣高知市北與力町六百八十三番地ニ置ク

資産

第四條 竹内綱ハ本財團法人ヲ設立センガ爲ニ學校資金トシテ金參拾萬圓ヲ寄附ス

第五條 竹内綱及其家督相續人ハ明治四十五年ヨリ毎年學校設備ノ進行ニ伴ヒテ必用ナル金額ヲ拂込ミ明治五十年迄ニ其金額拂込ヲ終ルベシ

第六條 前二條ニ掲ケタル學校資金ハ法人設立ノ許可ノ日ニ於テ法人ニ帰屬ス

第七條 本財團法人ノ經費ハ學校資金ノ利子、寄附金生徒ノ教授料及其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第八條 本財團法人ノ資産ハ理事之ヲ管理シ評議員會ノ決議ニ依リ正確ナル方法ヲ以テ利殖ヲ圓ルモノトス

第九條 本財團法人解散スルニ至リタル時ハ理事ハ予メ評議員會ノ議決ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其財産ヲ官公立又ハ私立ノ工業學校ニ寄附シ此法人設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシムルコトヲ圖ルベシ

評議員

第十條 本財團法ニ評議員若干名ヲ置ク

第十一條 竹内綱又ハ其家督相續人ハ當然評議員ト爲リ其他ノ評議員ハ法人設立ノ際設立者之ヲ指名囑託ス

第十二條 評議員ニ缺員ヲ生シタル時ハ竹内綱又ハ其家督相續人ニ於テ候補者ヲ指名シ評議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ委囑ス

第十三條 評議員ハ本財團法人ニ關スル重要ナル事項ヲ決議ス

第十四條 評議員會ノ決議ハ出席會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 評議員ノ任期ハ五ケ年トス

第十六條 本財團法人ヲ代表シ法人ノ事務ヲ處理セシムルタメ理事一名ヲ置ク

第十七條 理事ノ任免ハ評議員會ノ議決ニ依リ竹内綱又ハ其家督相續人之ヲ行フ

第十八條 理事ハ評議員會ノ決議ニ依リ其職務ヲ行フ

第十九條 本法人ノ財産及業務ノ狀況ヲ監査セシムル爲メ監事二名ヲ置ク但其一名ハ竹内綱又ハ其家督相續人トス

第二十條 監事ハ評議員會ノ決議ニ依リ竹内綱又ハ其家督相續人之ヲ囑託ス

第二十一條 監事ノ任期ハ三ケ年トス

第二十二條 理事及監事ハ評議員會ニ出席シ其決議ニ參與スルコトヲ得

附則

第一條 本財團法人設立ノ際吉崎七次郎ヲ理事トシ竹内明太郎織田信福ヲ監事トス

第二條 本財團法人ノ寄附行爲ハ第一條ヲ除ク外評議員過半数以上ノ同意ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ變更スルコトヲ得

評議員 手島 精一
竹内 明太郎

明治四十五年貳月八日

私立高知工業學校學則

第一章 總則

第一條 本校ハ工業學校規程ニ基キ將來工事ニ從事セントスル者ノ爲メニ必要ナ教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ本科及予科ヲ置キ本科ヲ分チテ機械科及電氣科トス

第三條 修業年限ハ本科三ケ年予科二ケ年トス

第四條 生徒定員ハ本科二百十名予科百六十名トス

第二章 學年學期及休業日

第五條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ分チテ次ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條 休業日ハ下ノ如シ

本校創立紀念日

祝日大祭日

日曜日

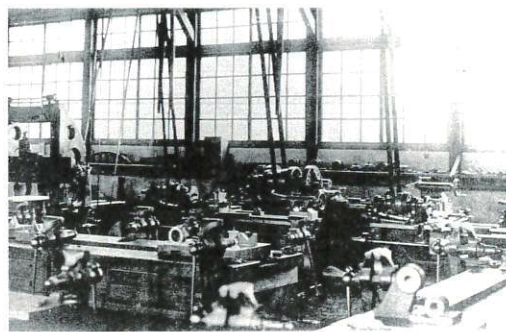
春季休業 三月二十五日ヨリ四月五日ニ至ル

夏季休業 七月二十六日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第三章 學科課程

第八條 本科及び豫科ノ學科課程ハ下表ノ如シ



(機械科實修工場)

豫 科 學 科 課 程 表

學科目	程 度	第 一 學 年		第 二 學 年	
		每 週 教 授 時 數	程 度	每 週 教 授 時 數	程 度
修 身	一	一	人道實踐方法	一	同 左
國 語	五	五	講讀、作文、習字	五	同 左
英 語	七	七	發音、綴字、讀方、譯解、話方 作文、習字、書取、文法、	七	讀方、譯解、話方、作文 習字、書取、文法、
算 術	五	五	筆算、珠算	五	同 左
地 理 歷 史	二	二	內國	二	外 國
理 科	三	三	理化學及工業大意	三	同 左
圖 畫	五	五	自在畫及び用器畫	五	同 左
體 操	二	二	普通及兵式	二	同 左
合 計		三〇		三〇	

本 科 機 械 科

學科目	程 度	第 一 學 年		第 二 學 年		第 三 學 年	
		每 週 教 授 時 數	程 度	每 週 教 授 時 數	程 度	每 週 教 授 時 數	程 度
修 身	一	一	道德ノ要旨	一	同 左	一	同 左
國 語	三	三	講讀、作文	二	同 左	二	同 左
英 語	六	六	讀方、譯解、話方 作文、書取、文法、	六	同 左	六	同 左
數 學	六	六	代数、幾何	四	同左及三角	四	三角、解析幾何、 微積分大意
物 理	二	二	物性、運動、力、熱	二	音、光、電氣、磁氣		
化 學				二	化學大意		
圖 畫	五	五	自在畫及用器畫				
機 械 製 圖				四	機械ノ設計及製圖		
機 械 製 作 法	二	二	工場用具及機械製作法				
應 用 力 學				三	靜力學、動力學、 材力學、機構	一	水力學
發 動 機				一	汽罐及汽機	四	蒸氣、石油、瓦斯機關 水車及タービン
諸 機 械 大 意						三	紡績、製紙、製油製粉 製糖、諸機械、唧筒等
電 氣 工 學 大 意						三	發電機、電動機大意
工 場 實 習	十二	十二	木型、鑄造	十二	鍛工、仕上、製圖	十二	(一)製圖(二)木型鑄工 (三)鍛工(四)仕上旋工
工 業 經 營						一	工業經濟工業簿記 等
體 操	二	二	兵式	二	同 左	二	同 左
合 計		三九		三九		三九	

備考 第三學年ノ實習ニ於テ(一)(二)(三)(四)ノ内一ヲ專修セシム、汽罐汽機ノ取扱ハ全般ニ涉リテ實習セシム

本科電気科

學科目	程度	第一學年		第二學年		第三學年	
		每週教時數	程度	每週教時數	程度	每週教時數	程度
修身	一	一	道德ノ要旨	一	同左	一	同左
國語	三	三	講讀、作文	二	同左	二	同左
英語	六	六	讀方、譯解、話方、 作文、書取、文法	六	同左	六	同左
數學	六	六	代数、幾何	四	同左及三角	四	三角、解析幾何、 微積分大意
物理	二	二	物性、運動、力、熱	二	音、光、電氣、磁氣		
化學				二	化學大意		
圖畫	五	五	自在畫及用器畫				
機械製圖				四	機械ノ設計及製圖		
機械製作法	二	二	工場用具及機械製作法				
應用力學				二	靜力學、動力學、機構	二	機構及水力學
電氣工學				一	電氣及磁氣、電氣 機械、電信、電話	六	電燈、電氣機械、電氣鐵 道電力發生輸送及分配
發動機						三	蒸氣、石油、瓦斯機關 水車及タービン
工場實習	十二	十二	木型、鑄造	十二	鍛工、仕上、製圖	一二	電氣實驗
工業經營						一	工業經濟工業簿記等
體操	二	二	兵式	二	同左	二	同左
合計	三九			三九		三九	

備考 汽罐汽機ノ取扱ハ全般ニ涉リテ實習セシム

第四章 入學、在學、退學

第九條 入學ノ期ハ每學年ノ始トス

第十條 入學ヲ許可スヘキ者ハ品行方正志望鞏固身體健全ニシテ下ノ資格ヲ有スル者タルヘシ

豫科第一學年 年齡十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シ下ノ入學試験（尋常小學校卒業程度）ニ合格シタル者

國語 算術 自在畫

第十一條 入學志願者ハ下ノ書式ニ依リ入學願書ニ履歷書ヲ添エテ學校ニ差出スヘシ

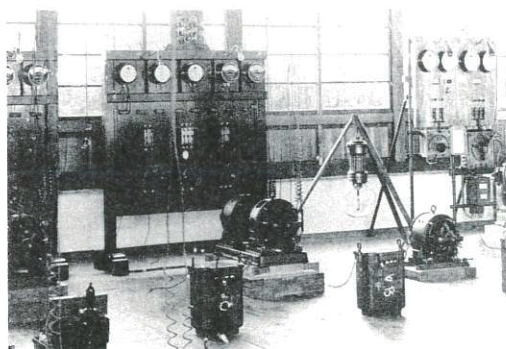
第十二條 入學ヲ許可セラレタル者ハ二週日以内ニ在學證書ニ戶籍謄本ヲ添エ學校ニ差出スヘシ

第十三條 保證人ハ父母親族又ハ在學中本人ノ監督保護ノ責任シ得ルモノニシテ獨立ノ生計ヲ營ム成年ノ者ニ限ル

第十四條 保證人學校所在地ヨリ遠隔ノ地ニ居住スル場合ニハ一里以内ニ居住スル者ノ中ヨリ代理人ヲ定メ在學證書ニ副書ノ上學校ニ差出スヘシ

第十五條 保證人若クハ代理者死亡シ又ハ事故ニ依リ責任ヲ盡スコト能ハサルトキハ更ニ保證人又ハ代理人ヲ定メ二週日以内ニ届出ヘシ

第十六條 生徒疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ一學期以上修



(電氣科實驗工場)

學スルコト能ハサルノ虞アルトキハ予メ學校長ニ出願シ其許可ヲ得テ該學年間休業スルコトヲ得

第十七條 生徒疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出ヘシ

第十八條 學校長ハ下ノ各項ニ該當スルモノハ退學ヲ命ス一、實習ヲ嫌厭スルノ風アル者又ハ身體ノ健康實習ニ堪ヘサル者

二、學業不進ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

四、正當ノ理由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者

五、引續キ一ヶ年以上缺席シタル者

六、出席常ナラサル者

七、授業料ノ納付ヲ遲滞シ再三ノ督促ニ應セザル者

第五章 進級及卒業

第十九條 生徒ノ學力ヲ檢シ教授上ノ參考並ニ進級考査ニ便ニセンタメ隨時又ハ期日ヲ定メ口述筆記等便宜ノ方法ニ依リ試験ヲ施行ス但シ教科目ニ依リテハ平素ノ成績ニ依リ考査シ別ニ試験ヲ行ハザルコトアルヘシ

第二十條 試験評點並ニ各教科目ノ係數其他計算法等ハ學校長ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 病氣其他ノ事故ニ依リ試験ヲ受クルコト能ハサリシ者ハ必要ニ應ジ追試験ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第二十二條 各學年ノ終リニ於テ生徒ノ成績ヲ考査シ其學年間ノ課程ヲ修了セリト認ムルモノハ之ヲ進級セシメ然ラサルモノハ原級ニ止ム

第二十三條 本科最終學年末ニ於テ全課程ヲ修了セリト認ムルモノハ卒業證書ヲ予科ノ課程ヲ修了セルモノニハ修業證書ヲ授與ス

第二十四條 卒業生ニシテ本校卒業ノ日ヨリ三箇年以内ノ期間ニ於テ二箇年以上引續キ本校ニ於テ適當ト認ムル業務ニ従事シタル者ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ其性行學力ヲ考査シテ工師適任證書ヲ授與ス

第六章 賞 罰

第二十五條 生徒中平素品行方正學力優等ニシテ他生徒ノ模範タルニ足ルト認ムル者ハ下ノ方法ニ依リテ之ヲ選奨ス

- 一、賞金、賞品、賞牌ヲ授與ス
- 二、在學中特待生トシテ授業料ヲ免除シ又ハ學資ノ一部ヲ貸與ス
- 三、學資ヲ貸與シテ更ニ高等ノ學校ニ入學セシム

第二十六條 生徒規則又ハ命令ニ違背シ其他生徒タルノ本分ヲ失スル者ハ學校長其行爲ノ輕重ニ隨ヒ之ヲ譴責謹慎停學又ハ放校ニ處ス

第七章 授 業 料

第二十七條 生徒ノ授業料ハ予科本科トモ一人一ヶ月金貳圓ト定メ入學ノ月ヨリ卒業又ハ退學ノ月マデ毎月之ヲ徴收ス

第二十八條 學校ノ都合ニヨリ全月授業ヲ休止スルトキハ授業料ヲ徴收セス

第二十九條 生徒疾病其他ノ事故ニ依リ全月缺課スルコトアルモ授業料ヲ徴收ス

第三十條 生徒休學スルモノハ授業料ヲ免除ス

第三十一條 授業料ハ毎月定日マテニ徴收ス其定日ハ學校長ヲ定ム但シ納付期日後入學シタルモノハ其月ノ授業料ヲ入學ノ日ニ徴收ス

第八章 別 科 生

第三十二條 本校ニ於テ實習又ハ特殊ノ教科目ヲ修メントスル者ハ之ヲ別科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十三條 別科生ノ修業時間ハ便宜晝間又ハ夜間トス

第三十四條 別科生ノ修業年限ハ三ヶ年以内トス

第三十五條 別科生ノ修業科目ハ本校規程ノ諸教科目並ニ其ノ他工業上必要ナル事項ニツキ本校設備ノ許ス範圍ニ於テ之ヲ定ム

第三十六條 別科ニ入學セントスル者年齢十四年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタルモノニ限ル

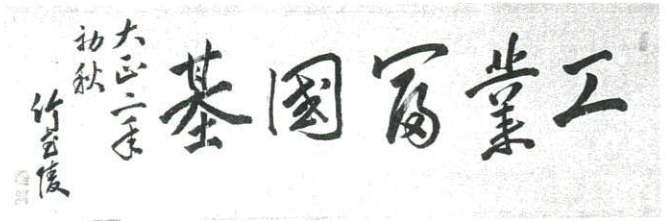
第三十七條 別科規程ニナキモノハ凡テ本校規程ニ準據ス



開校当時の校舎正面玄関（旧北与力町・現永国寺町・現高知女子大所在地）

1913年・大正2年

- 3. 26 第2回入学試験開始、募集人員70名に対し入学志願者187名。
- 4. 6 第2回入学式挙行、予科1学年72名に入学許可。
- 5. 4 開校記念日。
- 5. 22 校地159坪5合7勺の買い増しをする。
- 5. 23 吾川郡長浜付近（現高知市長浜）に修学旅行。
- 10. 15 職員生徒一同海路須崎方面に修学旅行を行い16日陸路帰校。
- 12. 11 呉軍港所属の駆逐艦を浦戸湾に見学。



創立者 竹内 綱先生の揮毫で校長室に掲額されている

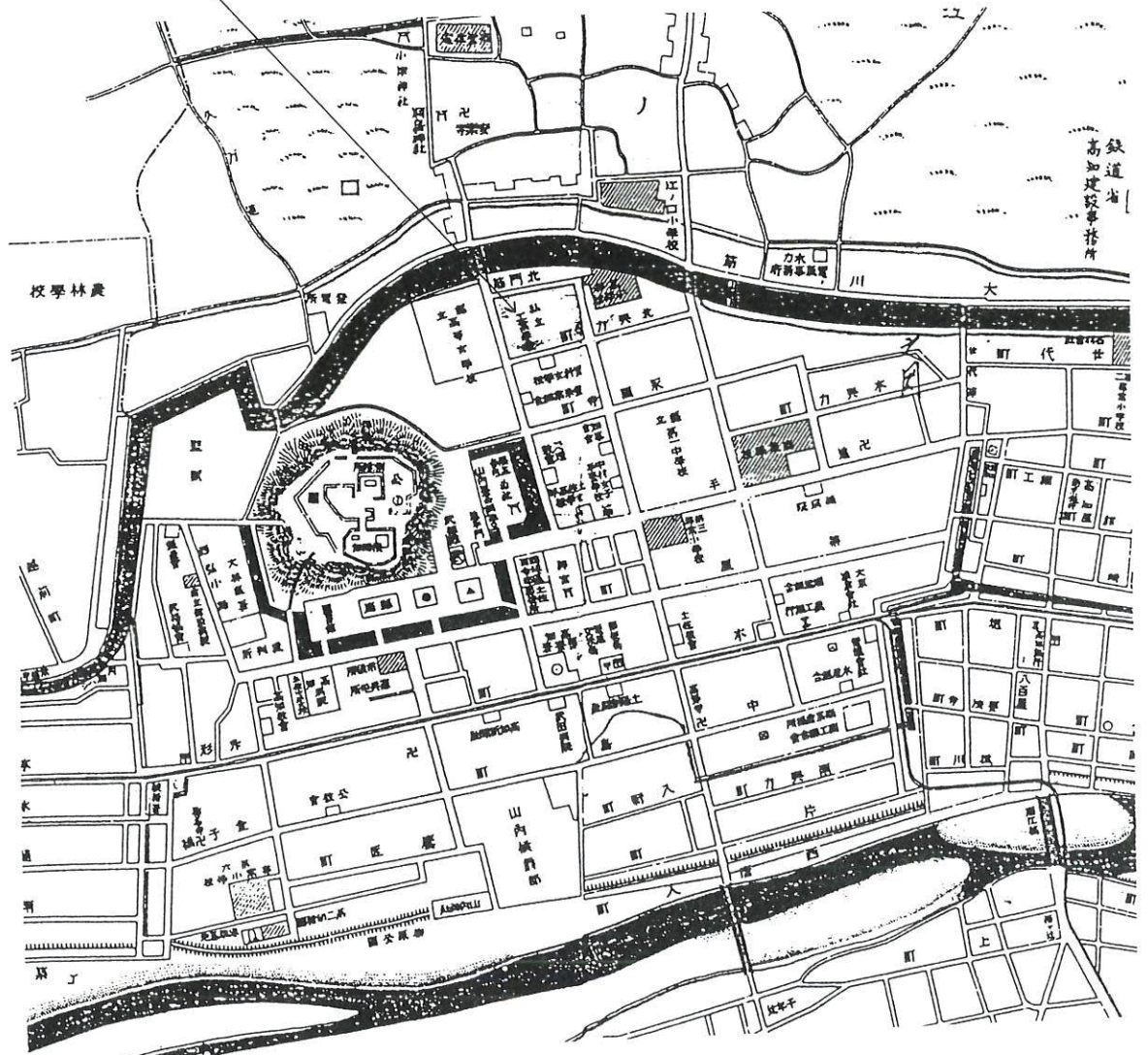
県内 国内外関係

- 6. 高知公園に懐徳館開設。
- 10. 3 高知市一琴平町、高知市一徳島市間に定期乗合自動車運行開始。
- 11. 13 山内一豊銅像除幕式。
- 12. 21 朝倉練兵場で飛行大会。
- 7. 清国を支那と呼称。
- 8. 1 東海道線、複線全通。



高知工業学校

現在も健在の楠の大木（旧北与力町工業学校南西角）
現高知女子大（地名は現在 永国寺町）



1914年・大正3年

- 2. 13 高知県知事永井金次郎、同視学官松原権四郎来校視察。
- 3. 26 第3回入学試験開始、募集人員70名に対し入学志願者172名。
- 3. 31 新築本校舎全部完成。建坪総数250坪。
- 4. 6 予科1学年生徒70名に対し入学を許可。
- 5. 4 開校記念日。
- 5. 29 長岡郡三和村（現南国市浜改田）付近へ修学旅行。
- 10. 15 職員生徒一同海路安芸方面に修学旅行16日陸路帰校。

県内 国内外関係

- 6. 1 高知市が午砲開始。
- 9. 高知一安芸間定期乗合自動車運行開始。
- 7. 28 第1次世界大戦始まる。
- 8. 23 日本対独宣戦布告。
- 12. 18 東京駅開場式。

※カチューシャの唄

校友會會則

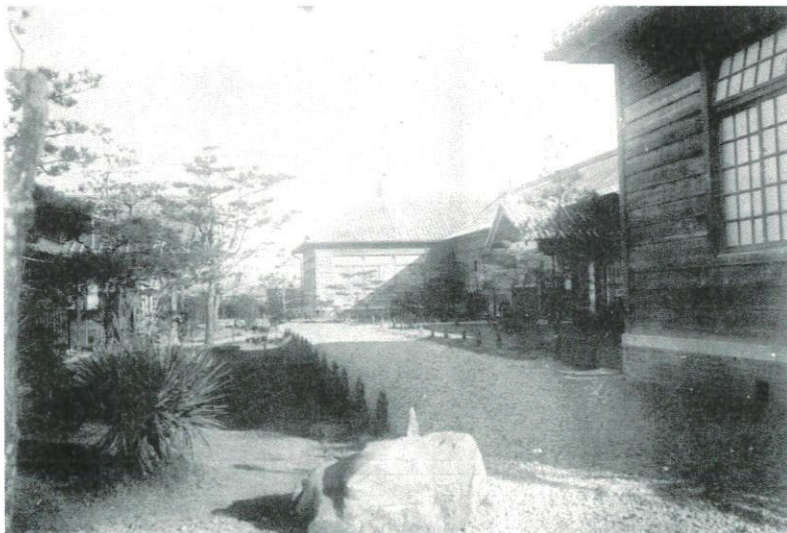
- 第一條 本會ハ私立高知工業學校校友會ト稱ス
- 第二條 本會ノ目的ハ本校訓育ノ趣旨ニ基キ交誼ヲ親密ニシ心身ヲ練磨シ以テ善良ナル校風ヲ發揮セントスルニアリ
- 第三條 本會ノ事業トシテ左ノ各部ヲ置ク
 - 一、學藝部
 - 二、運動部
- 第四條 學藝部ノ事業ハ學藝會及ビ會誌發行等ヲナスモノトス
- 第五條 運動部ノ事業ハ庭球會陸上運動會及其他遊戯會等ヲナスモノトス
- 第六條 學藝部ノ會誌發行及陸上運動會ハ一年一回トシ其他ハ必要ニ應ジ臨時會ヲ開クモノトス

- 第七條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス
 - 一、特別會員 本校職員又ハ特ニ會長ノ推薦シタルモノトス
 - 二、正會員 本校在學生
 - 三、會友 本校卒業生
- 第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一、會長 一名 本會ヲ總理ス
 - 二、副會長 一名 會長ヲ補佐ス
 - 三、部長 二名 各部ノ事務ヲ監督ス
 - 四、幹事 若干名 各部署ノ事務ヲ監理ス
 - 五、委員 若干名 部務ヲ分掌ス
 - 六、會計主任 一名 本會會計事務ヲ掌理ス
- 第九條 會長ハ本校校長ヲ副會長ハ首席教諭ヲ推シ部長幹事並ニ會計主任ハ本校職員ヨリ會長之ヲ囑託ス委員ハ各學級ヨリ各部一名ヅ、互選シ會長ハ其互選ノ結果ヲ參案シテ之ヲ任命ス
- 第十條 會長ハ委員中ヨリ二名ノ會計委員ヲ定ム
- 第十一條 役員ノ任期ハ一箇年トシ毎年四月之ヲ定ム
- 第十二條 正會員及特別會員ハ會費トシ毎月拾五錢ヲ本校授業料納付ノ當日ニ納ムルモノトス
- 但會長ノ推薦シタル特別會員ハ會費ヲ納付セサルモノトス
- 第十三條 會員退會スルモ既納ノ會費ハ返附セサルモノトス
- 第十四條 本會則ノ改正ハ役員ノ意見ヲ徵シ會長之ヲ定ム

校友會役員

會長	吉崎 校長
副會長	森澤 教諭
學藝部	
幹事	溝淵 教諭
委員	山田 教諭
	豊田 教諭
	森岡 篤
	岡崎 保吉
	澤坂 前村
	田本 田井
	利孜 書教
	美郎 記諭

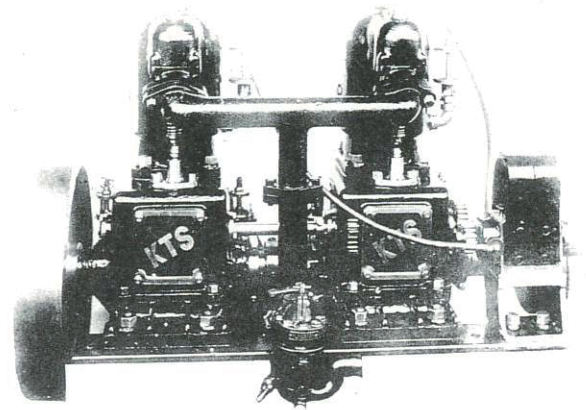
創立当時の校舎の一部



部長	島田 教諭
幹事	宮地 教諭
委員	濱田 教諭
	川本 秀彦
	西込 清章
	甲藤 弘美
運動部	
	保木 仲彦
	小笠原 茂喜
	西原 伊太郎
	長岡 教諭
	梅津 囑記
	濱田 萬太郎
	國則 三男
	渡邊 二助

1915年・大正4年

- 3. 26 第4回入学試験開始、募集人員50名に対し入学志願者161名。
 - 4. 6 第4回入学式挙、入学許可53名。
 - 5. 4 開校記念日。
 - 5. 10 教諭森澤菊吾、同長岡乙次郎、機械科及び電気科2学年49名を引率し大阪・京都・神戸地方の工場見学16日帰校、14日残校者一同長岡郡岡豊村（現南国市岡豊町）付近に修学旅行。
 - 10. 1 校長事務取扱、吉崎七次郎初代校長となる、第2工場新築工事に着工、建坪108坪。
 - 10. 15 職員生徒一同、高岡郡越知町方面に修学旅行16日帰校。
 - 10. 26 職員生徒一同、長岡郡岡豊村に出向し第11師団機動演習を参観。
 - 11. 10 今上天皇陛下御即位大禮祝賀式挙、市内各中学校連合提灯行列を催す。御大典記念として校友会誌の創刊を行う。
 - 11. 13 竹内評議員来校、新築工場視察後工場製作のモーターボートに搭乗し大川に沿って孕門に出て棧橋附近に上陸する。
 - 12. 4 高岡郡視学池内實吉、同郡下教員70名とともに本校参観。
 - 12. 29 本校東方隣地489坪を買収し校地を拡張する。
- 県内 国内外関係
- 1. 4 久礼町大火230戸焼失。
 - 4. 2 新京橋に世界館・堀詰に鳳館落成。
 - 5. 25 日華条約調印。
 - 8. 18 第1回全国中等学校野球大会（朝日新聞社主催）豊中グラウンドに10校参加。



六馬力 ガソリン モーター

本校機械科製作の6馬力複気筒4サイクルエンジン。本校製作のモーターボートに搭載されていた。

モーターボート用發動機について

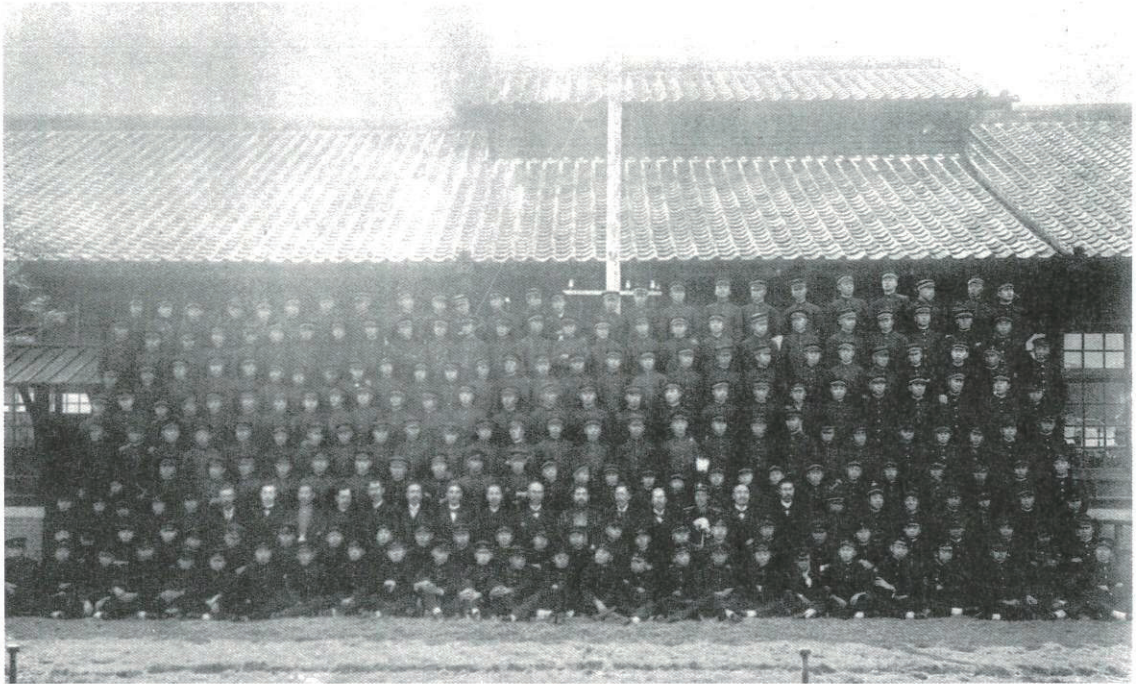
特別會員 島田比樂

ニサイクル式はピストン上昇の際に密閉したるクランクケース内にガソリン蒸氣を吸ひ込み次に爆發してピストンが下降する際、此蒸氣はケース内に壓縮せらる此爆發行程の終りの瞬間にエキゾーストポートが開き爆發した瓦斯廢氣は空中へ逸出する。之れと殆ど同時にインレットポートが開くから、前にクランクケース内に壓縮せられたガソリン蒸氣がシリンダー内に入り來り、新舊の瓦斯が交代する様よなつて居る。次にピストンが上昇する際、シリンダー内にガソリン蒸氣を壓縮し其の頂上に達する時着火爆發す。即ちピストンの上部も下部も一定の仕事をするから、一回轉毎に一回爆發する事が出来る。四サイクル式は第一の下降行程の際ガソリン蒸氣をシリンダー内に吸ひ込み、ピストンが上昇する際之を壓縮し其の頂上に達する時爆發し以てクランクシャフトに回轉を與へる、之れが第二の下降行程である、此の終りにエキゾーストバルブがカムの作用により開かるゝから廢氣の逸出が始まり次の

上昇行程の終りまでに全部排除せらる。即ち二回轉毎に一回しか爆發しない。

ニサイクル式は一般に急回轉で而も一回轉毎に爆發するからガソリンモーターの生命とも云ふべき目方の点に於て非常に軽い、構造も簡單で、四サイクル式の如くカムやバルブが無いから價格も低廉で、運轉や操縦が容易である。此の多忙な世の中に二回轉に一回しか爆發しない四サイクル式は余り香氣過ぎる。此の点から考へてもニサイクル式は確かに現代式である。特に孰れの方角にでも回轉し得るから反轉装置と云ふ厄介な物が無い故に機械は益々簡單になる。かく申せばニサイクル式に限る様に思はるゝが、中々左様でない。之れにも亦大なる欠点がある。第一ニサイクル式はスローで回轉する事が困難で、船舶の出入頻繁な場所では頗る齟齬である。又運轉が不確實で、何時止るか實は不安心極まる。論より證據、飛行機や自動車には殆んど之れを使用しない。且つ機械の壽命が短い、特にバルブが無いから上等のガソリンが遠慮なくエキゾーストポートより逸出する譯である、同一馬力の四サイクル式より一倍半以上ガソリンを要する事よなつて居るニサイクルモーターボートの通つた跡で、ガソリン臭き事夥しいとの非難は蓋し當然の結果であらう、殆んど米國の二倍ガソリンの高價な日本で之れを使用する事は一寸考へものである。

ニサイクル式は米人デイ氏が發明したから、米國のボート特に下級ボートに多く使用されて居るとの事であるが、英國其の他歐洲諸國では主として四サイクル式を使用して居る。我が國は英國よりも米國に近いから取り寄せるに便利で且つ廉價な故であるが、兎に角ニサイクル式ボートが流行して居る。然るに大阪邊ではガソリンが多く要ると云つて四サイクル式を製作して居る工場もある。土佐の國でも矢張ニサイクル式優勢で試に浦戸灣内を見るに、十三隻のニサイクル式ボートに對し四隻の四サイクル式モーターボートが浮んで居る、本校使用のモーターボートには六馬力複氣筒四サイクル式を据へ付けて居る。（会誌一号より）



(全校職員：生徒)

島田 比樂先生（機械科長）

島田先生からは機械工学を教わった。先生はアメリカの大学を卒業された方で、その教え方は大へん「ユニーク」で、その一つには原書のメカニカルハンドブックを教科書の副本として採用されていた。このことは卒業後、電気関係の外国雑誌を読む機会があり、大変心強く思ったものであった。又送電線は土木、構造物関係についての材料力学的な要素が多く大へん参考になったと思っている。

先生は昭和四年、私達が四年生の時亡くなられたが、学生代表の一人として、棺をかつき最後のお別れをしたものである。現在の様に長寿時代から見れば、まだまだお若かったのにと残念に思う事切なるものがある。（渡辺 昆 昭五電卒）

島田先生は「力学」の参考書として、「MECHANICAL HAND BOOK」を併用され、面白い講義であった。此の先生の考え方には進歩的などころがあり、映画、ダンスの効用など若者向き適切な話もされた。自動車運転もされたが、非常に慎重の上に慎重で、今の若い人達に見せたい位であった。病魔に冒され、我々在学中に亡くなられたことは残念である。（西原真一・昭五電卒）

島田先生は吾川郡秋山村（現春野町）出身で、先生の伯父島田 糺氏は自由民権運動の闘士であった。衆議院議員に二回選出されている。特に第八回総選挙（明治三十六年三月一日）には竹内 綱先生、片岡健吉、林 有造氏等と選出されている。共に明治七年板垣退助を盟主とした土佐立志社の同志であった。此の様な関係から、先生は開校決定と共に機械科長に迎えられるのである。先生に就ては余りにも逸話が多い。思い出をたぐれば優に一冊の本が出版出来る。

力学の時間に黒板一杯に大きな「男根」の絵を画き、小便は何んで飛ぶのか？ 尿道に「らせん」があり、小便は回転しながら飛んで出る。此の運動が「ジャイロスコープモーション」で鉄砲の銃身は之を応用したもので、弾丸は回転力を得て飛び出す。永国寺町の知事官舎（当時官選知事）の標札は可なり大きなものであった。知事が変わると、夜「物差し」を持って測りに行き、早速木工場でそれより大きな標札を造り、之を自宅の門柱に掲げていた。自宅の塀を鉄筋では無く、竹筋コンクリトで造った話や、日本で親指と人差し指で丸を作れば金のことだが、アメリカでは女の「アソコ」の事で大事になる。又アメリカの男は「フリキン」で「ワイシャツ」で包んでいるのでアメリカ製のワイシャツは前が長い。反対に女は猿又をはいている等話は限りが無い。

先生は映画特に洋画が好きで日曜日の昼、良く世界館の前から三番目の椅子に日和でも洋傘を持って観ていた。座席は殆ど決まっていた。エミル・ヤニング主演の肉体の道を授業時間を過ぎる迄話され、次の授業時間には休み時間が終る迄講義された。私達が最後の授業を受けた時、多分肝臓を病み既に黄疸を併発されていたであろう。真黄になった顔で教壇に立たれ、何時もの様に講義された。それから間も無く死去された。

故小南吉時先生が百歳を迎えられた時、南金田のお宅へ伺ったが、其の折先生は「島田先生が科長でおられた当時が学校の全盛期だった」とポツンと語られた。先生の遺族、墓所等に就て調査したが判からない。墓所は旧秋山村甲殿（現在春野町）に在ると考えている。（高本薫明・昭五機卒）（回想六十年より）

(郡市別在席表)

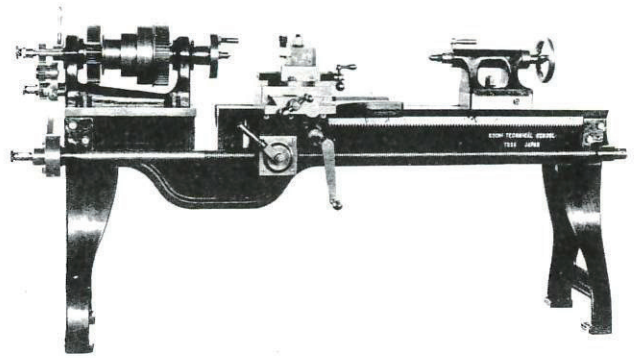
学年	郡市別	安藝	香美	長岡	土佐	吾川	高岡	幡多	高知市	縣外	計
予科第一學年		九	一三	五	八	三	五	四	一〇	〇	五七
予科第二學年		三	六	一四	一二	七	一四	四	四	〇	六四
本科第一學年		三	一〇	一一	一九	九	一	〇	八	三	六四
本科第二學年		三	四	七	一七	七	六	〇	一〇	〇	五四
計		一八	三三	三七	五六	二六	二六	八	三三	三	二三九

1916年・大正5年

- 2. 4 文部省告示第13号を以て徴兵令第13条並びに文官任用令第6条第1号により中学校程度同等以上と認定せらる。
- 2. 29 本年度入学生募集広告を行う。
- 3. 17 学校長喫煙禁止の件につき訓話。
- 3. 28 入学試験合格者発表。
- 4. 13 前学年分成績表を生徒に交付。
- 4. 27 本科3学年64名、東京・三重地方修学旅行に出発。
- 5. 4 開校記念日。
- 6. 1 別科採鉱冶金科を新設し募集広告をする。
- 6. 25 別科採鉱冶金科の入学試験実施、26日成績発表入式を挙る。
- 7. 5 水泳科授業開始。
- 7. 25 終業式挙行、休業中2週間程度本科3学年は主として県内官庁工場等、別科生は別子銅山で現業実習を実施。
- 9. 1 高知市内付近にコレラ蔓延し水泳教練を本年に限り中止。
- 9. 30 本校工場で製作した6呎旋盤竣工し機械工場に据え付ける。
- 10. 10 2階建教場170坪の新築に着工。
- 11. 14 修学旅行を兼ねて第1回発火演習を長岡郡岡豊平野で実施。
- 12. 11 吉田茂、予科2学年以上の生徒に対し講話。
- 12. 12 佐川高等小学校訓導田村益吉、全校生徒90名を引率本校参観。
竹内評議員、本科3学年生徒に対し訓話。

県内 国内外関係

- 3. 25 県立図書館、県庁内に新築落成。
- 8. コレラ流行。
- 10. 栈橋通に競馬場完成、高知競馬始まる。
- 1. 11 金輸出解禁。
- 1. 12 大隈首相狙撃される。
- 10. 1 特急つばめ号、東京一神戸間の運転開始。
- 11. 16 ハワイ・サンフランシスコ・カムチャッカと無線通信開通。



六呎旋盤
(本校生徒製作)

本校機械科生徒製作の6呎旋盤

大正7年には3台製作これ以後も引き続いて製作し機械工場に据え付けて生徒の実習に利用する。

KOCHI・TECHNICAL・SCHOOL・TOS
A・JAPANの文字がベッドの右側に入っている。

この旋盤は市中の工場にも据え付けて産業の発展に寄与する。

またこの旋盤をモデルにして民間工場で8呎旋盤を製作していた。



職員並びに本科最高学年生徒

法學士吉田茂氏講話

(大正五年十二月十一日本校豫科教室に於て)

別科生 山崎清 海筆記

諸君余は只今校長より紹介に預りし吉田にして此所へ來たりし記念に諸子に一場の講話をなすは余の幸甚とする所なり。

凡そ工業の成立に就きては四要件を要す。先づ第一として人は、即工業に従事する人材無き時は、如何に精良なる機械あり、又販路廣き市場をひかゆるも、其工業に従事して商品を製出せざる時は工業の成立す可き道理なし。故に此の製産に従事す可き技術者たる技師職工を以て第一の要件となす。

第二は市場之れなり、工業によりて製出したる商品を賣買すべき市場あらざる時は工業たる可きものは成立せざるは明なり。故に好市場を有せざる國は従ひて工業發展に赴かず。然らば顧みて我國は如何、幸なる哉東は米あり、西は支那あり、兩者共に廣大なる好市場たり余等の海外に在りて販路を開き、産業を保護するに稱するは、本邦の商品をして聲價あらしめ、且つ賣行をよくくなくさしむる事にて、我國實業家の輸出する商品を右の如く保護し便宜をはかるなり。故に工業家たり實業家たる者は善良なる物を製産し、利潤ありや否を考慮し之れを商品として、海外に輸出せんとすれば、經濟上及び賣却地の事情に精通し、其地に適する品を輸出す可き事を心掛けざるべからず。かかるが故に不適當の物品を輸出して一度聲價を失し、且つ粗悪品と見做されんか日本の商品は何れも粗悪なりとの觀念を彼等の腦裏に注入する事、恰も本邦に於て大阪の商品といへば粗悪なるものと吾人の考ふるが如し。世界各國特に支那即ち東洋方面に表るゝ獨逸商品は、英人の眼より之れを見れば粗悪品ならん何となれば英國の商品は高價にして品質も最善たり、然るに之れに反して獨逸品は安價にして丈夫なれば東洋人をして喜ばしむ。故に英佛の品を驅逐して獨り勢力を張る所以なり。又オーストリアに於てテールの上に載す皿類に於て見るも、獨逸は佛製に打ち勝ち居れり、佛品は氣に入らざれば買ふなど云へる如く、其地の風土を研究せざるが故に、従ひて其の製産物も自然該地の人民の趣好にかなはず賣行悪しきに、獨品は技師學者を派遣して、其調査の結果

製出せしものなれば、勢ひ勝者の位置に立てるなり。余は信ず、我國實業家輩も此点に留意して、我國商品製産の情態を改良せば産額小なりと云へども、又以て世界に雄飛するに至る可し。最近支那に表れたる英、米煙草會社の商況を視察するに盛大を極む、其理由は、意匠萬端缺點なく以て顧客に應ずるが故なりといへ、又一方技師其他の者をしてよく市場の人情を洞察せるに由るものなり、之れに反し我國の煙草商況を視察せば如何、やまご「あさひ」し「さしま」の如き文字を以て煙草の名を表せり、然れども此等の文字は支那一般の人は讀むこと能はず。只少數の支那留學生が讀み得るのみにして、この留學生たるや殆んど支那上流社會の者に限られたるが如き狀況なれば、よし支那市場に本邦の煙草あらはると雖も少數の趣味ある人士の購買するのみ、故に本邦實業家工業家輩にして今少し支那の風習を考查し以て支那市場に出さんか本邦品も盛況に向ふや必せり。今日の日本の煙草は仮名の名稱を付して、悪しくば存むなど云ふが如き觀あり、實に工業家の思慮を要す可き所なり。次に世間に表る、粗製濫造であるが、之れは輸出す可き市場に於て、比較的聲價あれば粗製濫造も敢てさまたげず。若し之れに反するが如き場合は、むしろ精巧の品を輸出するを最善とす、然らば精巧の商品とは果して如何なる品物を稱するや、安價にして精巧且つ經濟上完全にして利潤増益にかなへる物即ち之れなり。獨逸商品の如きは之の好例なり。斯の如き商品によりて市場の進歩開發は達せらるゝなり。然らば顧みて本邦の商品は如何、精巧なる商品は殆んどなく、よしありとしても數ふ可き程の物無し、本邦の實業家工業家たる者最も此点に留意注目すべきことなりとす。

第三の要件は原料なりとす。或人曰く、土佐は物産豊富なりと、然れども之れを考察する時は余はむしろ物産に乏しと云はん、見よ土佐には石炭ありや、曰く無し、鐵ありや、曰く無し、即ち土佐は工業地としては不適當なり。又日本の工業界を視るに、原料品としては生絲絹糸木綿等ありて之れに加工して以て商品を製産す、然るに其木綿たもや印度支那地方より來る。紡績用の綿は印度より、毛織物の原料たる羊毛は濠洲より、本邦に輸入し來る。斯の如く調査すれば日本の原料も海外に

其の輸入を仰がざるべからざるを知る、故に日本は原料に乏しき國なり。原料なくして工業は起らざる事は明なる所なり。此所に於てか日本は原料供給地を有せざるべからざる。然るに隣邦支那は最善の原料供給地なり、即ち支那西蔵の羊毛の如き則ち之れにして濠洲より輸入を仰がず、支那に其原料を仰げば其結果製産せし商品は従ひて安價なり、何となれば、其運賃に大なる差異あるべければなり。西蔵の羊毛はまじりがありて良好ならずと、然るに獨人は純白として之れを用ふれば濠洲品に劣らずといへり、是邦人の考慮を要す可き事たらざるや。又獨人は山東省に於ける麥稈真田を製するに技師を派遣し以て支那山東の百姓の狀態を視察せしむ、故に其結果又良好なり。隣邦たる我邦人の此点に等閑なるは悲む可き事なり。獨逸人は官民相一致して、支那人に原料を給し、之れを買ひ上げ、之れに加工して遂に純然たる商品として、支那其他の市場に出す。顧みて日本は如何、滿州朝鮮臺灣の工業と何等連絡の事なくたゞ大連より輸出さるゝ豆粕の外數ふ可き物とてはなし。余は重ねて云ふ、邦人は今少し支那朝鮮臺灣を研究し以て該地方を誘導開發せしむれば又以て内地の工業界に貢獻せしむるに至る可しとす。

第四の要件は動力なり。諸君試みに眼を閉ぢて日本の鑛業界に於ける石炭の狀況を思へ。本邦の石炭は世界産出額上數ふ可き程の物なし。又品質上善良の物はなく、又現に採掘しつゝある石炭も、將來幾十年の後には採掘しつゝある可き命數を有することを考ふれば、又寒心に堪へず。然れども一度地圖を開かば、日本は山谷多き國たるは一目瞭然たり、山あれば谷あり、谷あれば従ひて水あり、幸ひ本邦は水力豊富なれば、之れを利用して、水力電氣を以て石炭に代ふる事を得るなり。歐洲に於ては石炭少き伊太利諾威の如き、山谷多き地は石炭の少きと反比例してよく水力電氣事業發達せり。而して今日余は高知縣の水力電氣の價格を聴くに、十六燭七十五錢なりと、伊太利に於ては十六法なり、余は日本の水力電氣の價格を低廉ならしめて、廣く水力を利用することを圖らざれば、石炭の缺乏と共に漸次工業は衰退す可しと考ふるものなり。

(以下省略・會誌二号より)

1917年・大正6年

- 1. 20 応用化学科を新設し予科1学年と同時に募集広告を行う。
- 3. 2 応用化学科1学年入学試験施行。
- 3. 23 第1回卒業式挙行、本科機械科22名、同電気科25名。
- 3. 26 予科1学年、入学試験施行。
- 4. 1 技術員養成所を増設(入学資格高小卒業年限5力年)。
- 4. 10 2階建校舎1棟落成(建坪170余坪)。
- 4. 20 本科3学年41名、神戸・大阪・京都・三重・東京地方へ修学旅行(5月2日帰校)。
- 4. 25 本科1・2学年、予科生全員須崎・久礼方面に修学旅行。
- 5. 4 開校記念日。
- 5. 20 別科採鋁冶金科、入学募集広告を行う。6月15日入学試験施行。
- 6. 23 別科採鋁冶金科、第1回卒業式挙行、卒業生11名。
- 9. 1 東北隣地361坪を買収。
- 9. 11 水泳試験大会開催、同13日水泳免許状授与。
- 10. 8 当直規定を設け日直・宿直を置く。
- 10. 23 本科全員、別科、予科2学年身体検査施行。
- 10. 30 職員生徒一同、朝倉練兵場に米人フランク、チャンピオンの飛行を見学。
- 11. 6 職員生徒一同、伊藤痴遊の講談を堀詰座で聴く。
- 11. 11 本校校庭で学生相撲大会開催。
- 11. 19 午後1時より高知座で活動写真を見る。
- 12. 1 校友会主催で本校卒業生の入賞者に対し午前6時30分本校で送別式挙行、職員生徒一同営門まで見送り帰校後校庭で庭球大会開催。
- 12. 7 全校生徒長岡郡三和村付近で発火演習実施。
- 12. 25 校友会誌第3号配布。

県内 国内外関係

- 10. 30 米人飛行家、フランク、チャンピオン。高知市郊外の鴨田(現高知市神田)に墜落死亡(翌7年4月柳原に記念碑建立)。
- 9. 12 金輸出禁止、事実上金本位制停止。
- 9. 21 教育調査会廃止、臨時教育会議設置。
- 11. 7 ロシア革命(ソビエト政権樹立)。



第1回卒業生と職員

本科卒業證書授與式

本科機械科及本科電気科第一回卒業生四十七名に對し本年三月二十三日卒業證書を授與したり。當日來賓として式場に列せられしは柿沼本縣知事、楠瀬陸軍中將山内男爵、山崎少將、中野理事官、中等學校長、郡市長各種實業團體代表者縣郡市會議員附近町村長小學校長其他官民知名の諸氏並に生徒父兄諸氏にして午前九時型の如く一同着席し吉崎校長證書並に賞品を授與し森澤教頭學事報告をなし吉崎校長卒業生に對し訓辭をなし次で柿沼知事の告辭あり校主竹内明太郎氏の式辭演述本校顧問手島精一氏の祝詞(早稻田大學教授中村康之助氏代讀)に續きて楠瀬中將安藝縣教育會長光森前代議士の祝辭演說あり次に在校生徒惣代として機械科第二學年生岡崎保吉氏祝詞を朗讀し卒業生惣代阪本政郎氏の謝辭あり夫れより來賓に茶菓を饗し記念品を贈呈し無事終りを告げたり

森澤教頭の學事報告

竹内先生は既に莫大なる私財を投じて本校を設立せられたるのみならず本校並に生徒の前程に向つて日夜焦心苦慮せらるゝこと誠に此の如きものあるかと、爾來職員一同益々眞必死となりて協心戮力、子弟の教育に盡瘁せしが、當局の御援助と世間の御同情と相俟つて着々本校の發展を促進せり。即ち昨年二月に徴兵令及文官任用令の特典を與へられ七月別科採鋁冶金科を増設して中等卒業生十一名を收容し、且つ本月上旬更に應用化學科を増設して、其第一學年生十餘名を收容せり。入學志願者は年々募集人員の二倍以上にして本年の如きは来る二十六日に入學試験を施行すべき機械電気及應用化學、此三科の豫科一年の募集人員八十名に對し既に志願者二百四十名に達し居れるを以て来る四月上旬の本校生徒は當に學級數に於て十有二、生徒惣員に於て三百三十餘名となるべく、我邦地方に於ける工業學校としては實に異數の發展と謂ふべき也。而して今日の卒業者は孰れも明治四十五年に入學せるものにして當時惣員九十名なりしが其内元級に止まりしもの十六名、家事の都合に依り半途退學せるもの二十九名にして首尾善く卒業せしものは四十七名也。成績考査の結果、操行學力共に優秀なるもの六名在學五ヶ年間皆勤のもの二名、同精勤のもの四名、本學年間精勤のもの四名なり。卒業生に對する採用申込數は既に百貳拾餘名に達せしが當人の長所と希望等を斟酌して縣内就職者五名縣外就職者四十名と決定せり。今後本校は益々生徒の素質を精選し内容を充實し教授訓練に改善を加へ以て適良の工業技術者を輩出せんとす。

大正六年三月二十三日

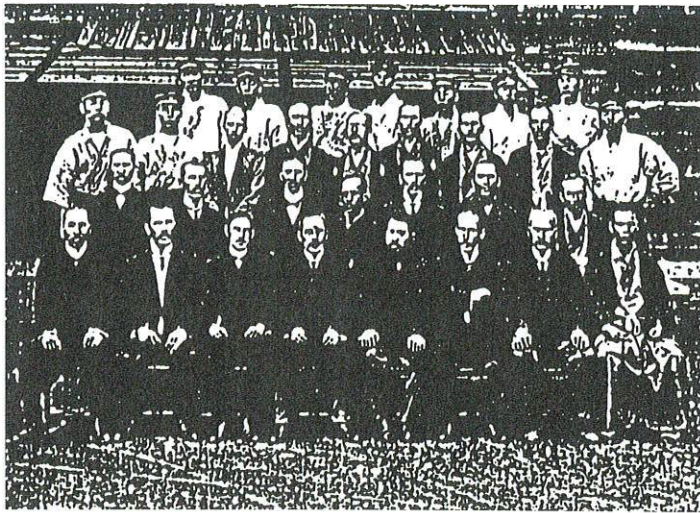
教頭兼幹事

森澤菊吾

(会誌三号より)

別科採鑛冶金科卒業證書授 與式

本年六月二十三日別科第一回卒業生十名に對し卒業證書を授與す當日の來賓は山内子爵中川聯隊長鶴澤理事官安藝縣教育會長天矢土佐郡長各種實業團體代表者縣郡市會議員土陽高知新聞記者附近町村長小學校長其他生徒父兄諸氏にして午前九時開式吉崎校長證書並に賞狀賞品を授與して卒業生に對する訓辭あり次で柿沼知事(代讀)の告辭設立者式辭來賓諸士の祝詞演說在校生惣代の祝辭卒業生惣代の謝辭にて無事式を了る



(第1回採鑛冶金科卒業生と職員)

九月十日 室蘭日本製鋼所 横山 正喜

吉崎 先生

第一回卒業生寄稿文
侍 史

拜啓其の後は長らく御無沙汰致候所先生には何の御障すあらせられず教務に御勉勵の由大賀の至に御座候却説私事御陰様を以て六月廿九日理立棧橋を出發致し卅日正午の嘉義丸にて七月三日午後十一時大連に到着仕りバスの來らざる爲八月午後七時迄石山先生(元海南學校体操教師)の處にて御世話様になり九月漸く撫順に着し大山坑に出勤する事と相成候全坑は目下非常の多忙を極め午前六時より午後五時迄にて私共は日曜の如き休日無く働きて居り候今春の爆發の際の死人は未だ六〇〇人位あり昨十五日は全部腐敗し居るもの(支那人許りにして臭氣あり)廿四名を收容し私共は其の見物を致し候余り厭な臭の爲か本日は下痢致し居り候本日は死人のある所を腰部迄没して一人風戸見物に出掛候少々氣味の悪しきものに候此等は母校の爲と思へば左程苦しからざるも只知人の一人も無き爲め全ての仕事を獨りにて覺わざる可からず候されど來年は体格の良きものを御送越級下度願上候未だ書き度き事は澤山なれ共疲れの爲是にて止め申候先は右遅午御報知申候

七月十六日 撫順炭鑛大山坑 北山 虎正

吉崎 先生

拜啓諸先生方及生徒諸君の御健康を祝し將來の御發展を祈ります、御陰様によりて始めて得し此の金子失禮ながら御寄附申候間御受納下され度願上候

白石 豊

私工校友會御中

酷暑愈々堪へ難く相成り候處先生御一同様には如何御起居遊され候や御伺申上候下つて私事も御高庇に由り無事通勤致し居り候間他事ながら御放慮下され度候先は暑中御見舞迄早々如此に御座候

大正六年八月二十四日

坂本 孜郎

諸先生御中

拜呈初秋の候と相成り候處益々御清福の段賀し奉り候私事無事消光罷り居り候間御安心被下度候入學準備の節は色々御骨折被下有り難く御禮申上候今般漸く末

席にて理工科電氣科に編入され候間此の段御知らせ申上候今後益々御愛顧のほど願上候 敬具

九月二十日

松本 登

諸先生御中

拜啓私事此の度中村康之助先生の御世話にて表書きの所に間借り仕り候間御知らせ申上候極て静かなる家にて家族は親子三人に有之候石井定之云はる方と同宿にて御世話様に相成り居り候

四月十八日

森岡 貞篤

吉崎校長殿

謹んで私立高知工業學校第六回開校記念を祝す
大正六年五月四日 今村 政清

私立高知工業學校御中

拜啓爾來御疎遠に打過候段御海容被下度候時下酷暑難凌候處先生には御變りも在らせられず御起居被遊候段奉賀候不肖に御陰無事消光罷在候間他事乍ら御放念被下度候先は暑中御見舞申上度如斯御座候 頓首

採鑛冶金科第一回卒業

長山 春重

第一坑採鑛課勤務

有澤 俊象

製練實驗調查部勤務

山崎 清海

第二坑採鑛課勤務

別府の温泉へは一時間半和氣清磨で名高い宇佐八幡宮へは卅分位で行れます又頼山陽で有名な天下の奇勝耶馬溪へは二時間位で行けますいつか休みの時に我々は行くつもりです一寸名所の御紹介致します。

拜啓向寒の節益御多祥の段奉大賀奉候扱私事過日九州より歸宅の際は種々御盡力下され申候事御厚禮申上候神戸にて人物試験及身体検査の上當地に參り兩度の

身体検査の結果愈々日本セルロイド人造絹糸株式會社の社員となり就職致す事と相成り毎日午前六時より出勤致し午後六時まで製圖に従事致居候間失禮ながら左様御承知被下度願上候當工場の取締役の一人は當主鈴木岩治郎氏に御座候當工場は規模大きく殊に敷地の廣大なるは實に驚くべきものに御座候、又の所は東洋最初のセルロイド會社の由に御座候何れ委細御報道上

ぐる積りに御座候へ共不取敢右迄申上候 勿々頓首

(會誌三号より)

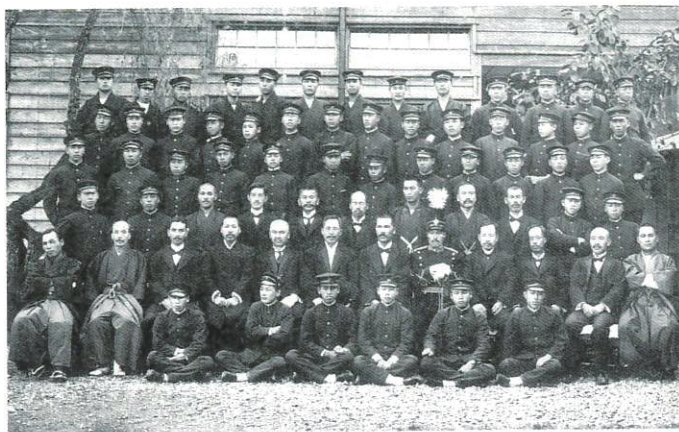
1918年・大正7年

1. 25 評議員手嶋精一逝去、講堂で追悼式挙行。
1. 31 奈良県視学1名、郡視学7名、中屋本県視学、安並土佐郡視学同道にて本校来観。
2. 11 商業学校で学生相撲大会開催、本校選手16名参加、個人3位(竹内真喜)。
2. 12 一中講堂で立川海軍少将の講話があり本科2・3学年及び予科生が出席。
3. 23 第2回卒業式挙行、機械科25名、電気科18名。午後市及び付近小学生並びに一般人に工場公開。
3. 26 入学試験施行、第1回学力合格者決定、27日合格者の身体検査及び口頭試問施行、午後5時合格者、100名予備員、3名発表。
4. 29 本科3学年37名、近畿・三重・東京方面に修学旅行。
5. 1 朝倉練兵場に飛行家、後藤正雄搭乗のモ式6号の着陸を見学。
5. 4 開校記念日。
5. 13 一中講堂で原政友会総裁の講話を聞くため本科2学年以上出席、放課後、原総裁及び衆議院議員数名来校。
6. 15 別科入学試験施行、合格者16名。
6. 22 別科第2回卒業式、卒業生9名。
6. 25 午後より堀詰座に天一の奇術を見る。
7. 1 40分授業、午前中5時限とし午後本科1学年は水泳科練習実施。
7. 24 高知新聞社主催第1回野球大会を一中校庭で開催。
8. 1 本年度より夏季休業中特別水泳科を置き練習開始。
8. 22 土陽新聞社主催水泳競泳大会を孕湾内で実施、本校選手2名入賞。
9. 2 棧橋付近で水泳大会、水泳試験70町(7.6km)合格者に免状授与。
9. 6 第4回水泳大会開催、孕門から種崎まで遠泳。
9. 9 武道科を設置、本日より練習開始。
9. 13 東京高等師範学校長、嘉納治五郎来校、午前10時より本科2学年以上公会堂で講話を聞く。
12. 1 本校主催第3回学生相撲大会開催。

県内 国内外関係

3. 27 義務教育費国庫負担法公布。
10. 10月～12月にかけてスペイン風邪大流行、市内だけで死者665名、臨時休校続出。
8. 2 政府シベリア出兵を宣言。
8. 3 富山県に米騒動おこり全国に波及。
11. 11 ドイツ、連合国と休戦協定調印、第1次世界大戦終結。
※のんき節、コロッケの唄、宵待草

(一部2階建も完成した校舎)



(第2回卒業生)

本科卒業證書授與式

機械科及電気科第2回卒業證書授與式は三月廿三日午前十一時舉行せり來賓は柿沼知事、鶴澤理事官、光森、町田前代議士、山本農工銀行頭取、岡林起盛、岡崎賢次、西本直太郎、廣瀬重正、上田保、町田仁仙太、池忠彦、北川深淵、徳弘爲章、北川格太郎、砂川牧師信清、和田、曾和、織田、小嶋、中山各縣會議員、小野土銀專務、楢林農林、中村土佐女、時光實科女各校長、田所技師、清水水電所長、中城圖書館長、池内、安並視學、清水縣屬、村岡技手、土陽、高知兩新聞記者其他朝野の紳士生徒父兄等にして當日は特に校主竹内明太郎氏歸郷して式場に列せられたり一同着席するや君が代の奏樂ありて吉崎校長教育勅語を捧讀し終つて證書並に賞品を授與し且つ卒業生に對する訓示森澤教頭の學事報告ありて柿沼知事は左記祝辭を朗讀し竹内校主は卒業生に對して訓話を爲す筈なりしも風邪の爲織田監事代つて一場の挨拶並に訓話あり在校生總代岡本美茂氏の祝辭之に對する卒業生總代岡崎保吉氏の謝辭ありて無事閉式せり

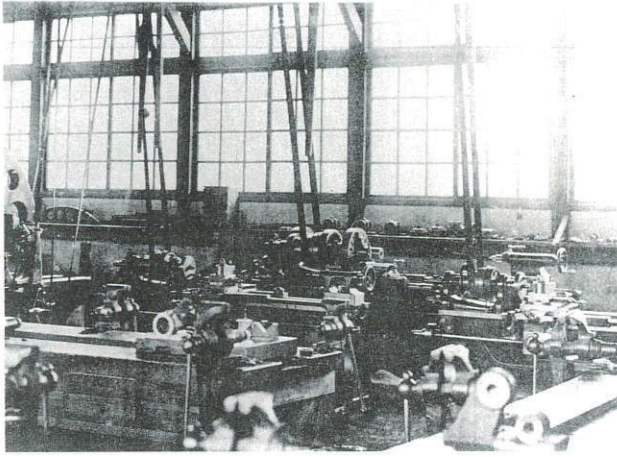
別科採鑛冶金科卒業證書授與式

本年六月廿二日別科第2回卒業生九名に對し卒業證書を授與す當日の來賓は山内男爵山崎少將大森理事官安藝教育會長中嶋市長城西郵便局長各種實業團體郡市會議員土陽高知兩新聞記者附近町村長小學校長其他生徒父兄諸氏にして午前十時開式吉崎校長證書授與並に賞狀賞品を授與して卒業生に對する訓示あり次で柿沼知事(代讀)の告辭設立者式辭來賓諸士の祝詞演說在校生總代の祝辭卒業生總代の謝辭ありて無事式を了る

各分科近況

機械科及電気科実習場は益々完備し業務を擴張し係員及生徒の精勵に依り昨年來工を急ぎしブレイキレースを始め大小幾多の製作品を出すに至り別科も日増に設備を整へ應用化學科にては同科専用二階建實習場新築工事の着手を見遠からず製造化學に移るべし本年度實習工場製作品の主なるものを擧ぐれば次の如し

二十馬力ペルトン水車	一台	三五〇
原料運搬用ブランジャイロポンプ大小各二台	二組	九〇〇
ウインドラス用シリンドラー	二組	二〇〇
電車軌道用クロツシダ	四組分	四〇〇
ペーパーロール	二台分	二五〇〇
電気爐	三台分	一〇〇〇
六呎英式旋盤	三台分	一〇〇〇
鑄物工場用二噸起重機	一台	一八〇〇
十四吋センターブレイキレース	一台	二五〇〇



(機械科実習工場)

高知県(戦前)の工作機械製作の歩み

本県の工作機械の歴史は、先づ明治45年5月4日(明治45年は9月より大正と改元された)高知市北与力町に創立した、私立高知工業学校まで遡らなければならない。

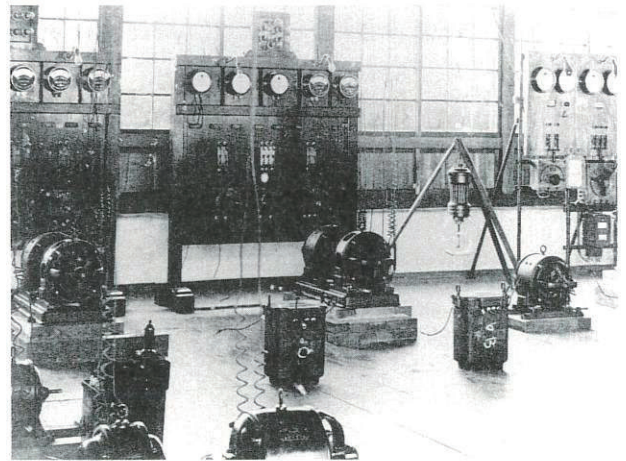
同校は宿毛出身の竹内綱がその子明太郎と共に、今後の日本は工業立国でなければならぬ、我が高知県の発展のためには、工業教育の機関がどうしても必要であると決心し、予科2年、本科3年、機械科、電気科合わせて総定員を370名と定めて開校した。

大正6年には第1回の卒業生が社会に出たが、その頃の機械実習工場の写真を見ると6呎、8呎旋盤、円筒研削盤、シカル盤が並び、おそらく県下では他に例のない、また四国でも最新の設備であったろう。大正4年には2気筒6馬力のガソリンエンジンを製作し、次の大正5年には早くも6呎旋盤を製作している。

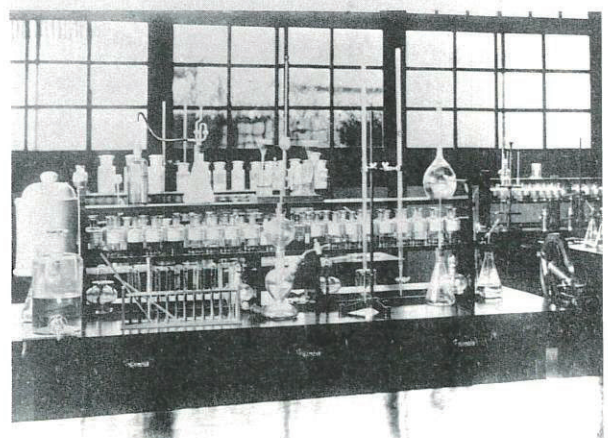
大阪へ出るには汽車もなく、浦戸から出航する船に頼るしかなかったこの時代に、設計・木型・鋳物・機械加工・仕上組立と工程を重ねて、完成させた先人の技術と努力には、感服のほかない。中央で池貝鉄工所が旋盤の市販を始めて、遅れること10年余りだが、これが本県における工作機械製造の原点であることは間違いない。

大正7年機械実習場で製作した製品に20馬力ペルトン水車と並んで6呎英式旋盤3台分1,800円の記事がある。当時日給1円の時代であったので1台600円は随分高価であった。昭和16年頃の実習工場の旋盤は14呎大型旋盤を始め、ほとんど同校製作の機械であり、昭和19年頃は軍の要請により6呎旋盤の生産納入もしていたようだ。又外にガソリンエンジン、焼玉エンジン等を多数生産市販し「KTS」マークの機械は優秀品として、もてはやされた時代が戦前にあった。

民間では昭和8年土佐山田町の坂本鉄工所坂本南海男(昭和5年高知工業学校技術員養成所卒)が米式8呎旋盤3台を製作した。学校の6呎旋盤をモデルに、高知市の近藤鋳造所で鋳物を吹き、学校のシカル盤で機械加工のうえ、自社で仕上・組立したそうである。他にも市内の鉄工所で旋盤を造ったという話を聞いた事があるが、確かな記録がない。(高知県機械工業史より) 奥田幹雄(昭20機卒)



(電気科実習工場)



(応用化学科実習工場)

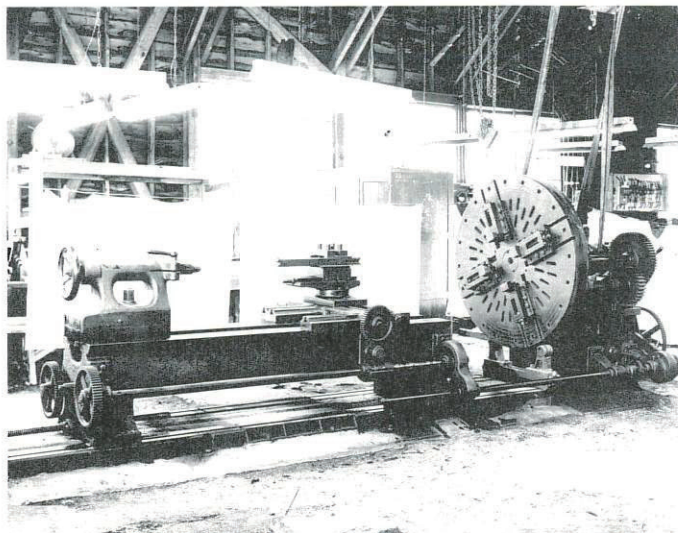
1919年・大正8年

- 3. 23 第3回卒業式、機械科25名、電気科19名。
- 5. 1 本科3学年、神戸・大阪・京都・奈良・宇治山田・東京方面に修学旅行。
- 5. 4 開校記念日。
- 6. 別科第3回卒業式、卒業生13名。
- 7. 26 高知新聞社主催、第2回高知県野球大会開催。
工業一大林区署、7:6で勝。工業一中、0:7敗。
- 9. 20 秋季リーグ戦開幕、県下公私立中等学校、野球部協議の結果毎年春秋定期試合を開催し優勝旗争奪戦を行うことを決定。
工業一商業、9:6勝。工業一中、0:11敗。
工業一海南、17:3勝。工業一二中、32:4勝。
- 10. 16 本科3学年並びに別科生、甬喜ヶ峯発電所見学。
- 10. 26 学生相撲大会開催。
- 11. 3 別科生白滝鉦山に修学旅行。
- 12. 4 戦利潜航艇須崎港に來泊につき本科3学年並びに別科生参観のため同地へ修学旅行。

※本校工場で14呎旋盤製作（現在も機械工場に据え付けてある。）

県内 国内外関係

- 6. 12 好景気のため教員の転退職続出し教員不足。県外転任を当分の間許可しない旨通達。
- 7. 16 板垣退助、死去。
- 10. 14 第1回県展。
- 2. 7 中学校令改正公布、（国民道徳の育成重視）尋常科5年からの進学承認。
- 3. 1 朝鮮で独立運動おこる。
- 6. 28 ベルサイユ講和条約調印。



※本校機械科製作の14呎旋盤、現在も機械科実習室に据え付けて稼働しています。

木型は浜田先生が製作、鑄造は小南先生が担当し、大きなコシキ（溶解炉）を作り風洞を横から廻して3ヶ所から風を送り溶解し鑄込作業を行う。

ベッドの重さは2ton位あり大へんな作業であった。面板（チャック）は大阪の会社に依頼して加工する。溶解鑄込作業のときには校主の竹内 綱・明太郎両先生も來校しました。戦前本県には多くの製紙工場が存在した。その製紙工場のドライヤーのドラムの表面加工仕上げに活躍した。刃物台のところにグラインダーを取付けて直径が背丈ほどもある大きなドラムを研磨していました。また焼玉エンジンのシリンダー等の加工もしており戦前本県の産業発展のために貢献した。



（第3回卒業生）

◎野球部記事

○第二回高知縣野球大會 大正八年七月廿六日高知新聞社主催にて舉行、本校對大林區署試合は午前十一時開始、双方健闘結局七對六を以て我軍危き勝利を占む午後の一勝者試合本校對一中戦は折柄の降雨に延期され越えて廿八日午前九時より競技、我軍は江淵投手近き津野平山兩外野手出でずして意氣頗る揚らず遂に零敗を喫す、兩軍の陣容左の如し

業永川村崎尾倉下村森	7	1	7	1	0
工豊西澤山長大山岡近	7	1	7	1	0
5	3	4	1	6	2
3	4	1	6	2	7
8	2	7	8	9	9
9	9	9	9	9	9
中比中末内井神本原岡	22	3	2	2	7
1	由	田	弘	竹	藤
2	3	5	1	6	1
3	5	1	6	1	7
5	1	6	1	7	8
6	1	7	8	9	4
6	1	7	8	9	4
打安	打振	球	球	球	球
三	三	四	四	四	四
四	三	四	三	四	三
得	得	得	得	得	得

○秋期リーグ戦。縣下公私各中等學校野球部協議の結果毎年春秋定期試合を開催優勝旗争奪戦を行ふ事となり、本年九月廿日と云ふに第一回秋期戦のプログラムは公表されたり、本校野球部の成績左の如し

業永川村尾倉山崎下野	30	6	4	11	9	12	18	9
工豊西澤山長大山岡近	30	6	4	11	9	12	18	9
5	6	4	1	3	1	2	8	3
6	4	1	3	1	2	8	3	1
3	1	2	8	3	1	2	8	3
7	9	9	9	9	9	9	9	9
業國澤川山田本澤邊交	22	7	8	9	5	9	18	6
商森中石陰前岡國渡入	22	7	8	9	5	9	18	6
5	6	4	1	3	1	2	8	3
6	4	1	3	1	2	8	3	1
7	9	9	9	9	9	9	9	9
8	9	9	9	9	9	9	9	9
打安	打振	球	球	球	球	球	球	球
三	三	四	四	三	四	三	四	三
四	三	四	三	四	三	四	三	四
得	得	得	得	得	得	得	得	得

應援の猛烈と技倆の伯仲とにより試合は最初より緊張し本縣野球始まつて以来の好ゲームと云ふも過言にあらざるべし。勝敗の決は打撃の振不振にありき。勝利は即ちバッティングオーダーの當を得たりし

△對二中試合 三十二對四工業勝
次いで廿一日遠來の客二中軍と戦ふ。前日の緊張戦に興味を唆られたる觀衆は一中グラウンドに詰め掛け盛況を呈せり。

二中軍の御手並如何にと思はれしが意外に脆く遂に四回ゲーム三十二對四にて我軍の大勝に歸す。

△對一中試合 十一對零 工業敗

廿四日午前は強敵一中と戦はざるべからず。最初は程恐れ居らざりしも天は我に幸を與へざりしなり、即ち正捕手大倉病み外野手平山事故の爲出場せず、投手長尾亦未だ病後の身体充分ならず戦闘力を殺ぐ事大なり。加ふるに我軍は竹内敵投手の意外の怪腕に全く打撃を封せられ無殘零敗の止むなきに至れりあゝ十一對零

△對海南中學試合 十七對三工業勝

廿八日午前九時半より對海南戦は行はる。初め敵投手の自然のスローボールにいさゝか面食ひしも回を終るに従ひて馴れ猛烈に攻め立つれば敵亦こゝを先途と奮戦したりしも結局七回ゲーム十七對三にて我軍の大勝に歸す。

かくて我軍は三勝一敗の好成绩を以て第一回リーグ戦は終結せり。

終りに臨み應援團長以下の諸君が殆ど寢食を忘れ奔走されたる絶大なる御盡力と深遠なる御配慮に對し深く感謝する所なり。

更に新撰手諸君に告ぐ。今秋リーグ戦によりて得たる我校の地位は本縣第二位たるは一般の認むる所今又結果の之を證するあり。諸君よ、願くは諸君の力によりて尙は進んで來春リーグ戦には名譽ある優勝旗を奪ひ本縣野球界の覇權を握られんことを切望して止まざるなり。(機、三、西川生記)

○野球部小會 十二月六日午後一時公園裏グラウンドにて開催、吉崎校長の始球式ありたる後豫科二年對本科一年試合は二對十五にて本科一年の勝、本科三年對本科一年試合は面白き接戦となりしが結局七對三にて本科三年の勝利に歸せり。

修學旅行から歸つて

本科三年機械科 並 川 安 幸

我々本科三年生は修學の目的で神戸、東京、宇治山田二見、奈良、京都、大阪と五月一日から十四日まで旅行した。日數の割合に見る所が多くて、殊に東京には六日も滞在したので往きと歸りは殆んど素通りに近い程急がなければならなかつた。

氣の合つた友——青年——が大勢で旅行すると云ふ事は愉快なものである。それに自分等の行動が非常にフリーであつた事は此の旅行をして一層愉快にした。しかし旅行中に見聞する事は亦一面から考へると亦悲觀の種ともなるのであつた。

何時の事だつたか自分は夜更けて獨りで居ると、妙に悲しくなつて——それは旅の空で味ふ郷愁に似た悲しさである——涙が滲んで來た。そして春の旅行の時分の事が糸遊を通して遠い野山を見るやうにちら／＼と頭の中を去來した。

そして次のやうな會話を夢のやうに聞いた。

「君が修學旅行について最も感じた事は何か。」

「高知縣は交通が不便なと云ふ事だ。俺は旅行中に時々何者かに「お前は今樂しさうに騒いでゐるがやがては又あの荒い／＼太平洋をはる／＼と歸らなきやならないぢやないか。」と脅かされて、興味の大部分を減殺せられる事があつた。

「さうだね一日にたつた一回千噸に足らない小さい汽船が出るだけだ。もし乗り後れでもしようものなら全一日棒に振らなけりやならない、それに海が荒れた時には幾日も々々も郵便物、新聞紙さへも來なくなつてまるで暗黒だ。」

「高知縣の學生が一般に不勉強なのも交通が不便で外界の刺戟が少ないからだよ。」

「そうだ、外界よりの刺戟が少ない、だから呑氣で時間に対する觀念が薄いなだね、それがためか土佐の人間は一体に歩くのが遅いやうに思ふ又事實さうだ電車まで人に似て、すぐ行き詰まりさうな狹い町を一杯になつてのろ／＼匍ふてゐる——走つてゐると云ふよりも。」

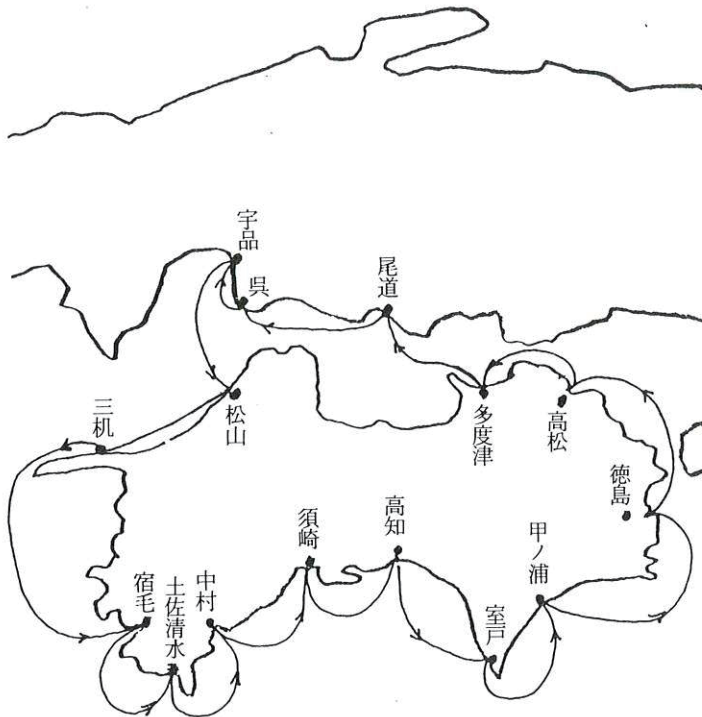
(以下省略・會誌五号より)

1920年・大正9年

- 2. 24 長岡郡三和村浜改田附近で発火演習を実施。
- 3. 18 生徒定員を本科240名、予科200名に変更の件、文部大臣の許可を受ける。
- 3. 21 学校を公開、参観人5,000名、閉場後も入場希望者多く翌22日午前中を公開。
- 3. 23 第4回卒業式、機械科23名、電気科15名、応用化学科17名。
- 3. 26 本科第9回入学試験を施行、志願者233名に対し90名に入学許可、補員5名。此の日より私立の2字を取り高知工業学校と改称。
- 3. 30 別科第5回入学試験実施、8名に入学許可。
- 4. 1 採鉱冶金科を廃止。
- 4. 4 商業学校で庭球大会開催、本校選手参加。
- 4. 22 春季野球大会開催、一中と海南に勝、市商との試合は審判に紛議を生じ延期。
~27
- 5. 1 本科3学年、東京方面に修学旅行。
- 5. 4 開校記念日。
- 5. 12 本科生は香美郡美良布村に予科生は高岡郡宇佐村に修学旅行それぞれ同地に1泊。
- 5. 23 高知新聞社主催県下学生相撲大会開催。
- 6. 2 機械科生徒、飛行機解体作業見学のため朝倉練兵場へ。
- 6. 12 午後生徒、一般高知座に太陽団軍事劇を観覧。
- 6. 17 本科生、県公会堂で大町桂月の講話を聞く。
- 6. 23 別科、採鉱冶金科第4回卒業式、7名卒業。
- 7. 27 高知新聞社主催第3回野球大会開催。8チーム参加
~30
- 8. 25 本校製作のエンジンを搭載した土陽新聞社のモーターボート、四国一周航程に孕門を出発。
- 9. 7 38式歩兵銃を60挺買入れる。
- 9. 9 幡多郡水害救済義援金を募集。一半は新聞社に委託して一般へ、他の一半は生徒中の遭難者に贈与。
- 9. 12 土陽新聞社主催の四国一周モーターボートが帰航につき職員生徒有志が一艘の巡航船にて孕門に歓迎。
- 10. 7 機械工場の東に工事中のテニスコート完成。
- 10. 22 別科採鉱冶金科生徒白滝鉱山に修学旅行。
- 10. 29 校内相撲大会開催。
- 11. 6 中等学校連合野球試合（一中校庭）。同庭球大会（商業）開催。
- 11. 8 高知新聞社主催中等学校相撲大会開催（公園北グラウンド）。
- 11. 9 香美郡山田町青年団一行、本校工場を見学。
- 11. 26 本年入営する卒業生の送別茶話会を開催。
- 11. 30 生徒一同、堀詰座で尼港惨劇の活動写真観覧。
- 12. 3 特別教室で生徒学芸会を開催。

県内 国内外関係

- 3. 10 県庁舎新築落成。
- 9. 27 朝倉連隊シベリア出征。
- 11. 3 高知市役所落成。
- 1. 10 国際連盟発足。
- 5. 1 日本最初のメーデー、東京上野公園で開催。
- 6. 10 「時の記念日」始まる。
- 10. 1 第1回国勢調査実施、人口76,988,379名（朝鮮、台湾含む）（内地55,963,053名）。



四国周回航程の壯舉

長程六百哩を突破せし土陽号のエンジン、土陽新聞社主催の四国一周モーターボート土陽号に据え附けたエンジンは本校第一回卒業生が在学中精神を込めて製作した記念品であつた。

去る八月二十五日を期し壯圖に上つたボートは午前九時敷多の見送り人の前を旋回し警笛を鳴らしつゝ棧橋に別れを告げ爆音勇ましく浦戸湾外に疾走した當日は外洋航行には寔に眺へ向きの好天氣で勇姿は手結、安藝沖を通過し室戸に一泊の豫定にて上陸したが俄かに變更して最難所たる室戸岬に向かつた。秋の月夜の荒波を勇敢にも突破し無事甲の浦に着たのは夜の十時であつた。翌朝大島と伊島の激浪に奔弄せられながら徳島に安着し音に名高き阿波の鳴門の渦に巻かれ高松、多度津、尾の道、呉

等を訪問し宇品に一泊後再び松山に向ひ三機を出發した。愈々難關たる佐田岬を迂回せんとせしが折柄の暴風で船は激浪に木の葉の如く奔弄せられ一同死を決して針路を換えず宿毛に辛うして避難した數回大波を掬ひマグネットは水に潰つたがエンジンがストップせざりし爲め九死に一生を得た。清水港に低氣壓を避け足摺岬を突破漸く中村須崎に寄港し再び勇姿を浦戸港内狭島に現はしたのは九月十二日午後二時過ぎであつた。

二句に渉る此壯舉が我が南海健兒により決行せられ成功したのは只に土陽新聞社の名譽のみでない我が高知縣の名譽である而して其の裏面には會て丹誠を凝して此のエンジンを作つた生徒がある事を忘れてはならぬ特に土陽号操縦者吉本氏が四国四縣の津々浦々迄權威ある我が高知工業學校を誇りとして紹介せられし事を深く感謝する。

(会誌六号より)



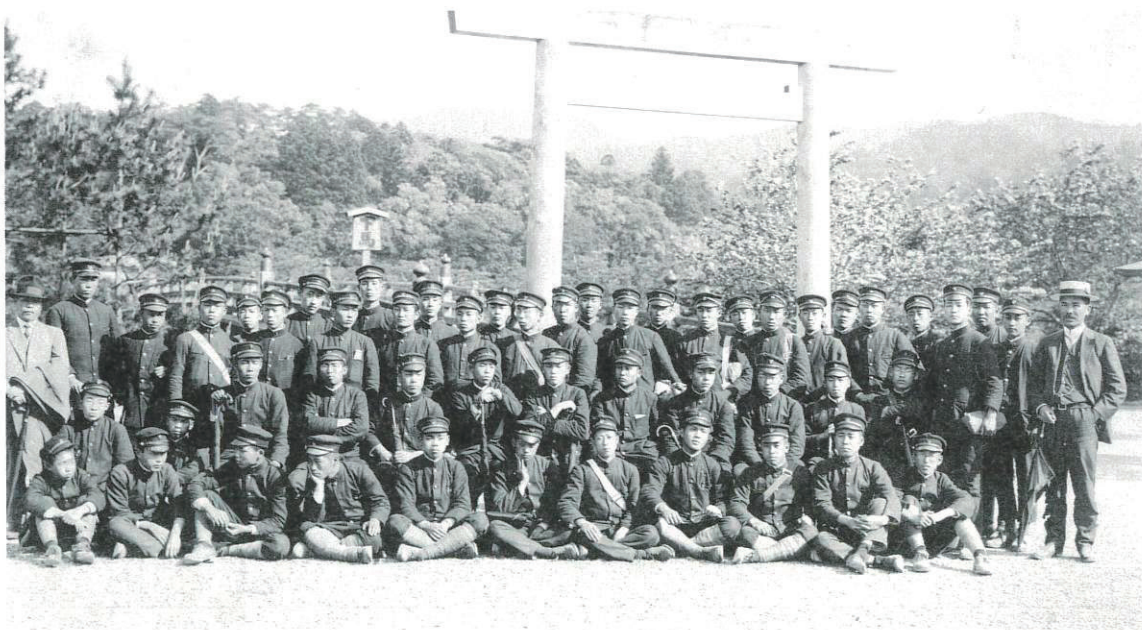
(第4回卒業生)

修学旅行程

神戸
 |
 大阪
 |
 京都
 |
 奈良
 |
 宇治山田
 |
 東京方面



(日光中善寺湖)



(伊勢神宮)

1921年・大正10年

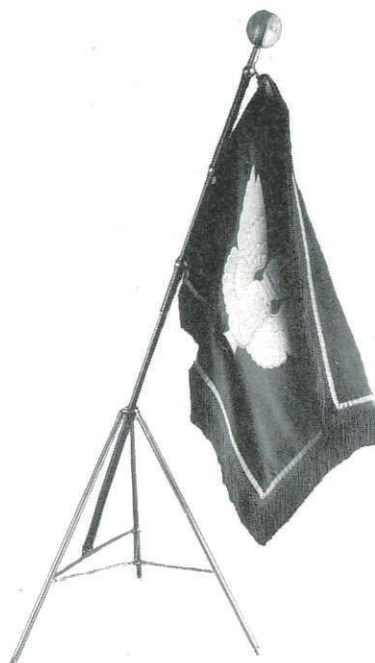
1. 30 武徳会で本校武徳大会を開催。
2. 11 紀元節式典終了後、武道寒稽古の皆精勤者に授賞。皆勤者剣道部19名、柔道部18名、精勤者剣道部5名、柔道部11名。
2. 15 大阪力士の相撲を帯屋町で観戦。
3. 23 第5回卒業式、機械科20名、電気科14名、応用化学科15名。
3. 30 予科1学年入学試験施行、入学志願者425名中、99名に入学許可。
3. 31 学校全部を一般公開、数千名の参観者で賑わう。
4. 24 土陽新聞社主催婦人見学団本校参観。
4. 28 芸西高等小学校生徒本校工場を見学。
5. 4 開校記念日。10周年記念式挙行。校旗制定の式を行う終了後校庭にて分列式を行い大軽気球を飛揚する。
5. 5 本科3学年、県外修学旅行に出発。
5. 11 本科2学年以下は須崎方面に一泊旅行。
5. 30 高岡郡興津尋常高等小学校生徒本校を参観。
6. 23 別科採鉱冶金科、第5回卒業式、6名卒業。
7. 1 浜口雄幸代議士、本校を視察。
7. 31 全国中等学校野球大会県予選、市商と対戦。8：1で勝ち代表権獲得。
8. 2 全国中等学校野球大会四国予選に出場（松山）徳島中に11：3敗。
剣道、柔道各選手、京都の武徳殿演武に出場。
9. 28 臨時登山会開催。生徒全員土佐郡七ツ瀧神社に参り三谷観音を経て帰校。
10. 5 校内相撲大会開催。
10. 16 県下中等学校相撲大会に出場。
10. 19 吾川郡上八川尋常高等小学校生徒本校を参観。
10. 25 土佐郡南部小学校教員8名本校を参観。
11. 3 武徳会で本校武道大会開催。
11. 8 第7回本校庭球大会開催。
11. 25 帯屋町で興業中の大阪相撲を観覧。
11. 27 坪内早稲田大学助教授来校。このたび設備した無線電信を実験し成績良好と認める。翌日生徒に無線電信電話に関する講演を行う。
11. 30 本年入営する卒業生の送別会を校内で開催。
12. 2 午後1時より学芸会開催。
12. 11 潮江村で興業中の東京大相撲を職員生徒観覧。
12. 15 野球選手、東京大相撲力士と一中グラウンドで対戦。

県内 国内外関係

3. 県会議事堂落成。
6. 26 高知市と県外との市外電話開通。
10. 1 県下一斉に青年学校開校。
12. 高知師範学校で県下初の陸上競技大会。
1. 22 第1回芥川賞 石川達三、直木賞 川口松太郎受賞。
8. 27 学生の思想善導に関して文部省 訓令を発す。
11. 4 原 啓首相東京駅で刺殺される。
※この年不況深刻化、「舟頭小唄」、「枯れすすき」など大流行。

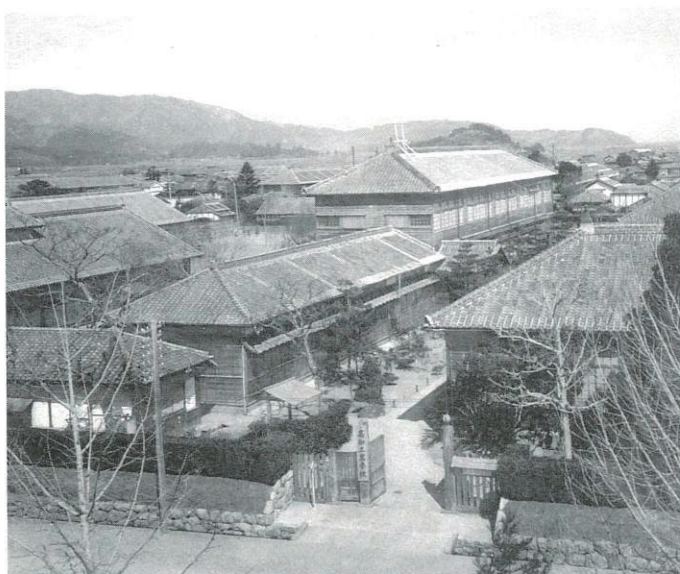
機械科実習工場

動力伝導はベルト掛けであった。ベルトがゆるんでくると短く切って使用。またスリップ防止にワックスを使用。始動時には手で引っ張っていた。



旗 校

この校旗は大阪の三越が製作したもので
破損がひどく現在同窓会資料室に保管している



（本校全景）



（機械科実習工場）

自然に歸れ自然は自由であり慈母であり良教師である。と教へたルーソーの言葉に相當の眞理がある。餘りに反自然的な運動や計畫はどうしても無理が伴ふ無理が通れば道理が引込む。斯くて自由を失ひ慈母を失ひ、良教師を失ひ、……を失ひ、自己を失ふ。機械的人生觀を眞理の全部と誤信して行動するは實は自ら死地に陥入る恐れがある、唯物主義一点張も。マルクス陶醉もつくり思案が肝要である。

(會誌七号より)

松本 改良先生(電気科長、二代校長)

松本先生は和食村(現芸西村)の旧家松本竹七氏の長男として出生。和食尋常高等小学校をへて、旧制安芸中学校に入学した。當時は自転車も無い時代で、和食・安芸間三里の道を五年間、徒歩で通学して卒業された。朝暗い内に家を出て、八流山を越す時、やっと日が出たと子供の頃人伝に聞いている。私も小学校の頃、安芸の町へ、色々の催しのある時歩いて見に行つたが、当時安芸の町へ往復するには藁草履の履き替えが一足必要な距離で、此の道を五年間雨の日も風の日も毎日通学された事は、並大抵の根氣では達成出来ない。

古めかしい諺で、現世代では殆ど忘れられている「艱難汝を玉にす」と言う、己を律する強い信念が心の奥に秘められていてこそ、貫徹されたと思われる。

先生のニックネーム「牛」とは誰が名付けたか? こうした性格と、寡黙、重厚な風貌を実に良く表現していると思う。

先生は安芸中学校を卒業後、当時日本最高の名門、東京高等工業学校(学校の所在地が東京蔵前に在ったので、一般に蔵前高工と呼ばれていた)の電気工学科を卒業、帰郷されて、創業間もない安喜水力電気(株)の主任技術者として入社され、名村川発電所の設計建設に従事されたと聞いている。

大正七年私立高知工業学校の電気科の教諭に迎えられる、当時数少ない電気技術者の育成に専念された。其の後本校は県立となり、県下唯一の優秀な工業学校に成長した。

昭和八年吉崎校長先生の勇退の後、二代目校長に就任、昭和十四年大分県立津久見工業学校校長に転任、後退職し郷里に帰られた。暫く百姓仕事をする傍、和食農協の組合長に就任農政に尽くされた。戦後の昭和二十九年和食、馬ノ上、西分の三村が合併して芸西村となった時、村の教育委員長に就任され、死去されるまで三期八年間、村の教育行政に貢献された功績は大きい。

我々在学当時先生から交流理論の講義を受けたが、教室に入ってから出られるまで、只講義一筋に冗談は勿論、笑顔も見せず、徹底した授業で難しい理論が頭の巡りの悪い我々には理解しにくく味気ない思いをした。

事殊に物事に徹する御気性は、百姓しておられた時の服装も、股引、筒袖の短い上着に帯、地下足袋の完璧な昔の百姓姿で肥桶を担っておられるのを見かけたことがある。

又何かの宴席で近所の「若者」が政治に関する色々な自慢話をし「政治のことなら!何でもわしに聞き!」と言うのを聞いて、「百姓は百姓のことをうんと勉強せにゃいかん」と先生は一喝されて「若者」は黙ってしまったと云う一幕もあったと言ふ。

一面長らく郷里を離れていたで近所の人々と親しく話す事が無かった関係で、近所の奥さん方から朝の挨拶をされた時、先生は「チョコン」と頭を下げるだけで、言葉の挨拶が無かったとの不評も聞いている。等々先生は典型的土佐人の一面を持った方である。

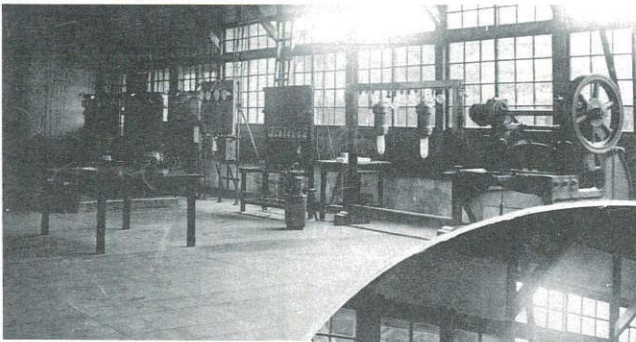
昭和三十六年二月十一日死去 七十一才

墓所 安芸郡芸西村和食極楽墓地

遺族 安芸郡芸西村和食芝松本康氏(岡村正男・昭五電卒)(回想六十年より)

松本先生は五年の担任で「交流理論」は今思い出すと名講義であった。未だ習って無かった微積分を駆使して、黒板一杯に数式の展開、書き写すのがやっとならであった。時々「間違うちよる」と云われて消して終り、又始めからやり直す様な事もあった。然し卒業後、独学で交流理論の勉強をしている時、もう一度此のノートの整書をしながら復習したが真に良い講義であったと感心した。

(西原真一・昭五電卒)(回想六十年より)



(電気科実習工場)

授業風景



1922年・大正11年

1. 9 本校設立者竹内綱先生逝去。
1. 10 生徒一同に竹内綱先生の逝去を通知し先生生前の偉業を講話し授業休止し哀惜の意を表す。
1. 11 講堂で午後2時より竹内綱先生の葬儀挙行。
1. 18 シベリア出征兵士帰還、午前8時半鏡川橋以西に集合し歓迎、午後高知座で馬賊討伐の活動写真を観覧。
3. 19 香美郡吉川尋常小学校生徒を校長が引率し本校工場を見学。
3. 21 学校公開、本日の入場者6000余名。
3. 23 第6回卒業式 機械科 26名 電気科 16名 応用化学科 14名。
3. 25 入学試験の志願者、428名、26日身体検査 105名に入学許可。
4. 1 予科・本科の別を廃止し修業年限が5カ年となる。
5. 1 高知座で国難と言う活動写真を観覧。
5. 4 開校記念日。
5. 13 5学年、浦戸丸で東京方面に修学旅行に出発。
6. 8 放課後2・3学年、合同相撲競技会を校庭で開催。
6. 9 山室軍平の禁酒演説会へ生徒一同出席。
6. 11 少年野球決勝戦が城東中学校庭で行われ優勝旗獲得。
6. 16 秋季対抗相撲大会出場。
7. 22 全国中等学校野球大会県予選開幕。
8. 1 全国少年野球大会四国予選、徳島商業を16：3で破り代表権獲得。
8. 5 全国少年野球大会。(大阪天王寺グランド) 山口華浦校と対戦3：0敗。
武徳会本部青年演武大会に(京都) 剣道部、柔道部出場。
8. 10 本校主催夏期講習会開催、小学校教員を対象に機械工学、電気工学の講義を行い工場で各種の実験を行う。
8. 20 武徳会支部で武徳祭並びに演武大会が行われ柔道の濱口慶太郎、一等賞金牌を獲得。
8. 23 水道増設工事始まる。
9. 24 第4回県下中等学校庭球大会開催、本校選手大活躍。
10. 1 県下中等学校野球大会、決勝戦城東中と対戦3：2で勝ちのところ日没のため再試合となる。
10. 17 高知新聞社主催第6回中等学校相撲大会、2位。
10. 26 全国中等学校相撲大会、(堺市大演) 決勝トーナメントに進出。
10. 30 学制頒布50周年記念式挙行。
11. 13 皇太子行啓の当日体操を本校校庭で台覧に供するため各学校の連合体操練習を始める。各実習工場の整備。御座所建築。
11. 27 皇太子殿下午前10時45分に小幡県知事の先導で本校へ行啓、吉崎校長先導、機械工場、木型工場、電気工場、応用化学工場ご説明。

県内 国内外関係

6. 12 朝倉連隊シベリアより帰る。
1. 10 大隈重信、死去(17日国葬)。
2. 1 山県有朋、死去(19日国葬)。
2. 6 ワシントンで日本など5カ国、軍縮条約調印。
3. 3 全国水平社創立大会、(京都岡崎公会堂)。
7. 日本共産党非合法に結成。
10. 31 イタリア、ファシスト政権成立。



(職員一同)

大正十一年一月九日我欽仰崇拜せる竹内綱先生逝去せらる嗚呼哀哉先生は夙に愛國の赤誠を以て板垣伯林大江氏等と共に憲政創始の大業に執掌せられ後帝國議院に入りては各種の書策を遂げられ實業界に出で、は商工業の振作を計圖し我國財界に貢献せらるゝこと多年なり而して又先生は郷國を顧慮せらるゝの餘我高知縣子弟の教育の爲多大の私財を擲ち明治四十五年高知工業學校を設立し今や學校の基礎愈鞏く學校の信頼益厚く縣の内外に其名聲を發揚し幾百の卒業生は機械事業に成は電気事業に成は又應用化學事業に各我國樞要の地点にありて其職に就き以て工業界に効績を擧げつゝあるは是亦先生が郷を思ひ國を憂ふる賜たらずんばあらず今や我國は此偉人を失ひ我校此恩人に離る痛悼何ぞ堪へんや某等既往を追懐し將來を考慮する毎に先生の高德偉業の炳耀たるを覺へ謝恩の感油然として胸裡に湧湧するを覺へざるなり本日茲に先生の靈柩を送るに際し謹て如上の感想を述べて弔詞となす

弔詞

機械科
製図実習



機械科卒業生



校庭の一部

野球部記事

應化科五年 濱田真幸

全園少年野球豫選大會 六月十一日
 參加校は海南學校と我が校の二校でこの試合が優勝戦である、我軍よく攻めよく守り七回ゲームにて十三對一にて優勝す、此の時始めて吾校は優勝旗を得た。
 吾校のメンバーは左の通りである

- 岡保崎 木村 本杉 文崎
- P. 則久
 b. 島植
 1B. 植今
 2B. 坂上
 3B. 公吉
 SS. L.K.
 CK. R.K.

全園少年野球四園豫選大會 八月四日

八月四日我園少年野球團は徳島商業と今宮中學グラウンドにて戦ふ
 徳商方強いと思ひの外實に脆く、則岡の怪腕に捻ねられて、物にならず、公文の本塁打、植木のヒット等にて吾等大いに振ひ、三回ゲームにて、十六對三で勝つメンバー左の如し

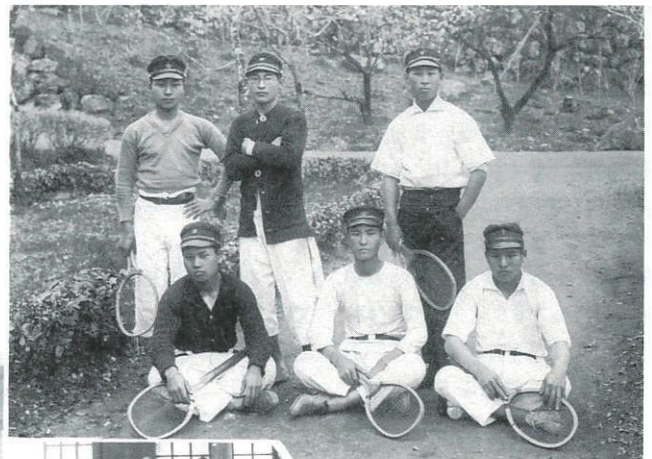
岡保崎 崎村 本杉 文木

1. 則久
 2. 川島
 3. 吉今
 4. 坂上
 5. 公植
 6. 7. 8. 9.

此の試合に依つて吾園は全園試合に出場する権利を得て名譽ある優勝旗並にメダルを得た

全園少年野球大會 八月五日

吾園は劈頭優勝の候補者たる山口華浦校と天王寺グラウンドにて戦ふ
 此の日則岡、今村、公文君に故障があつて攻守共に充分ならず、島崎君の安打一つありしのみ、終に七回にて三對零にて敗る
 併し乍ら本校少年野球團は日本全園に於て第三位にあると云ふことを附加して置く



テニス選手

高知高等学校にも行けませんでした、高等学校に行くとならば高検を受けなければならなかった。これに合格したら願書と一緒に学校に提出して受験出来た。

5年制の工業学校はこの時分には全国で殆んどありませんでした。普通科目にも結構重点を置いておりましたので5年までに国語・漢文・英語・数学等勉強出来ておりましたので私は1年浪人して大阪の高等工業に入りました。田所 稔(大9応化卒)も一緒にいました。

弟は私よりも出来が良くて高等学校から京都大学に入り天文学を勉強しておりました。

明太郎先生は来校した時には教室などをそっと見廻っていました。それは生徒と会って生徒に頭を下げさすのが嫌じゃと言っていました。私が英語の時間に立って読み訳しているときに、明太郎先生が一人連れて教室をのぞいていましたがその人が後に総理大臣になった浜口雄幸でした。2人は政友会と憲政会とに分かれていましたが仲良かったようです。

卒業證書

高知縣士族

公文敏直

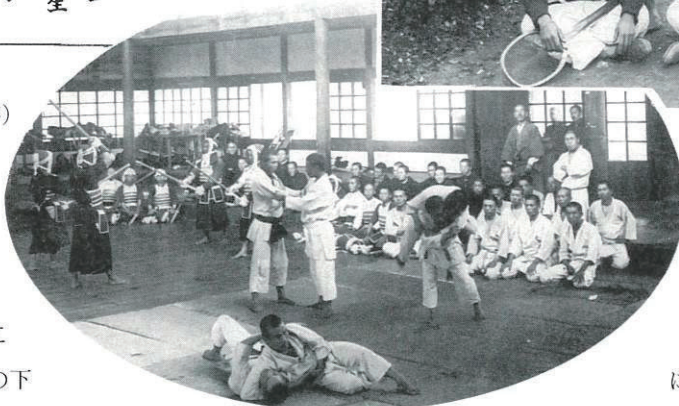
明治廿七年一月廿日生

本校機械科ノ課程ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス

大正十年三月廿三日

高知工業學校校長後七位吉崎七次郎

第三號



武術練習

思い出

公文敏直(大11機卒)

峰寺の鐘が朝5時に鳴ると母が起きて朝食・弁当を作ってくれる、弟と妹と3人分母も仲々大へんだった。

十市の山を越えて稲生に出てそこから巡航船で通学する、瑞山橋の下の方に木の橋がありましたその近く

(満潮の時にはこの橋を皆で持ち上げて船を通しました)から船が出ていました。高知の農人町まで乗って行きそこから歩いて学校まで行きよりました。

潮の関係で途中潮が干いたら巡航船が動かなくなったり、農人町に入れないときには青柳橋の北の方の岸に無理につけてここから走って行ってくれと言われたり結構距離があり大へんでした。相撲でも活躍した山本下学が弟(13電卒)と同級生と一緒に通学しておりました。

5年生になってから上級学校に進学したくなり3学期になって高知の方に下宿をして勉強しました。当時は高等工業にはいけたがこの場合でも高検(中学校の1~4年の課程を全部受けて資格を取る)を取得して試験を受ける事が出来ました。旧制の

1923年・大正12年

- 1. 9 竹内綱先生の一周忌追悼式挙行、授業休止。
- 1. 20 高知座で外人拳闘並に怪力技技機械体操等観覧。
- 1. 28 高知公園武徳会で中等学校連合武道大会開催。
- 3. 8 財団法人高知工業学校の解散並びに財産寄付申請書を文部大臣に提出。
- 3. 10 第7回卒業式 機械科 29名 電気科 23名 応用化学科 15名 技術員養成所 1名 式後卒業生送別会を催し余興として酒井 雲の浪曲を聞く。
- 3. 31 入学志願者488名に対し入学試験施行、98名に入学許可。
- 4. 1 財団法人解散の件、文部大臣より認可。高知県に移管となり高知県立高知工業学校と改称、生徒定員500名となる。
- 5. 4 開校記念日。
- 5. 7 5学年、県外修学旅行に出発。
- 5. 16 4学年は安芸郡馬路村方面・3学年は安芸町方面・2学年は越知方面・1学年は須崎方面に修学旅行。
- 6. 19 高知座でアインシュタイン学説の講演、活動写真会があり生徒全員出席。
- 8. 2 全国中等学校野球大会県予選 優勝、四国予選大会出場。今治中と対戦 7：0敗。
- 8. 24 夏期休業中に鏡川で実施した水泳練習会終了。
- 9. 1 商業学校水泳部と本校水泳部連合し種崎浜で各種競技実施。
- 9. 10 関東地方震災救済金として本校生徒職員より343円62銭5厘を募集し県救済部に委託。
- 10. 13 県下中等学校連合運動会開催。
- ~14 相撲団体3位、個人2位（寺田）、野球2位。
- 10. 16 巖谷小波山人の講演会を城東中で開催、生徒職員出席。
- 10. 27 校内庭球大会開催。
- 11. 1 全校生徒の一日遠足実施、円行寺―鏡村―川口―旭村―学校。
- 11. 11 高知高等学校で運動会開催、徒歩競走、2位。
- 11. 24 大阪毎日新聞社主催全国中等学校相撲大会、決勝戦で京都立命館中に1点差で敗れ2位。
選手 水田守道、山本下学、寺田憲夫、武市可康 井上 潔。
- 12. 11 野球部選手、東京大相撲力士と高等学校グラウンドで対戦。
- 12. 25 終業式で全国中等学校相撲大会で活躍の山本下学、寺田憲夫に全勝メダル授与。

県内 国内外間系

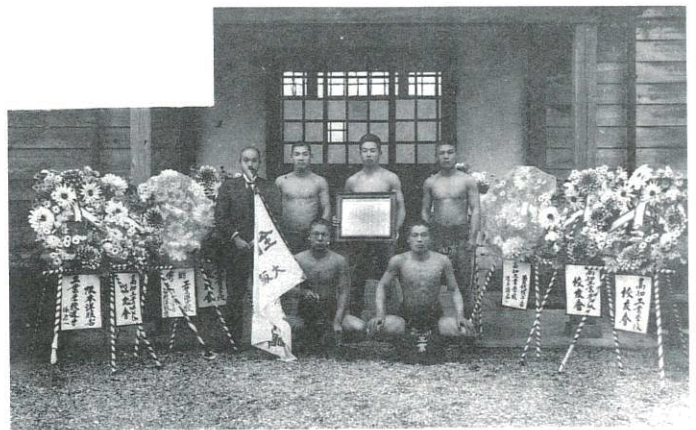
- 4. 1 郡制廃止、郡道の大部分を県道に編入。
- 4. 16 高知高等学校開校（現高知大学）。
- 10. 13 第1回中等学校運動競技会開催（現県体）。
- 11. 1 四国銀行創立（高知、土佐両銀行合併）。
- 12. 5 高知公園で板垣退助銅像除幕式。
- 1. 27 婦人参政権獲得同盟、東京で結成。
- 9. 1 関東大震災で死者、91,344名、行方不明者、42,257名、大勢の朝鮮人が殺された。
- 11. 10 国民精神作興に関する詔書発布。
- 11. 15 ドイツ、マルク紙幣大暴落最低に達する。

文部大臣鎌田榮吉殿

大正十二年三月八日

財団法人高知工業学校理事 吉崎七次郎

三月八日 財団法人高知工業学校解散並に財産寄附申請書を文部大臣に提出せり、其の申請書寫左の如し。
財団法人解散並に財産寄附の議につき申請
本財団法人は、主として設立者竹内綱（現時竹内明太郎）の寄附金により、高知工業学校を經營し來りしが、文運の進歩に伴ひ、其設備資金の多大を要するに至り、特に事務局次來經濟狀態の急轉を來し、設備は勿論經常費に於て當初計畫に於て約三倍の増加をなすに至り、創立當時の狀態にては經營維持必ずしも困難ならざる見込みなりしも、全然豫期に反し、既に多額の支出をなし最早當初の資金にと處辨の餘力を存せざる程度に立ち至り、設立者に於ても此進運に應ずる寄附を爲す能はざる狀況に有之候間、今般本財団法人を解散し、其財産全部を高知縣に寄附致し、縣の經營に移し度、評議員會の決議を経候に付、御認可相成度此段及申請候也。



全国中等学校相撲大会（大濱）第2位の成績をあげた相撲部（11月24日）

十月十三日 各中等学校連合運動會は本日より二日間に涉つて行はるゝこととなり、本校にては相撲大會あり、水田守道、山本下学、武市可康、井上潔、白川仁大濱芳之助、田所孝、濱田清巳、寺田憲夫、濱田英雄の十選手を出し、安藝中學、農業、商業、城東、師範中村の六校と角せしが、最後に於て商業校四十点を獲得して優勝校となり、安藝中學三十七点を以て第二位となり、本校は三十三点を以て第三位となり、師範の三十二点、城東の三十点、農業の二十四点、中村の十四点を以て、本會を結了せり、而して個人勝負に於ては、師範校の甲藤松次君第一等となり、本校の寺田憲夫君第二等を、師範校の横山重夫君第三等、城東校の小川信雄君第四等に、安藝中學の濱口幸一郎君第五等となり。



小松益喜さんは神戸・北野の異人館を56年間も描き続けており地元でも「異人館の画家」として知られている。本校大正12年3月電気科卒業である。



(北町風景 風見鶏の館)



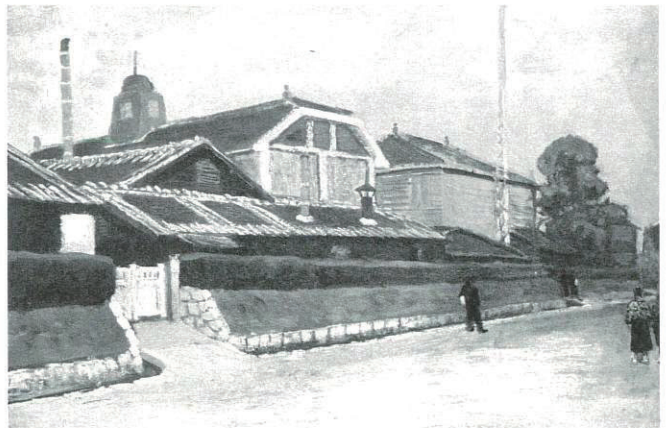
異人館を半世紀以上も描いてきた小松益喜さん。「題材の幅を広げたい」と、人物のスケッチにも意欲的に取り組んでいる（神戸市灘区篠原中町の自宅アトリエ）

「朝に疲れんねえ。こちやてるのに疲れらバチが当たる」と元ものだ。夕食後も画家としては続く。実は、この月「モチーフの幅をい」と決意した。自宅前を走る阪急電車にみ、乗客の顔を又毛筆ツチする。約一時間、十枚手がける。「電車の中にはいろいろがあつて実に楽しい

思い込の工業学校 小松益喜
これは一九二二年頃の、なにかしき思い込の工業学校である。
正面向いには果立高知高等女学校 向うて右側には私立中村実科女学校があつた。その頃の教頭であつた中村先生の夫人が経営されてい学校で、吾々の間では、実科ということかう 嘆りかけた英語でインテイという呼び方をしていた。また一、二丁隔てて果立第一中学校 私立土佐女学校があり、学校区ともいいた感じの街だった。北へ行けば悪水と呼んていたとふりが流れていたが、この学校街はあつかしいところであつた。
現在 工業学校には 小松が高知へ帰つて来てあつた字生した二十号の画があつた。この画の記憶画とどんなに違ふか 比べてみようとも面白くと思ふ。

神戸新聞平和賞を受ける

洋画家 小松 益喜さん 高知市出身



北与力町の旧校舎 現在校長室に掲額されている

1924年・大正13年

- 1. 20 県下中等学校武道大会に剣道部11名、柔道部11名、出場。
- 2. 5 柳田国男の「世界の人種」講演を城東中講堂で4・5学年聞く。
- 3. 4 無試験入学志願者36名の選考会議を開く。
- 3. 10 第8回卒業式 機械科 29名 電気科 21名 応用化学科 12名 技術員養成所 1名。
- 3. 21 学校工場全部を一般公開、本年は県下小学校の図書展覧会も併せて催す。県知事等多くの来賓もあり校庭には大西賢吉寄贈の大聲蓄音機の催しなどもあり賑わう。
- 3. 29 入学試験施行、志願者278名。
- 3. 30 下記100名に入学許可。

機械科	試験合格	33名	無試験合格	9名
電気科	〃	24名	〃	8名
応用化学科	〃	22名	〃	4名
- 4. 校歌制定、鯨鯨吼ゆる南溟の……………。
- 5. 4 開校記念日。
5学年、神戸・大阪・京都・奈良・名古屋・東京・日光方面の修学旅行に出発。
- 6. 8 高知高等学校で中等学校弁論大会、鍵山健吉、田所孝二出演。
- 6. 18 帝国航空輸送協会の水上飛行機が大阪木津川尻より飛来、鏡川尻より飛行を正午から生徒見学。
- 7. 28 全国中等学校庭球大会出場、ベスト8に進出。
- 8. 2 全国中等学校野球大会県代表として四国大会出場、松山商に7：3敗。
- 9. 27 県下中等学校、相撲、野球、庭球、陸上、オリンピック競技運動会開催。
- 10. 21 相撲、野球、庭球の校内第1回運動会開催。
- 11. 3 全国体育デー、生徒全員鷲尾山・烏帽子山間の峠を越え諸木村海浜で余興の宝探しをして長浜、横浜を経て帰校の1日遠足実施。
- 11. 15 県下連合武道大会開催、剣道部11名、柔道部9名が出場。
- 11. 9 大阪毎日新聞社主催全国中等学校相撲大会、3位。
- 11. 12 相撲選手団帰校、4・5学年潮江棧橋で歓迎し学校校庭で盛大に凱旋歓迎式挙行。
- 11. 15 中等学校連合武道大会、高知武徳殿で開催。
- 12. 10 城東中で嘉納治五郎の講演を4・5学年聞く。

県内 国内外関係

- 3. 31 土讃線、須崎一日下間鉄道開通。
- 6. 11 大蔵大臣に浜口雄幸（憲政会）。
- 11. 15 土讃線、須崎一高知間鉄道開通、高知駅完成。
- 12. 8 高知鉄道、後免一手結間営業開始。
- 4. 1 第1回全国中等学校野球大会、名古屋で開催。
- 7. 1 度量衡法改正施行（メートル法を基本とする）。
- 8. 1 甲子園野球場竣工。
- 8. 21 天気図初めて新聞に掲載。
- 11. 3 第1回体育デー。



校歌由来記

塩田一郎（昭十三機卒・田職員）

(一)

鯨鯨吼ゆる南溟の、怒濤逆巻く快天地
万岳の翠北に負い ここに生れし健男児

(二)

富国の基は工業の 発展進歩にあるぞとて
偉人の遺せし勲業ぞ 我が学舎に輝ける

(三)

火頭水身両翼の 校旗の光燦として
集える健児数五百 向上の意気天を衝く

(四)

学界彼岸は遠くとも 勇往邁進たゆみなく
造花の宝庫開き得て皇国のために尽さなむ

校歌の由来をかくように頼まれたのを機会に、いつごろから歌われるようになったのか、古い校友会誌を調べてみた。残念ながら、どこにも校歌に関する記録はない。ただ大正十三年の

校友会々誌第一〇号の巻頭に、はじめて校歌が記載されている。多分そのころに作成されたものであろう。私が入学したころのもの、歌詞が少し変っている。
「集える健児数五百」が、生徒が増加するにしたがって、「集える健児七百余」になり、私のときには「八百余」になった。一番最後のところも、私たちが教わったのは「いざや尽くさん国のため」であった。
作詞は国語の岡林九敏先生で、早稲田大学教授の相馬御風先生校閲、作曲は当時高知市第三尋常小学校訓導の岡寛先生である。
岡林先生は大へん話の上手な方で、趣味も広く、いろんなことを知っておられた。国語の古文が漢文を朗読されるときは、独特の抑揚のある岡林節とも言うべき名調子であった。また、授業のとき、郷土史のことや趣味の日本刀の話など、興にのると一時間中そんな話で過ぎしてしまうこともあった。

はじめての授業のときではなかったかと思うが、黒板へ
「岡林九敏」とかいて
「私は岡林チカトシといひます。キュウピンはありません。九は十に近いのでチカと読むぜよ……」
といて私たちを笑わせたことがある。先生のニックネームは「キュウピン」といった。私が二年生のとき、例によって脱線して易から、手相、家相の話になった。
「塩田。手相を見ちやるきに、ちょっとこへ来てみやや」
と言われたので、教壇の前へ出て行くと、先生は私の手を取りながら手相を見ていたが、おわりにこう言ってくれた。
「……この人文学の才能がある」
若い者の心理とは妙なもので、そのころから私は国語の授業が好きになって、その学年の国語の成績が大へん良かったことを思い出す。
(高知県人22巻3号より)

應援團作歌

一、やよ我が選手心せよ

過ぎにし年の戦に

我等が武運拙くて

破れし時の悔しさよ

二、敗惨の身に言葉なく

唯泣く／＼に来るべき

雪辱の日は待ちわびる

多年の雌伏今こゝに

三、熱血燃ゆる我が選手

兄等の任務軽からず

積る我等の此のうらみ

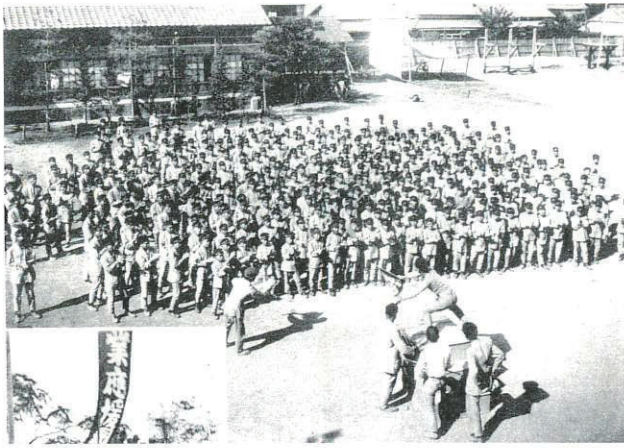
晴せや諸君の鉄腕に

四、おー北門の健男兒

立てや奮へや奮ひ立て

愛する我等の學園の

清き歴史を飾りなん



(校庭で応援練習)

思い出話

(その一) 高橋四郎 (大13電卒)

県外への旅行は、初めて。潮江棧橋を午後出帆し、土佐沖の荒波に揉まれ乍ら翌早朝神戸港上陸。眠い目を擦り乍ら神戸駅に向う途中架道橋の下を黒煙をあげて走る列車の轟音と、汽笛にびっくりして見据える。アッあれが汽車だと叫ぶ大声に目醒めたことは今でも忘れられない。神戸駅から東海道線に乗車。途中ワイワイガヤガヤ興奮のうち長途の東京駅に到着。宿の埼玉屋は上野公園西郷さんの銅像の真下。浴場設備がないため入浴は、すぐ近くの銭湯。流し場は板敷で滑りが良い。アット言う間に一人が、スッテンコロリ。又、一人。怪我は無いものゝ素っ裸の転倒は見ものだった。協話になるが、前年度の先輩の方々は立派だった。小高坂に高知高等学校が出来たのは昨年春だった。現在氾濫する予備校など聞いた事もないのに第一回の入試に一番、一番三番とパスされて新聞に大きく報道され母校の俊秀がほめ立てられたことだった。勉強も然ること乍らお元気も良く引率の先生方が辟易させられたとかで、今回の旅行では引率箇所が少なく、芝浦製作所、蔵前の高等工業学校、早稲田大学で、その他の名所、旧跡は割愛されたようだった。一例に、ある一名は「宮城はどこぞよ」と離京寸前に聞かれた由。その点、自分の隣宅の友人が高等小学校を出て日本橋の間屋に奉公に出ておられ、町寧に浅草の奥迄ご案内を頂き翌年東京人となった時幸いをした。

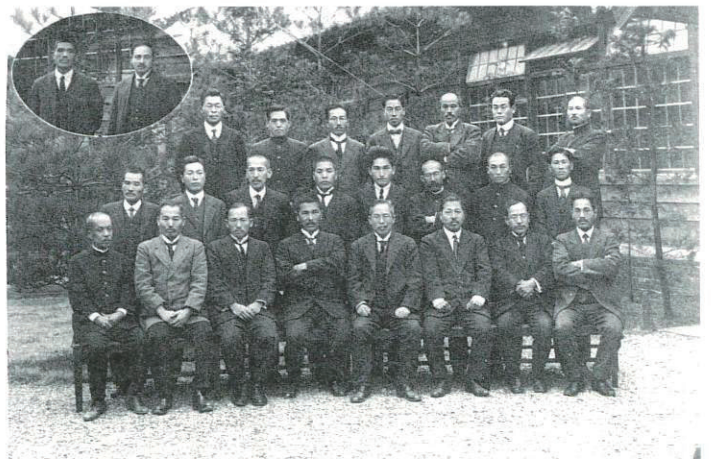
(その二)

南側教室の中央に俗称「監督教室」という部屋があった。恐い先生方がいらっしゃった。時効になったからお許し下さい。先生方には先輩からの引継ぎ「ニックネーム」があった。曰く「ゴリ」「ナマズ」「チャッチャ」「トンチン」「ベク」「うなぎ」「タニップ」等々。そのうち一番怖い御方は、体操の宮地先生だった。時々「オマン、今日何か悪い事をせざったかよ」と尋問を受けたが、私は「インゲ」と逃げるを、ゴリ先生は、「オマンの名が監督日誌に載らんと淋しいよ」と言われたこと

もあった。要するに自分が「オッチョコチョイ」だったので、老人の現在、反省している。大正十二年十一月、堺大浜の全国中等学校相撲大会で本校は優秀な成績を収められ、明日帰高するとの新聞報道があった。この夕刻、化学の門田先生が、明日、試験をするとの噂が流れた。「コリヤイカン」と有志が電気科教室に集まり悲憤慷慨。ここで自分が口を切り、ドウゼヨ明日は相撲選手一行を浦戸の入口で出迎え、凱旋行進をやらうでないかと提案した処、全員賛成。直ちに机、腰掛を片隅に押しやり、絵の上手な米勢君らに大きな^{のぼり}幟の作成を頼み、自分は出迎えの大形舡を借用と、途中乗船を、自宅の取引先である土佐商船にお願い(土佐商船は在来の大阪商船と競争中)して来ると早速出かけ、交渉は成立し舡の操作は、十市、浦戸、長浜方面の方々にお願いし快諾を得た。当日、夫々担当は早目に農人町の土佐商船に集まり、萬事好調。

狭島の先きで天佑丸(?)を見付け、先方でも吾々の騒ぎに何事ぞと甲板に、忽ち選手諸君の他、宮地先生も意外の歓迎に大喜び。一行は本船に乗り移り、舡は曳船し、自分達も凱旋したみたいに意気揚々。流石の宮地先生も思わぬ歓迎に涙を出して喜んで下さった。

一行は上陸後、隊伍を整え、途中先輩も参加し、本町通りを練り歩きながら母校に凱旋した。



(職員一同)

1925年・大正14年

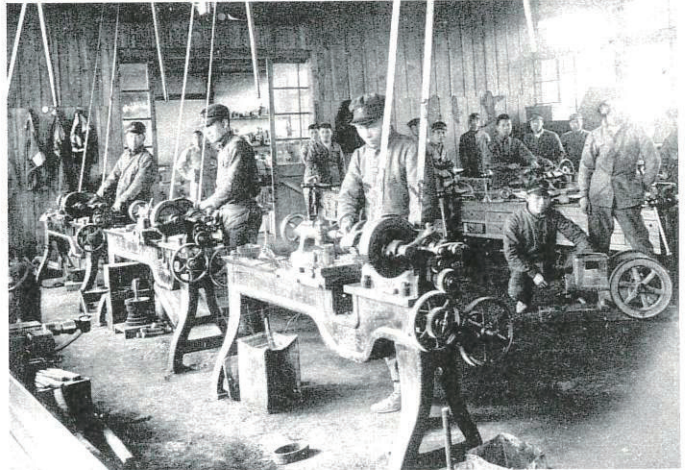
1. 12 農業学校生徒30名、本校を参観し機械、電気に関する講義を受ける。
1. 28 土佐郡鴨田村（現高知市神田）で第44連隊と砲兵の一部が連合して演習を行う。これに高等学校、中等学校の学生、生徒も参加することになり本校5学年が参加。
3. 10 第9回卒業式 機械科 31名、電気科 25名、応用化学科 14名。
3. 29 入学試験実施 志願者 286名。
3. 30 合格者発表 104名。

機械科	試験入学	37名	無試験入学	10名
電気科	〃	25名	〃	8名
応用化学科	〃	19名	〃	5名
4. 19 5学年、県外修学旅行に出発（5月1日まで）。
4. 28 4学年は安芸郡馬路村に2泊旅行、3学年は長岡郡大杉村より土佐郡森村に入り2泊旅行、2学年は越知方面、1学年は須崎一宇佐に1泊旅行実施。
5. 4 開校記念日。
5. 16 学芸会を開き県内外旅行報告を行う。
5. 24 高知高等学校グラウンドで野球大会開催、北門倶楽部で出場 2位。
7. 1 柳原付近で2学年以下毎日水泳練習実施。
7. 20 本年より軍事教練実施、第44連隊大尉 宇野節着任。
7. 24 全国中等学校武道大会、京都武徳殿に剣道部 3名、柔道部 3名出場。
7. 25 全国中等学校庭球大会出場（大阪濱寺）中屋伝太郎、深田続、能勢猪喜知。
8. 1 第2回機械、電気工学講習会開催、県下の小学校教員、実業家、篤志家等80余名参加。
8. 3 全国中等学校野球大会県代表として四国大会出場、松山中と対戦 6：2敗。
9. 26～27 県下中等学校連合運動会
 庭球 2位、野球 2位。
10. 15 高知教会堂で長尾半平の禁酒演説に生徒全員出席。
10. 18 大阪毎日新聞社主催全国中等学校相撲大会出場。
10. 19 土陽新聞社主催、県下三大野球リーグ戦開催。
 六菱、商友クラブを破って優勝。
11. 3 体育デー、生徒全員 吾川郡秋山甲殿に遠足。
11. 5 桑木博士の「哲学と科学」、青柳博士の「智育と情育」講演会に4・5学年出席（高知高等学校）。
11. 12 4・5学年、土佐郡朝倉村付近で発火演習実施。
11. 15 高知県教育会主催県下教員庭球大会、ダブルス優勝（濱田、竹内）。
11. 18 第11師団假設敵演習を市付近で実施、4・5学年参加、3学年以下は授業休み観戦。
11. 19 柳原で第11師団観兵式挙行、4・5学年参加し他の生徒は前日同様参観。
11. 22 土陽新聞社主催県下実業団野球大会開催、教員7名と卒業生2名でチームを作り出場、優勝。
11. 23 教英社主催第1回ヒシヤカップ争奪庭球大会開催。
 シングル・ダブルスともに優勝。

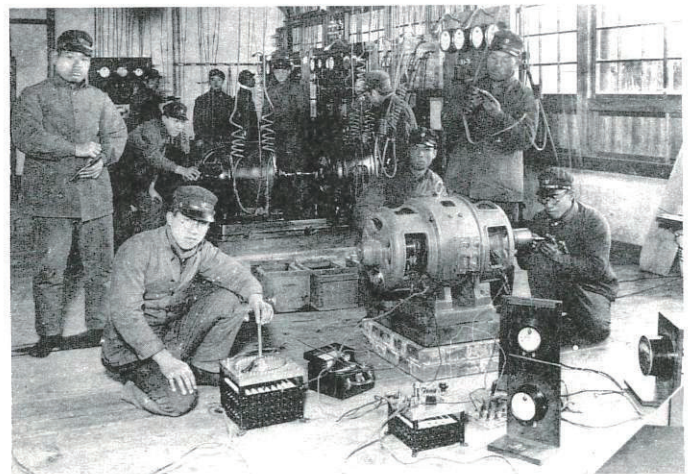
県内 国内外関係

4. 19 高知市九反田に生魚市場開設。
 県立学校生徒に軍事教練開始、配属将校を置く。

4. 24 高知市、上水道開通式。
4. 30 高知市、天神橋の架け替え竣工。
6. 10 大町桂月 死去。
11. 15 土讃線、高知一土佐山田間開通。
1. 10 文政審議会、学校で軍事教育実施案を可決。
3. 1 東京放送局、試験放送開始（7月12日愛宕山より本放送）。
4. 22 治安維持法公布。
5. 26 活動写真フィルムの検閲規則公布。
9. 20 東京6大学野球リーグ戦開始。



機械科実習工場、本校製の6呎旋盤を使つての実習。
 右側のエンジンも本校製。



（電気科実習工場）



（応用化学科実習室）



県下三大野球リーグ、六菱、商友クラブを破って優勝。

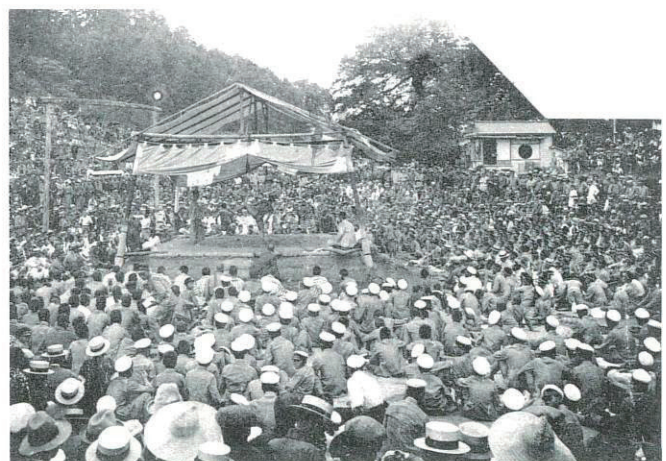
免れ残っているのなら60年の年月を経た今日どんな状態であるか一目みたいものである。

校歌の「火頭水身両翼の、校旗の光り燦として……」という一節を思い出す。校章のデザインは形態、象徴ともにユニークで優れていると少年の美学は評価したものであったが今もその評価は全く変わっていない。

アルバムをみると全同級生の顔写真が一頁8名のこみで並んでいる。70才以上の現状に比べてみると当然ながらみな一様に紅顔可憐、眉目秀麗と申しても差支えない様だ。科別では機械科32名、電気科24名、化学科14名計70名である。処で半世紀余りたった現在、生存者32名、物故者36名、消息不明者2名、従って生存率は45%という勘定になる。数字というものは真に冷酷であり非情なものである。

20年後には生存率はゼロパーセントと4.3パーセントの間とみるのが、まず確実な展望である、生物の不可避なサイクルとして消耗、衰退の過程の終着駅遠からず到着する列車……。

(会報20号より)



県下中等学校相撲競技大会・高知公園すべり山の北側の土俵・今の高知県婦人会館のところ

竹内綱先生胸像建設々計書

一、山白雲先生作 青銅製胸像 高二尺五寸 竹内家ヨリ寄附

一、花崗岩臺石 高五尺 本山白雲先生設計

右計算書

一金千圓也

内 譯

金六百圓也 石材並二工事費
金四百圓也 除幕式費並二雜費

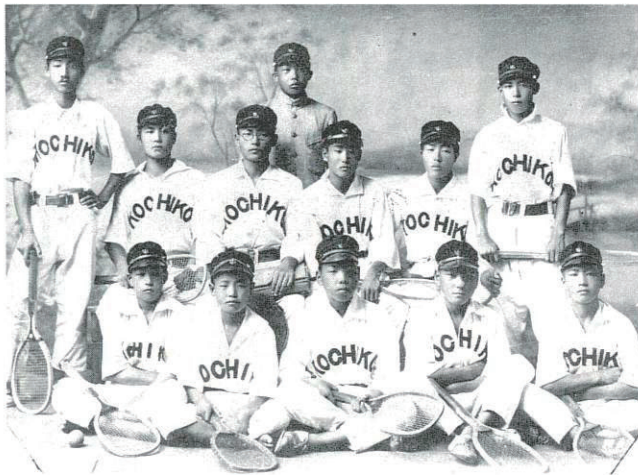
以上

一、本校卒業生は一人につき金貳圓寄附すること
一、寄附金は直接若くは振替貯金を以て大正十五年一月三十一日限高知縣立高知工業學校同窓會宛送附すること

振替貯金口座番號 大阪七六二二六

加入者氏名 高知縣立高知工業學校同窓會

大正十四年十一月



(本年度好成績をあげた庭球部)

同級会記一回想

永井藤一郎 (大14化卒)

卒業は今を去る54年の昔、大正14年、第9回生である。往時の記憶は半ば風化、半ば消亡して定かでない。当時の校地は、現在の高知女子大学の敷地そのまま変わらない筈であるが、地上の景観は全く変わってしまい昔を偲ぶよすがとなる何物もない。稀にあの附近を過ぎ、女子大のキャンパスを見るたびに「桑滄の変」という語句が自然に浮かんでくると一緒に、「この語意は桑田変じて滄海となる様な大変化の事だ」と訥々と教えられた国漢の岡林先生の風貌も彷彿と目前に浮かぶ。

門後方の植込みに、プラカード風な白ペンキ塗りの立札があり50センチ、30センチ程の長方形の板に短い足をつけ土に押込み固定していた。5年間見なれて自然に覚えていたフレーズは、KEEP OFF THE GRASSに違いなかった。入学当初生れて初めて接した外国文字に、無垢で柔らかい少年の脳味噌は、何か文化的な風の戦ぎと、エキゾティシズムの香りを、そこはかたなく感じたものであった。文句の意味は、長い間正確にはつかめず「芝生に入るべからず」と言う慣用語句であるのを知ったのは卒業してからの事であった。

校旗が新調されたのは、確か我々が3年生の時であった。深紅色の生地に金色の校章が刺繍されていた現在の校旗が戦火を

1926年・大正15年（昭和元年）

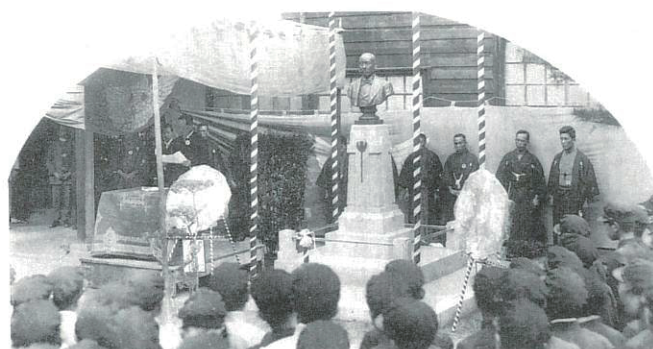
- 1. 20 第44連隊長 服部大佐、第11師団参謀 秋川中佐、本校で教練査閲を行う。
- 1. 25 角一ゴム会社主催庭球カップ争奪戦で竹村・能勢組優勝。
- 1. 28 5学年、午前8時より朝倉射撃場で射的演習実施。
- 3. 9 第10回卒業式 機械科29名 電気科 27名 応用化学科 11名 技術員養成所 2名。
- 3. 31 入学試験実施 99名に入学許可。
- 5. 4 開校記念日、創立者 竹内綱先生の胸像除幕式挙行。
- 5. 6 3学年以下、長岡郡仁井田村付近で野外教練実施。
- 5. 8 工場公開、初日は身動きの出来ない程の盛況、2日目には7,000名の入場者で賑わう。
- 5. 11 5学年、54名県外修学旅行。
- 5. 25 新にラジオを備え付け本日実験、東京・名古屋・大阪の放送を聞く。
- 6. 20 県下中等学校学生弁論大会に森田久雄、福留義親出席。
- 7. 17 4・5学年、三里村仁井田海濱で一泊野営演習実施。
- 7. 25 大阪毎日新聞社主催全国中等学校庭球選手権大会出場。
- 8. 2 大阪毎日新聞社主催第12回全国中等学校水泳競技大会出場（大阪）。
- 8. 3 全国中等学校野球大会、県予選で優勝、県代表として四国大会出場、今治中と対戦 5：0敗。
- 9. 12 土陽新聞社主催第3回棧橋一種崎間遠泳競技会に6校45名参加、本校6名参加、三宮益史 優勝。
- 9. 19 ヒシヤカップ争奪庭球大会、優勝（能勢）。
- 9. 27 野球部、第44連隊と試合、3：2で勝。
- 9. 27 ~28 県下中等学校連合運動大会。野球 優勝。
- 10. 2 県下中等学校連合武道大会（高知武徳殿）、剣道10名、柔道7名が出場。
- 10. 17 関西中等学校庭球大会開催（松山高等学校）、能勢・竹村組優勝。
- 10. 23 大阪毎日新聞社主催全国中等学校相撲大会出場。
- 10. 30 柳原の各中等学校連合分列式に参加。
- 11. 3 体育デー、宇津野峠を越え長浜・桂浜に遠足、西孕磯通りを経て帰校。
- 11. 12 5学年、甫喜ヶ峰発電所見学、4学年、小高坂村で狭窄射撃実施、3学年、光彩殿で武藤山治の講演を聞く。
- 11. 21 土陽新聞社主催県下三大クラブ野球リーグ戦。北門クラブ優勝。
- 11. 26 4学年、城東中生徒と連合で土佐郡一宮村周辺で空砲発射の野外訓練実施。
- 12. 3 子爵、後藤新平の講演を城東中で4・5学年聞く。
- 12. 22 5学年、兵営宿泊実習を朝倉兵営で実施。

県内 国内外関係

- 1. 25 下知村、潮江村を高知市に編入。
- 9. 15 県体育協会設立。
- 11. 7 高知公園の山内容堂銅像除幕式。
- 1. 15 治安維持法違反により京大生多数検挙。
- 1. 20 自動式電話装置創始。
- 4. 22 小学校令改正公布（日本歴史を国史と改名）。
- 12. 25 大正天皇崩御。
- ※ この道、酋長の娘



竹内綱先生胸像と教職員・玄関の向って右側に建立された。



竹内綱先生胸像除幕式・本県出身の彫塑家本山白雲氏作（戦時中供出されて姿を消した）

五月四日 本日は本校創立十五周年記念日にして本校創立者竹内綱先生胸像除幕式を挙行すること、前日來の式場裝飾等萬般の準備整頓し當日午前十時より擧式せられたり來賓としては縣知事閣下縣官市長縣會議員各中等學校校長市内小學校長教育會長實業家其他の紳士卒業生等無慮二百餘名を算し中村教頭開式の挨拶を行ひ島田教諭工事報告書を朗讀し竹内強一郎氏の手により除幕を行はれ綱先生の温乎たる風姿校庭に浮び出づるや滿場寂として暫くの間感慨に耽り次て吉崎校長の式辭並に來賓各位の祝辭卒業生の祝電等の朗讀あり竹内家の挨拶の後閉會の挨拶ありて嚴肅にして歡喜の裡に式を終り別室にて來賓に茶菓の饗應をなし一同退散せり而して午後一時より竹内綱先生織田信福先生を初めとして物故せる職員生徒在校生等の追悼會を催し職員生徒卒業生一同參列し故人遺徳を忍びて之れ亦嚴肅に式を終りたり其夜は中島町カフエーララジにて職員卒業生七十餘名相會し祝宴を開き歡談湧くが如き盛況なり

◆本校創立者竹内綱先生ノ胸像ヲ校庭内ニ建設シ先生ノ高德ヲ永久ニ傳ヘンガ爲同志相圖リ大正十四年十月寄附金募集ニ着手ス寄附人員一千餘名其金額一千三百餘圓ニ達ス同年十二月工事ニ着手シ大正十五年四月竣工セリ
基礎ハ栗石上ニ六尺平方厚サ一尺ノ混凝土工事ヲ施シ其上ニ五尺平方ノ花崗石ノ臺石ヲ置キ高サ五尺ノ軸石上ニ胸像ヲ建ツ而シテ臺石ノ周圍ニハ砲金製ノ柵ヲ設ケ柵廻リ五寸ノ臺石ヲ廻シタリ
胸像ハ本山白雲氏ノ作青銅製ニシテ高サ二尺五寸竹内家ヨリ特ニ寄附セラレタルモノナリ石材ハ岡山縣万成産ノ花崗岩ニシテ本山氏設計セラレ土居鶴尾氏其工事ヲナセリ其經費總額一千貳百餘圓ナリ
右報告ス
大正十五年四月
高知縣立高知工業學校同窓會
竹内綱先生胸像建設委員 島田比樂



〔中等学校連合運動会優勝の庭球部〕

思い出

中屋伝太郎（大15電卒）

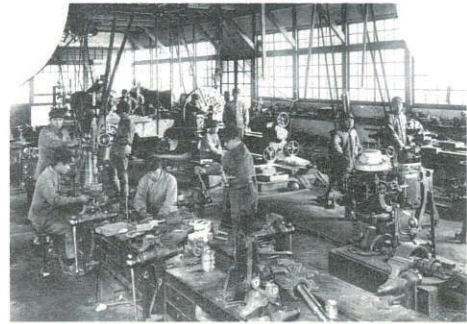
松岡 隆（大15機卒）

入学試験は国語・算数・習字・絵画（馬の絵をかかされました）とがあり6倍以上の競争率で入学するには仲々きびしかったです。郡部からも多くの受験生がきておりましたし、高等からきた人もおりましたので私達はオンチャンが来ていると思ったことでした。受験料を持っていったときに漢文の森田先生がいてお前は仲々良い番号（150番）だから必ず通ると言ってくれました。

入学したときには教科書がなくて先生がプリントしたものを使っておりました。また先生が講義するのを全部ノートに筆記することもしばしばありました。しかしこれが後で非常に役立ちました。島田比楽先生は授業中に馬鹿話をしながら、ひょいと黒板を裏返してハイ、これを休み時間に写しときなさいと言ってさっさと教室を出てゆくこともありました。

宮地のゴリ先生はすぐに覚ええました。受験室に先生が入ってきたときに生徒みんなが笑ったら、なにがおかしいかとすぐ怒られました。あ、これが有名なゴリ先生であるとすぐわかりました。

当時は相撲の選手が一番人気がありました。いろんな大会で



〔機械工場〕



〔機械科の団楽〕

活躍していました。私は庭球部に入部しましたが庭球も仲々盛んでした。成績の方は中等学校6校中5位でした。私が4年生になった時分から成績が良くなり大阪の濱寺で行われる全国大会にも2年連続出場しました。そして深田と組んで5年生のときには優勝し高知県のチャンピオンとなりました。これ以後工業は常にトップクラスにランクされていました。

校歌は入学したときにはまだ出来なくて13年頃に出来ました。最初は、風かおる………となっていました。早稲田の相馬先生に校閲を受けたらだめだと言われて鯨鯨吼ゆる………に変わると聞いています。

修学旅行は2週間位かけて行きました。船で神戸までゆきそこから大阪・京都・奈良・伊勢・東京・日光と時間がかかりました。生徒はみんな月謝のほかに毎月70銭積立をして費用をつくりました。

軍事教練もスベリ山でよくやりました。勉強の方も大方難しい事をやっておりました。お陰で就職したとき他校からきた生徒と比べて優位に立つことが出来ました。先生方が進んだ事を教えてくれましたので大へん良かったと思った事でした。

私はテニスの成績が良かったので成績が（勉強の）良くなければ就職出来なかった東京電力にノーパスで入る事が出来ました。就職してからテニスを毎日続けてやり上手になったので毎週優勝しておりました。あるときに林譲二代議士の勧めで鳩山首相の音羽御殿で試合をする光栄に浴しお茶をご馳走になった思い出もあります。また走ることも速かったのでロスオリンピックで三段跳で優勝した織田幹雄と一緒に練習で走った事もあります。



〔中等学校連合運動会優勝の野球部〕